

課内保存用

※配付厳禁※

平成15年度 ジュニアスタディーツアー

Junior Study Tour 2003

報告書



アルゼンチン



ボリビア



ブラジル



カナダ



キューバ



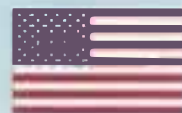
日本



ペルー



フィリピン



アメリカ

◎ 沖縄県

(財) 沖縄県国際交流・人材育成財団

は じ め に

ジュニアスタディーツアーは、海外及び日本本土の沖縄県系人子弟を本県に招待し、地元の中・高校生と一緒に沖縄の歴史、文化、自然等を学んでもらい、沖縄との絆を深め、次世代のウチナーネットワークの担い手を育成する事を趣旨とする事業です。

平成15年度は、平成15年7月21日から7月28日の1週間の日程で実施致しました。今回のツアーには、海外8カ国13の沖縄県人会から参加者19名と引率者9名、兵庫県の県人会から2名、愛知県の県人会から1名、そして沖縄県内の中学・高校生22名が参加して、県内各地で様々な体験学習を行い、充実した日程を無事修了しました。

ツアー期間中、参加者は首里城を見学して沖縄県が琉球王国だった頃の歴史を学ぶとともに、紅型や三線等の体験学習をとおして琉球王朝時代に育まれた沖縄の伝統文化に触れました。また、古の沖縄のみならず、国際通りの散策、県庁見学等を通して現在の沖縄も学習しました。さらに糸満市摩文仁の平和祈念公園では平和の礎や平和祈念資料館を見学することにより、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。山原での自然学習では、参加者同士が協力しながら比地大滝に登り、海洋博記念公園の美ら海水族館、本島西海岸のリゾートビーチを楽しみ、沖縄の自然も十二分に満喫したと思います。

海外からの参加者については、その殆どが初めて沖縄を訪問したと伺っています。このツアーをとおして、彼らのルーツとしての沖縄に対する認識を深めるとともに、参加者との友情を育み、数々の思い出を胸に帰国したことと思います。県外、県内からの参加者については、沖縄の良さを再認識するとともに、海外参加者との交流をとおして世界中に広がるウチナーンチュネットワークを実感することができたと思います。

この報告書は、ツアーの全日程や写真とともに参加者や引率者の感想をまとめたものです。この冊子が生涯に渡る記念になるとともに、参加者がこのツアーの経験を糧に国際的に活躍する人材へと成長し、将来のウチナーネットワークを担う一員として活躍することを期待しています。

終わりに、平成15年度ジュニアスタディーツアーの実施に御協力を頂いた多くの関係者の皆様に感謝の意を表し、発刊のあいさつといたします。

平成15年10月

沖縄県文化環境部 部長 屋嘉部 長市

ジュニアスタディーツアー報告書

目 次

はじめに

目 次

感想文目次

■ 概 要	1
■ スケジュール	2
海外参加者出迎え	6
7月21日(月)	7
7月22日(火)	8
7月23日(水)	9
7月24日(木)	10
7月25日(金)	11
7月27日(日)	12
帰 国	13
■ ジュニアスタディーツアーに参加して	15
■ 資料編	91
受入実績	91
平成15年度参加者名簿	92
平成13年度・平成14年度参加者名簿	94
協力団体・制作物	99
参加申込書	100
パーティー式次第	101
評価と反省・要望点	102
新聞記事	103
世界で活躍するウチナアンチュ	107

感想文人名別索引

■海外参加者

新城 真由美(ブラジル)	15
Monica Mayumi Arashiro	
仲村 カロリーナ ミドリ(ブラジル)	17
Carolina Midori Nakamura	
新里 チエミ アンネ(ブラジル)	18
Anne Thiemy Suzuki Shinzato	
井口 セシリア ミドリ(アルゼンチン)	20
Iguchi Cecilia Midori	
諸喜田 マリネ(アルゼンチン)	23
Shokida Marine	
仲本 山城 ダニエラ(ペルー)	25
Nakamoto Yamagusuku Daniella	
渡慶次 山城 マリア ガブリエラ(ペルー)	27
Tokeshi Yamagusuku Maria Gabriela	
神谷 ナオミ(ボリビア)	30
Kamiya Pedraza Naomi	
比嘉 浩二(ボリビア)	32
Higa Koji	
アレマン レオナルド ホルヘ	33
エルネスト(キューバ)	
Aleman Leonard Jorge Ernesto	

キャサレン アーヌ 城間(ハワイ)	34
Katharine Anne Shiroma	
タイ ジン コバシガワ(ハワイ)	38
Ty Jin Kobashigawa	
玉城 由美(アメリカ)	41
Tamashiro Yumi	
柳田 コリン タケシ(アメリカ)	43
Yanagida Colin Takeshi	
アシュリー フリック(アメリカ)	46
Ashley Frick	
仲原 オリバー 竜司(カナダ)	48
Nakahara Oliver Ryoji	
ディナマエ エロイ リエゴ(フィリピン)	51
Llego Dinahmae Eroy	
パトリシア レジーナ ノセダ ロペス(フィリピン)	55
Lopez Patricia Resyna Noceda	
レドナ ジェニファー 祐紀(グアム)	58
Redona Jennifer Yuki	

■県内参加者

比嘉 淳子	Higa Junko	59
吉村 苑華	Yoshimura Sonoka	59
高良 南	Takara Minami	60
玉城 幸	Tamashiro Miyuki	61
安次富 紗綾香	Ashitomi Sayaka	61
比嘉 こなみ	Higa Konami	62
安里 みちよ	Asato Michiyo	62
新垣 怜子	Arakaki Reiko	63
新崎 奈央	Arasaki Nao	63
前田 那美子	Maeda Namiko	64
大本 紗哉	Ohmoto Saya	65
金城 美菜	Kinjo Mina	66
大城 桃香	Oshiro Momoka	66

真栄城 智恵美	Maeshiro Chiemi	67
稲福 陽香	Inafuku Haruka	68
村吉 梨華子	Murayoshi Rikako	68
宮本 詩織	Miyamoto Shiori	69
島袋 希	Shimabukuro Nozomi	70
山城 貴徳	Yamashiro Takanori	70
比屋根 安尚	Hiyane Yasunao	71
長嶺 一司	Nagamine Kazushi	71
古波蔵 直子	Kohagura Naoko	72

■県外

小山 奈未	Koyama Nami	73
上原 勝也	Uehara Katsuya	74
金城 幸代	Kinjo Sachiyo	75

■引率者

屋富祖 正一	Yafuso Masakazu (カンポグランデ沖縄県人会)	76
安座間 平敷 ファン 喜勝	Azama Heshiki Juan Yoshikatsu (ペルー沖縄県人会)	77
比嘉 次雄	Higa Tsugio (ボリビア沖縄県人会)	79
上間 大兼久	Holhe Jorge Uyema Oganeku (キューバ沖縄県人会)	80
タランティニ 裕子 伊波	Tarantini Hiroko Jean Iha (北米沖縄県人会)	82
曾野 知雄	Sono Tomoo (ニューヨーク沖縄県人会)	83
島袋 カオル ネーディー	Shimabukuro Kaoru Nadine (ハワイ沖縄連合会)	85
アセルデン マリア コラソン エバンヘリオ		
Maria Corazon Evangelio Acerden (フィリピン沖縄県人会)		89
奥濱 レドナ 悦子	Okuhama Redona Etsuko (グアム沖縄県人会)	90

平成15年度 ジュニアスタディーツアー 事業概要

1. 趣旨

海外県系人子弟を沖縄県に招待し、県内外の生徒とともに、沖縄の歴史、文化、自然などの体験学習をとおして、母県・沖縄との絆を深めることにより、県系人社会の発展とウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献する。

2. 事業内容

実施時期 平成15年7月21日（月）～7月28日（月）

参加者	海外参加者	中高校生	19名（海外沖縄県人会の推薦）
			ブラジル・アルゼンチン・ペルー・ポリビア・アメリカ
			カナダ・キューバ・フィリピン・グアム
	県内参加者	〃	22名（県内全域より）
	県外参加者	〃	3名（県外沖縄県人会の推薦）

学習プログラム

（1）自然学習

世界有数の美しい海と山原の自然、生物にふれあいながらその大切さを学ぶ。

（2）歴史学習

首里城をはじめ、ユネスコ世界遺産に登録された琉球のグスクを巡りながら、沖縄の歴史とロマンに触れる。

（3）文化学習

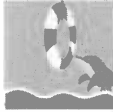

三線、エイサー、伝統芸能、空手等の体験学習をする。

（4）平和学習

南部戦跡、平和祈念資料館、平和の礎等を見学しながら、平和の意味を考える。



（5）沖縄の社会学習

県庁訪問、米軍基地、沖縄の産業等を学ぶ。

月日 時間	7月16日(水)~ 20日(日)	7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)	7月28日(月)
7:00			起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食		
8:00									8:40 JAL900 キューバ2名
9:00	海外来沖日	10:15 ANK432 石垣1名	社会学習 ・県庁内見学	歴史学習 ・首里城		自然学習2(海)			9:15 アシアナ171 ニューヨーク2名
10:00		10:30 JAL493 名古屋1名			自然学習1(山) ・やんばるエコツアー 比地大滝	海洋博記念公園 ・美ら海水族館	ホームステイの家族へ引 き渡し(恩納村)		11:10 ANA1734 カルガリー1名 ハワイ3名
11:00		11:00 JAL801 兵庫1名	・県庁表敬 県民ホール 記念写真 国際通り散策	嘉手納基地通過	2班に分かれて 同じコースを体験 やんばる野生生物 保護センター		ホームステイの家族へ引 き渡し(北谷町)		11:45 ANA124 ブラジル4名 アルゼンチン2名 ボリビア3名
12:00	7月16日 23:00 JTA059 キューバ2名	11:00 県内参加者集合 (財)沖縄県国際交流・人 材育成財団		昼食		昼食	ホームステイの家族へ引 き渡し(那覇)		12:15 ANK435 石垣1名
13:00		集合:(財)沖縄県国際交 流・人材育成財団 オリエンテーション	昼食		昼食	・ピーテレクリエーション			13:05フィリピン427 フィリピン3名
14:00	7月18日 16:05 フィリピン430 フィリピン3名			伝統工芸体験 ○紅型					13:45 JAL896 ペルー3名 北米2名 ワシントン1名
15:00	16:10 ANA1735 グアム2名 ハワイ3名	宿泊先へ移動	平和学習 ・平和祈念資料館 ・平和の礎 ・平和祈念堂	伝統芸能体験 ○三線 ○舞踊 ○空手	1つ 社会学習 ・万国津梁館				13:50 JAL804 兵庫1名
16:00		交流プログラム				バスで宿泊先へ 宿舎着			15:30 ANA1736 グアム2名
17:00	18:00 ANA489 ニューヨーク2名								17:00 JAL498 名古屋1名
18:00						夕食 パーベキュー キャンプファイヤー			
19:00		ウェルカムパーティー ・船員会館研修室にて	夕食 ・宿泊先で 交流プログラム	夕食 ・宿泊先で	夕食 ・宿泊先で			さよならパーティー ・沖縄都ホテル	
20:00	21:20 JTA189 ペルー3名								
21:00	22:00 ANA1739 北米2名 ワシントン1名 カルガリー1名								
22:00	22:30 ANA131 ブラジル4名 アルゼンチン2名 ボリビア3名	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝			
宿泊先	ホームステイ (親戚知人宅)	船員会館:那覇市前島	船員会館:那覇市前島	ペンション 「キャロライナ」	ペンション 「キャロライナ」	ペンション 「キャロライナ」	ホームステイ (親戚知人宅)	ホームステイ (親戚知人宅)	



ホームステイ
Homestay

ホームステイ
Homestay

Day Time	18~20/July	21/July (Mon.)	22/July (Tue.)	23/July (Wed.)	24/July (Thurs.)	25/July (Fri.)	26/July (Sat.)	27/July (Sun.)	28/July (Mon.)
7:00			Wake-up time Breakfast	Wake-up time Breakfast	Wake-up time Breakfast	Wake-up time Breakfast	Wake-up time Breakfast		
8:00									Departure 8:40 JAL900 Cuba
9:00	Arrive in Okinawa 		Visit the Okinawa Prefectural Government	•Shurijo Castle					9:15 ANA171 New York
10:00					•Yanbaru Ecology Tour	Ocean Expo Park •Aquarium	Meet host families at the lodge(First group)		11:10 ANA1734 Calgary Hawaii
11:00			Naha city Tour				Meet host families (Second group)		11:45 ANA124 Brazil Argentine Bolivia
12:00	15-Jul 23:00 JTA559 Cuba			Lunch		Lunch			13:05 Philippine427 Philippines
13:00		13:00 Meeting place: Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF) Orientation	Lunch	Culture & Performing arts class	Leave Yanbaru	•Recreation at beach	Meet host families at OIHF (Last group)		13:45 JAL896 Peru Los Angeles Washington
14:00	18-Jul			○Sanshin ○Buyo (Ryukyu dance) ○Karate					
15:00	16:05 Philippine430 Philippines	Arrive at the hotel	•Peace Prayer and Memorial Park	•Eisa dance show	•Bankokushinryokan				15:30 ANA1736 Guam
16:00	16:10 ANA1735 Guam Hawaii	Interchange program	•Cornerstone of Peace	Traditional arts class					
17:00			•Peace Prayer and Memorial Hall		Return to the lodge				
18:00	18:00 ANA489 New York								
19:00		Welcome Party	Dinner at the hotel	Dinner at the hotel	Dinner	Dinner (B.B.Q)		Farewell Party with host families	
20:00	21:20 JTA189 Peru		Recreation			Campfire			
21:00	22:00 ANA1739 Los Angeles Washington Calgary								
22:00	22:30 ANA131 Brazil Argentina Bolivia	Bed time	Bed time	Bed time	Bed time	Bed time			
Lodging	Overnight stay at host family's	Hotel Senin Kaikan	Hotel Senin Kaikan	Pension Carolina	Pension Carolina	Pension Carolina	Overnight stay at host family's	Overnight stay at host family's	


ホームステイ
Homestay

ホームステイ
Homestay

	18~20/Julio	21/Julio (Lunes)	22/Julio (Martes)	23/Julio (Miércoles)	24/Julio (Jueves)	25/Julio (Viernes)	26/Julio (Sábado)	27/Julio (Domingo)	28/Julio (Lunes)
7:00			Levantarse Desayuno	Levantarse Desayuno	Levantarse Desayuno	Levantarse Desayuno	Levantarse Desayuno		Regreso al país
8:00									8:40 JAL900 Cuba
9:00	Llegada a Okinawa		Visita Oficial al Gobernador de Okinawa (Kencho)	Visita : •Castillo de Shuri					9:15 777+171 New York
10:00					•Ecoturismo por Yanbaru	Ocean Expo Park •Acuario		Encuentro con los familiares de Okinawa (primer grupo)	11:10 ANA1734 Calgary Hawaii
11:00	16/Julio		Paseo por la ciudad de Naha					Recibimiento(segundo grupo)	11:45 ANA124 Brazil Argentina Bolivia
12:00	23:00 JTA059 Cuba	13:00 Lugar de reunión: Fundación Internacional de Intercambio y Desarrollo Recursos Humanos de Okinawa (OIH F) Orientación	Almuerzo	Almuerzo		Almuerzo			13:05 Philippine427 Philippines
13:00			Almuerzo	Clase de artesanía tradicional		•Recreación en la playa		Recibimiento(último grupo) : OIHF en Naha	13:45 JAL896 Peru Los Angeles Washington
14:00	18/Julio			Práctica de artes tradicionales ○Sanshin ○Buyo (Baile Ryukyū) ○Karate	Salida de Yanbaru				
15:00	16:05 Philippine430 Philippines	Llegada al hotel	Parque Conmemorativo de la Paz •Lápida de la Paz •Templo	•Bankokusinryokan					15:30 ANA1736 Guam
16:00	16:10 ANA1735 Guam Hawaii	Programa de intercambio		Show de Eisa					
17:00						Llegada a la Pensión			
18:00	18:00 ANA489 New York								
19:00		Fiesta de Bienvenida	Cena en el hotel	Cena en el hotel	Cena en el hotel	Cena (Barbacoa)		Fiesta de despedida	
20:00	21:20 JTA189 Peru			Recreación		Fogata			
21:00	22:00 ANA1739 Los Angeles Washington Calgary								
22:00	22:30 ANA131 Brazil Argentina Bolivia	Hora de acostarse	Hora de acostarse	Hora de acostarse	Hora de acostarse	Hora de acostarse			
Alojamiento	Estadía con la familia de Okinawa	Hotel Sen'in Kaikan	Hotel Sen'in Kaikan	Pensión Carolina (Norte de Okinawa)	Pensión Carolina (Norte de Okinawa)	Pensión Carolina (Norte de Okinawa)	Estadía con la familia de Okinawa	Estadía con la familia de Okinawa	

ホームステイ
Homestay

ホームステイ
Homestay

	18~20/Julho	21/Julho (2a)	22/Julho (3a)	23/Julho (4a)	24/Julho (5a)	25/Julho (6a)	26/Julho (Sábado)	27/Julho (Domingo)	28/Julho (2a)
7:00			Acordar Café da manhã	Acordar Café da manhã	Acordar Café da manhã	Acordar Café da manhã	Acordar Café da manhã		Retorno ao país
8:00									8:40 JAL900 Cuba
9:00	Chegada em Okinawa 		Visita oficial ao Governador de Okinawa	Castelo de Shuri					9:15 777+171 New York
10:00					Ecoturismo em Yanbaru	Ocean Expo Park ·Acuario	Encontro com as famílias de Okinawa para homestay(na Praia)		11:10 ANA1734 Calgary Hawaii
11:00			City Tour em Naha						11:45 ANA124 Brazil Argentine Bolivia
12:00	15/Julho 23:00 JTA059 Cuba	13:00 Lugar de reunião Fundação de Intercâmbio Internacional e Desenvolvimento de Recursos Humanos de Okinawa(OIHF)	Almoço	Almoço	Almoço	Almoço	Encontro		13:05 Philippine427 Philippines
13:00		Reunião de orientação		Aulas de Cultura e Artes Tradicionais	Saída Yanbaru	Recreação na praia	Encontro (na OIHF)		13:45 JAL896 Peru Los Angels Washington
14:00				○Sanshin ○Buyo (Dança de Okinawa)					
15:00	18/Julho 16:05 Philippine430 Philippines	Chegada ao alojamento	Museu Memorial da Paz	○Karate Eisa	Bankokushinryokan				15:30 ANA1736 Guam
16:00	16:10 ANA1735 Guam Hawaii	Programa de intercâmbio	Lápide da Paz Pavilhão da Paz	Aulas de Lições de Artesanato de Okinawa					
17:00						Chegada ao alojamento			
18:00	18:00 ANA489 New York								
19:00		Festa de Boas-vindas	Jantar	Jantar	Jantar	Jantar (Churrasco)		Festa de Despedida	
20:00	21:20 JTA189 Peru					Fogueira			
21:00	22:00 ANA1739 Los Angels Washington Calgary		Recreação						
22:00	22:30 ANA131 Brazil Argentina Bolivia	Hora de dormir	Hora de dormir	Hora de dormir	Hora de dormir	Hora de dormir			
Alojamento	Estada na casa anfitriã	Hotel Senin Kaikan	Hotel Senin Kaikan	Pension Carolina	Pension Carolina	Pension Carolina	Estada na casa anfitriã	Estada na casa anfitriã	-

ホームステイ Homestay

ホームステイ Homestay

海外参加者出迎え

スケジュール

- 7月16日 キューバ
- 7月18日 フィリピン
- グアム
- ハワイ
- アメリカ
- ペルー
- カナダ
- ブラジル
- アルゼンチン
- ボリビア

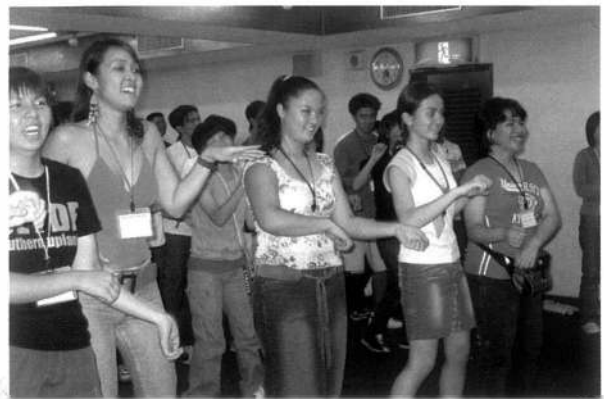


平成15年7月21日(月)

スケジュール

オリエンテーション
交流プログラム
ウェルカムパーティー

15年度 ジュニアスタディーツ
Junior Study Tour 2003



平成15年7月22日(火)

スケジュール

県庁表敬
国際通り散策
平和学習 ・ 平和祈念公園
交流プログラム



平成15年7月23日(水)

スケジュール

歴史学習

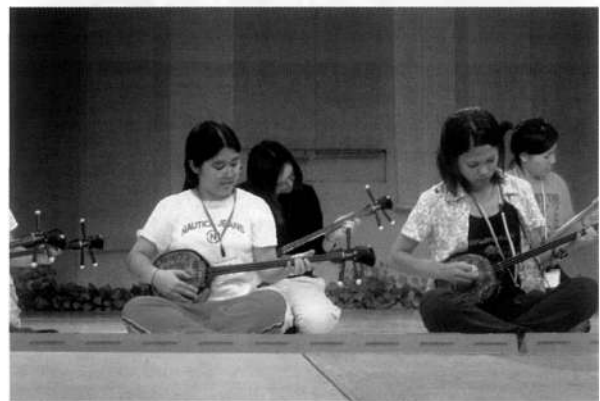
・首里城

伝統工芸体験

・紅型作り

伝統芸能体験

・三線、空手、琉球舞踊



平成15年7月24日(木)

スケジュール

自然学習1 (山) ・やんばるエコツアー
社会学習 ・万国津梁館・名護パイナップルパーク



平成15年7月25日(金)



スケジュール

自然学習 2 (海) ・海洋博記念公園
・ビーチレクリエーション

バーベキュー
キャンプファイヤー



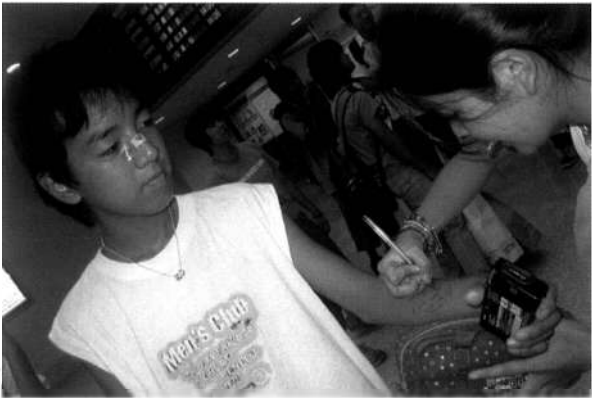
平成15年7月27日(日)

スケジュール

さよならパーティー ・ 沖縄都ホテルにて



帰国





ジュニアスタディーツアーに参加して



新城 真由美

Monica Mayumi Arashiro

17歳 3世

ブラジル Brazil

ブラジル沖縄県人会



まだ一度も訪れたことのなかった沖縄へ「帰省」できた経験についてここで話出来ることは本当に嬉しいことです。ジュニア・スタディ・ツアーを通じて、今まで想像もできなかったような一生の体験ができました。那覇に着いたとき、何もかも知っているものとは違っていました。馴染みやすいものを感じました。私のおばあ、母方と父方双方の叔父叔母にも会えました。叔父叔母らはお互い面識がなかったのですが、この交流のおかげで親族の縁が深まったようです。

同年齢の参加者と知り合った時、私は驚きました。何故なら、全然違う国の若者たちではありましたが、まるで兄弟のように感じたからです。沖縄県庁、たくさんシーサー、ゴーヤから作られた色々な食品などがある国際通り、圧巻の建築物である首里城、沖縄県が大事にし、保護に力を入れているために、自然環境が豊かで魅力溢れる山原地方、そしてあらゆる種類のカラフルな魚が観られた海洋博公園を訪ねました。

ツアー中、二度、唄と三味線で「安里屋ユンタ」を発表しました。多くの参加者が一緒に唄ってくれ、手拍子であわせてくれた人もいたので、感激しました。また、他の参加者も舞台にあがって唄ってもらい、また踊るよう誘いました。ホームステイ中、叔父のテルオおじさんからプレゼントに三味線を頂きました。彼が長年愛用していた物でしたが、その三味線で、私の趣味であるこの楽器により一層励むための大きな刺激になっています。

また、キャンプファイヤーもあり、チーム同士のゲームや、日本のポップ音楽の踊りも習いました。私たちも、ブラジル音楽の踊りを教えました。信じられないような連帯感が出来ました。

一番印象深かったのは、平和祈念公園でした。防空壕を再現した洞窟がありました。逃げ込んだ家族は恐怖と飢えに駆られ、アメリカの戦車の音が近づいて来るのを聞いていたのです。身の毛もよだつ体験です。私達が今ここにいることが出来るのは、私たちの祖先が多くの苦勞をし、戦い抜いてきたからです。だから、私たちは彼らのその戦いを残すべきだと思いました。

さよならパーティーは、これでみんなと一緒にいられるのは最後だと解っていたので、とても感動的でした。私たちの多くは二度と逢えないかもしれない、あるいは再会できたとしてもかなり時間がかかることでしょう。それと同時に、私たちの運命ははっきりと道しるべが立てられていること、そして一緒に体験したことを二度と忘れることはないということを知っていました。

ウチナーンチュであることは私の誇りです。私のルーツに対する誇りは益々強まっています。この体験のおかげで、目標がより明確になり、世界や人々に対する視野が広がりました。

神様、この機会を与えて下さった責任者の皆さま、稲嶺恵一知事、沖縄県、主催者の皆さま、ブラジル沖縄県人会、そしていつも私を支援してくれた家族の皆様、ありがとうございました。

“É com grande felicidade em meu coração que estou aqui para contar a minha volta à Okinawa, mesmo nunca tendo ido lá anteriormente. Através do Junior Study Tour 2003, tive uma experiência única que jamais pude imaginar viver. Ao chegar em Naha, tudo era diferente para mim e ao mesmo tempo familiar. Encontrei minha Oba e meus tios da parte da minha mãe e meus tios da parte do meu pai que não se conheciam, mas que graças ao intercâmbio os laços de família se solidificaram.

Quando conheci os outros participantes da minha idade fiquei impressionada. Pois mesmo sendo jovens de outros países tão diferentes, senti como se fôssemos irmãos.

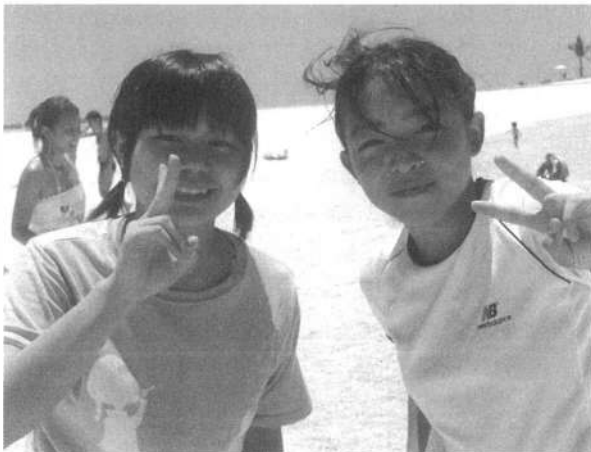
Conhecemos a Prefeitura de Okinawa, a Avenida Kokusai, onde encontramos muitos shissás e todo tipo de alimento feito a base de “Goya”, o Castelo de Shuri do qual a arquitetura se impõe, Yanbaru que possui uma fauna rica e encantadora pois é muito valorizada por Okinawa e portanto fortemente preservada, e no Ocean Expo Park vimos peixes coloridos e de todo tipo.

Duas vezes durante o intercâmbio me apresentei cantando e tocando “shamissen” com a música Assadoyá Yuntá. Muitos puderam cantar comigo ou simplesmente acompanhar com palmas o que me deixou muito

emocionada. Em uma dessas apresentações convidei outras participantes para cantarem comigo no palco e também dançar. Durante o Homestay meu tio Teruo me deu um presente. Era um “shamisen”. E que pertencia a ele há anos e que agora, está sendo para mim um grande incentivo para me dedicar mais a esse instrumento que é meu hobby.

Houve um dia que fizeram uma fogueira, tivemos um jogo entre equipes, em que aprendemos a dançar músicas pop japonesas enquanto que os outros participantes também aprenderam a dançar músicas brasileiras. O entrosamento foi incrível.

O lugar que mais me marcou foi o Parque Memorial da Paz. Recordo-me de uma gruta que simulava um esconderijo de família utinanchu, que, com medo e com fome, ouviam o som de um tanque de guerra americano se aproximando cada vez mais. Dá arrepio e lembramos que nossos antepassados sofreram e batalharam muito para estarmos aqui hoje, portanto devemos preservar todos esses valores.



A festa de despedida foi emocionante, pois sabíamos que provavelmente seria o último dia de todos nós estarmos juntos. Alguns de nós nunca mais iríamos nos encontrar ou demoraria a nos ver novamente. Mas ao mesmo tempo, sabíamos também que nossos destinos foram traçados e que jamais iríamos nos esquecer daquilo que vivemos.

Sou muito privilegiada de ser utinanchu, e cada vez mais tenho mais orgulho das minhas origens. Depois dessa experiência estou com minhas metas mais claras tendo uma visão mais ampla do mundo e das pessoas.

Obrigada a Deus, a todos responsáveis por essa oportunidade, ao governador Kenichi Inamine, à Prefeitura de Okinawa, a todos os organizadores e autoridades, à Associação Okinawa Kenjin do Brasil e à minha família que sempre me apoiou tanto.

Até a próxima!





仲村 カロリーナ みどり

Carolina Midori Nakamura

18歳 2世

ブラジル Brazil

ブラジル沖縄県人会



今回、2003年度のジュニア・スタディ・ツアーに参加させて頂きました。ジュニア・スタディ・ツアーは、私の記憶に鮮烈な印象を与えました。ここブラジルから出発する時には、日本語は基礎しか話せず、英語は全く解らなかったのが不安でしたが、交流を始める時にはスタッフの方々が出来るだけアットホームな雰囲気を作るようにしてくれました。沖縄には10日間滞在しました(7月18日～28日)。

ホームステイ中、写真でしか知らなかった親戚の家に滞在しました。ツアーの5日間、那覇市内の観光、県庁訪問、第二次世界大戦の犠牲者を追悼した平和祈念資料館、そして琉球王国の官邸だった首里城を訪ね、玉泉洞では沖縄の舞踊について学びました。山原には沖縄最大の滝である比地大滝があり、海洋博公園にはイルカショーや、水族館や海岸がありました。

その期間中、本場の沖縄そばから日本のバーベキューまで味わいました。パーティやゲームやキャンプファイアにも参加しました。

最終日には送別会をして頂き、ジュニアスタディツアーの修了証をもらいました。そのあとは、みんなで歌って、疲れて、そして泣いて、とても楽しみました。

沖縄では色々な言葉や文化をもつ人たちと出会い、彼らと共存することを覚えました。何よりも、沖縄の文化について学びました。ほとんどブラジルで教えられた通りでしたが、それを保持している人が少ないことが解りました。

日本語も少し上達することが出来ました。親戚の人たちにも逢うことができ、ブラジルのことを教えました。また、現在も連絡を取り合っている多くの友達を作ることができ、両親の故郷を訪ねるという夢が叶えられました。そして私は必ず、この素晴らしいウチナンチュの精神を私の子孫達に伝え、継承させていきます。ジュニアスタディツアーの主催者の皆さまに御礼を申し上げます。私の今の幸福は、皆さんのおかげです。

“Sou Carolina Midori Nakamura, tenho 18 anos, no momento sou estudante, e participei do Junior Study Tour 2003. O Junior Study Tour deixou uma forte lembrança em minha mente. Eu embarquei daqui do Brasil com uma certa insegurança, pois sei falar o básico da língua japonesa e nada sei do inglês, mas quando reunimos para começar o intercâmbio, o pessoal da organização fez o possível para que nos sentíssemos em casa. Ficamos em Okinawa por dez dias (18 a 28 de julho).

Durante o Homestay fiquei na casa da família que só conhecia por fotografia. Nos cinco dias do intercâmbio passeamos por Naha, visitamos o governador, Museu Memorial da Paz onde o Governo de Okinawa fez uma bela homenagem para aqueles que faleceram na Segunda Guerra Mundial, o castelo de Shurijo foi a residência oficial dos Reis do Reino Ryukyu, no Gyokusendô aprendemos um pouco sobre o buyô (dança de Okinawa), em Yanbaru tem o Hiji Ohtaki que é a maior cachoeira de Okinawa, no Ocean Expo Park tinha show de golfinhos, aquário e praia. Durante todo este tempo comemos desde o verdadeiro Okinawa sobá até um tradicional churrasco, participamos de festas, games e fogueiras.

No último dia fizeram uma festa de despedida, onde ganhamos um certificado por ter participado do Junior Study Tour e cantamos, cansamos, choramos e nos divertimos.

Em Okinawa conheci pessoas de línguas e culturas diferentes e aprendi a conviver com todas elas, aprendi mais ainda sobre a cultura okinawa que não é tão diferente quanto ao que me ensinaram aqui no Brasil, mas poucos preservam isso, evolui um pouco da minha língua japonesa, conheci parentes, mostrei como realmente é o Brasil, fiz vários amigos que até hoje mantenho em contato e realizei um sonho meu que era ir para a terra natal de meus pais algum dia. E com certeza algum dia passarei este magnífico espírito utinanchu para meus herdeiros. Gostaria de agradecer a todos os organizadores do Junior Study Tour, toda esta minha felicidade eu devo a eles.”



新里 チエミ アンネ

Anne Thiemy Suzuki Shinzato

17歳 3世

ブラジル Brazil

カンポグランデ沖縄県人会



ジュニアスタディーツアーに参加することができ、沖縄の習慣と文化を心得てとても感動しました。初めて父の家族を知るチャンスができ、とても楽しみでした。沖縄の空港に着いた時、びっくりしました、皆さんとても暖かく迎えてくれました。

初めの二日間はおばの家にお世話になり、そこでは、沖縄の島のことを少し知ることができました。

グループでは、よい行動ができ、いろいろな友達ことができました。みんなで楽しく観光しました。沖縄県庁内を見学することができ、その上、記者がたくさんいたのでびっくりしました。

または、国際どおりというおりに、いろんな文化がふくまれている様に見えました。

どの料理もきれいに飾られていて、とてもおいしかったです。

世界遺産でもある首里城にも行きました。たて物はかんどうてきで、城にある絵は 私たちに何か伝えているようでした。それから、りゅうきゅうむらへ行き、そこでは、空手、三味線、舞踊を習いました。

私たちは森の中も散歩しました。あまり運動しないので、死にそうでした。滝にやっとなつたときは疲れも忘れ、ずっとそのうつくしさを眺めました。それから、私たちは、動物保護センターへ行きました。そこでは、動物や植物を守ることをよく学びました。

水族館では、ものすごい海の生き物の数に驚きました。そして、ものすごいさめ！始めて見たのでその大きさにおどろきました。

沖縄の海は世界でも一番透明なうつくしい海だといわれています。すばらしい海にもぐったり、日に焼けたり、みんなと楽しみました。この日は最後の日だったので、後で、パーティーをしました。写真を撮ったり、遊んだり、サンバも教えました。おばの家でもホームステイをしました。

さようならパーティーでは 修了証をもらい、遅くまで話しました。

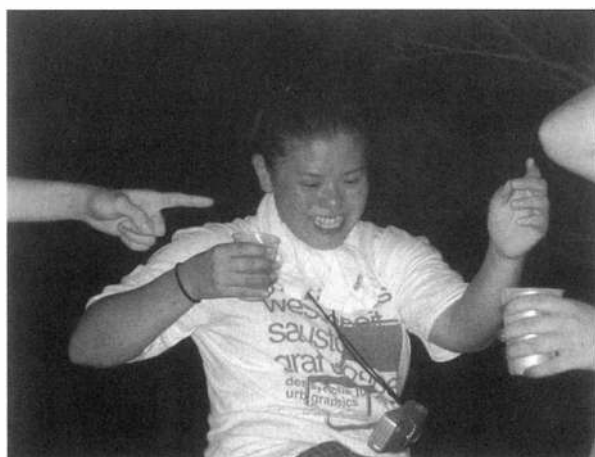
一週間だけでしたが、一生の友達ことができました。二度と忘れない楽しい毎日をありがとう！ジュニアスタディーツアーには大変お世話になりました。私にとって忘れることができない経験をくださってありがとうございます。心から感謝しています。

"Meu nome é Anne Thiemy Suzuki Shinzato, sou brasileira e fui uma das participantes do Junior Study Tour. Foi uma emoção saber que além de conhecer a cultura e costumes okinawanos, eu iria, finalmente, conhecer os descendentes de minha avó, nascida em Nagô. O dia que cheguei em Okinawa, foi uma surpresa, pois a receptividade das pessoas incluso dos organizadores da viagem, foi ótima.

Nos dois primeiros dias dormi na casa de minha tia, que acabara de conhecer. Neste intervalo de tempo, pude conhecer um pouco da ilha de Okinawa. No primeiro dia com o grupo de jovens, conseguimos nos interagir o suficiente para surgir um laço de amizade entre nós. A partir desse dia, passamos a visitar os pontos turísticos locais. Na governadoria de Okinawa, pude perceber a importância que eles deram a nossa visita permitindo a entrada em determinados departamentos que não são abertos ao público. Além disso, pude notar a imensa quantidade de câmeras e repórteres ao nosso redor querendo transmitir tal acontecimento a população local. Outro lugar que achei interessante foi a principal rua de Okinawa: Kokusai Doori. Ao andar naquele lugar percebi a grande diversidade cultural que existe lá. A culinária, por exemplo, é muito rica em detalhes e sabores. Não pudemos deixar de conhecer o castelo de Shuri, que é um verdadeiro tesouro a nível mundial. Sua arquitetura impressionant e, nos revela diferentes significados. Os desenhos, as esculturas do castelo não eram feitos à tona, eles tinham o objetivo de nos transmitir algo. Após esse passeio, fomos ao Ryukyu Mura onde tive algumas aulas de karatê, chamisen e Buyô. Até tive a chance de fazer "bingata" e descobri que não levo nenhum jeito para pinturas em tecido. No sexto dia em Okinawa, fizemos um passeio no meio de uma floresta, ou seja, essa caminhada exigiu muito do meu físico. Quase morri de tanto andar, mas quando chegamos na cachoeira, que era o nosso objetivo, simplesmente fiquei

apreciando tamanha beleza e acabei esquecendo do cansaço. Depois da caminhada fomos a um centro de tratamento de animais feridos e aprendemos a preservar a flora e a fauna okinawana. Depois de ter descansado bastante na pensão onde ficamos, fomos visitar o aquário. Fiquei impressionada pelo tamanho dos tanques de água e mais maravilhada com a enorme variedade de vida marinha que esses tanques continham. O tubarão baleia foi a atração principal do aquário depois dos shows dos golfinhos, que foi muito divertido. Em seguida fomos às praias, que são conhecidas internacionalmente pela beleza das suas águas límpidas. Foi maravilhoso mergulhar naquelas águas azuis. Adorei tomar sol, apesar de ter me queimado demais. Como esse foi o último dia de passeio junto com o grupo, fizemos uma festa, de noite, na pensão. Todos estavam animados, tirando fotos uns dos outros. Depois da janta, fizemos várias brincadeiras e até tentei ensinar a eles dançar samba.

No dia seguinte, nossos familiares nos buscaram para fazermos "home stay". Na festa de despedida (sayonara party) recebemos nossos certificados e ficamos reunidos até tarde. Infelizmente, tinha chegado o último dia em Okinawa. Nos reencontramos no aeroporto e tiramos mais fotos. Ao nos despedirmos, todos choraram, pois em tão pouco tempo conseguimos construir uma amizade sólida e forte. Queram que saibam que foi ótimo ter feito esse passeio com vocês. O Junior Study Tour foi uma ótima experiência pela qual passei. Gostaria de agradecer-lhes pela oportunidade de conhecer um pouco mais da minha cultura e por oferecer tal chance a essa geração de jovens descendentes de okinawanos."





井口 セシリア ミドリ

Iguchi Cecilia Midori

17歳 3世

アルゼンチン Argentina

在亜沖縄県人連合会



『いちやりば ちょーでー』

7月18日金曜22時30分、飛行機が那覇空港に着陸した時、期待と不安とうれしさの入り混じった感動がこみ上げて来ました。飛行機のドアが開いた瞬間、頭の中でたくさんの疑問が交差しました。あまりに感激が大きかったので、長旅の疲れもほとんど感じませんでした。ふと見ると目の前に長い旗が広げられていて、大勢の中からすぐに叔父と叔母を見つけることができました。心臓の鼓動が早くなり、ドアを通った時、実感したのです。皆が私にさまざまなことを話してくれていた地、そして私が想像の中で何回も訪れたことのある地について到着したのだ、と言うことを。とうとうやって来たのです。空港を後にしながら、私は「これからの数日間に何が起るのかな」と考えていました。今では答えが分かっています。「あんなに短い間にあんなにたくさんのことが起った」と言う答えです。親戚と過ごした最初の週末は、すばらしいものでした。それまでは写真でしか見たことのない大勢の親戚と、幸いに会うことができました。皆の暖かいおもてなしを受けて、着いてすぐにくつろいだ気分になりました。祖父がいつも親戚の人たちの話しをするたびに伝わってきた幸せな気持ちが、その人たちと実際にいっしょに過ごした間によく分かりました。あつと言う間に月曜日になりました。気がつくとは私は生徒でいっぱい教室に座って、回りを見回しながらどんな人たちだろうと考えていました。少し不安でしたが、同時にこれからの一週間がどんな風だろうと言う期待でいっぱいでした。この「オリエンテーション」で、初めてグループの生徒達と会いましたが、まだその時はこんなにすばらしいグループができるとは想像していませんでした。その夜は歓迎会が開かれ、踊ったりさまざまなゲームをしたり、この日のために準備された余興を楽しんだりしました。始めは少し恥ずかしかったのですが、皆と話したいと思いました。最初のうちはちょっと努力が要りましたが、すぐに暖かさや親しい雰囲気を感じました。言葉、年齢、文化の違いも気にせず、皆が近寄ってきて話しかけるのです。ツアーの間、一度も他の生徒達との間に壁を感じたことはありませんでした。意志さえあれば違いがなくなると言うことを発見しました。私はポルトガル語やタ

ガログ語の言葉を習い、ペルーやキューバやボリビアのアクセントでスペイン語を話すようになって、アルゼンチンに帰ったのです。

その後の数日間は気がつかない間に過ぎてしまいました。楽しすぎて、1時間が1分に思えるほどでした。毎朝早く起きてあちこち観光しました。短い間にいろいろな所を見て回りました。知事にお会いし、那覇の街を訪ね、平和公園を見学しました。この公園では、私自身も平和が現在どんなに必要で重要かをしっかりと実感することができました。このツアーは、各自が家に帰ってこの平和のメッセージを伝えるためにとても有益だったと思います。

首里城を見学した時は、私も重要人物になったような気がしました。城はとても印象的でした。靴を脱いで、城に入ると、「過去に戻る」感じがしました。午後には琉球村を訪れ、工芸講座とサンシン、舞踊、空手のいずれかを選択する伝統芸能講座を受けました。私はサンシンを選択しました。器用でない私には難しかったのですが、とても面白かったです。

やんばるでエコツアーをした時は、自分に冒険心があることを発見しました。大きなクモの横を通るとか、動く橋を渡るなど、以前には想像もしなかったことをしたのですから。急な上り、蒸し暑さ、疲れも、滝を見たときには報われました。その美しさは、本当に努力のかけがありました。遠足を終わった後も、私の足はまだ1人で歩き続けようとしてました。遠足の後、髪はぼうぼう、服は汗まみれのまま、万国津梁館を見学に行きました。自分達のだらしないかっこうが気になるほど、きれいな所でした。

最後に金曜日に海洋博公園を見学しました。あまりのすばらしさにびっくりしました。すてきなイルカのショーが2回ありました。それからもちろん海岸へ行きました。楽園のようでした。太陽がさんさんと輝く中で、泳いだりアイスクリームを食べたりしました。完璧なすばらしい午後でした。夜はバーベキューでしたが、始まる前からその夜は何か特別な空気が流れているようでした。皆で夕食を分け合う楽しさと、別れの悲しさが入り混じっていたからです。その日は感激に満ちた日でした。夕食の後キャンプファイヤーがあり、笑ったりサンバを踊ったり歓迎パーティの歌を歌った

り、いろいろなゲームをしたりしました。それぞれのグループが集まって、最後にグループ競争のゲームをしました。結果は、私たちグループは最後から2番目でしたが、お互いの間に競争意識がなく、とても楽しく過ごしました。皆最大限に楽しもうとしているのが分かりました。その夜はなぜか皆との関係が前より「親しく」なったと感じました。ずっと以前からの友達のように思え、遅くまでおしゃべりしました。この日がいっまでも終わらなければ良いと思いました。すべてがあまりにも早く過ぎ去って行きました。

27日、日曜日、ホテルの玄関で車から降りながら、まだその時がやって来たことが実感できませんでした。もうさよならパーティの日になったのです。本当にすばらしいパーティでした。夢のようで、いつ終わったかも気がつかないほどでした。気がついてみると、皆お互いに抱き合い、泣きながら、このすばらしい経験を分かち合えた幸福と同時に、翌日はそれぞれの家に帰らなければならぬと言う悲しさを感じていました。おしゃべり、笑い、一緒に過ごした時間に感謝します。心にいっまでも残る思い出いっぱい1週間に感謝します。スタッフと仲間の皆さん、私が皆さんを大切な友達と思っていることを忘れないでください。また出会う日まで（手紙でもメールでも、また本当に会える日まで...）お元気で。

“ICHARIBA CHODE”

(que significa: “luego del primer encuentro, todos somos hermanos”)

Eran las 22:30 hrs del viernes 18 de julio. Una mezcla de ansiedad, felicidad y temor surgió en mí al aterrizar en el aeropuerto de Naha. Numerosas preguntas cruzaban mi mente, mientras las puertas del avión se abrían, dándome la bienvenida a Okinawa. La emoción de encontrarme allí era tan grande que el cansancio del largo viaje apenas se sentía. De pronto, al levantar la vista, una larga bandera se extendió frente a mis ojos. Entre la multitud reconocí a mis tíos. Mi corazón comenzó a latir rápidamente. Fue entonces, al cruzar la puerta, cuando finalmente me di cuenta. Había llegado a la tierra de la cual tanto me habían hablado, al lugar al cual viajé incontables veces con mi imaginación... ¡Ya estaba allí! Mientras dejaba atrás el aeropuerto, me pregunté: “¿Qué pasará en estos días?”

Ahora puedo decir: “¡Pasaron tantas cosas en tan poco tiempo!”

El primer fin de semana con mis parientes fue maravilloso. Afortunadamente, tuve la posibilidad

de conocer a muchos de ellos, a quienes sólo conocía a través de fotos. Sin embargo, todos me trataron muy bien, haciéndome sentir de inmediato muy cómoda, sin importar lo reciente de mi llegada... Además, al compartir momentos con ellos pude sentir la alegría que me transmite mi abuelo cada vez que me habla de ellos...

El lunes llegó en un abrir y cerrar de ojos. De repente me encontré en un aula llena de gente, mirando a todos lados, preguntándome como sería cada persona que se encontraba allí. Estaba muy nerviosa, pero a la vez muy ansiosa por la inolvidable semana que se venía venir. Fue en esta “reunión de orientación” cuando por primera vez conocía al grupo, sin saber que terminaríamos formando un hermoso grupo... Esa noche tuvimos la fiesta de bienvenida, donde bailamos, jugamos a diferentes juegos y compartimos los actos que algunos de nosotros habían preparado para ese día. Tengo que admitir que al principio sentía un poco de vergüenza, quería hablar con todos, aunque me costaba un poco hacerlo. Sin embargo, enseguida sentí un clima de increíble calidez y confianza, ya que todos se acercaban a hablar, sin importar la diferencia de idioma, edad, cultura... A decir verdad, a lo largo del tour nunca sentí que existieran barreras entre nosotros, porque descubrí que cuando hay voluntad no hay diferencia que valga. ¡¡¡Es más, yo volví a Argentina conociendo palabras en portugués y tagalog, con acento peruano – cubano – boliviano!!!

Los días siguientes se pasaron sin que pudiera darme cuenta. ¡La pasé tan bien que las horas se sucedieron como si fueran minutos! Todos los días nos levantábamos temprano y salíamos de excursión; íbamos de un lado a otro... ¡conocí muchísimos lugares en poquito tiempo! Fuimos a visitar al gobernador, paseamos por la ciudad de Naha, estuvimos en el Parque Conmemorativo de la Paz... Personalmente, luego de haber estado allí pude ver con mayor claridad lo necesaria e importante que es la paz en estos días... Creo que esta excursión nos sirvió a todos para transmitir este mensaje de paz en nuestros hogares.

Un lugar en el cual me sentí “importante” fue en el castillo de Shuri. ¡Es impresionante! Una vez que entrás y te sacás los zapatos, sentís “volver el tiempo atrás”... Además, pasamos una tarde en Ryukyu Mura, donde nos ofrecieron una clase de artesanía y otra de arte tradicional, a elegir:

sanshin, buyo o karate. Por mi parte, elegí la primera opción. Sin embargo... ¡¡No está dentro de mis habilidades!! Aunque tengo que admitir que me divertí un montón...

El día que fuimos a hacer ecoturismo a Yanbaru me hicieron descubrir mi espíritu aventurero, ya que hice cosas que nunca pensé que haría, como pasar al lado de arañas grandes, o cruzar un puente que se movía. Pero la recompensa a todas las subidas, al sofocante calor y al cansancio fue la cascada. ¡Era tan hermosa que todo el esfuerzo realizado valía la pena! Sin embargo, cuando terminamos esta excursión... ¡mis piernas se movían solas! Para finalizar la jornada, una vez que mi cabello estaba completamente desordenado y mi ropa enteramente húmeda, nos llevaron a Bankokusinryokan. ¡No pude evitar sentirme algo desaliñada en un lugar tan lindo!

Por último, el viernes fuimos al Ocean Expo Park. ¡Es incomparable! Me quedé realmente sorprendida... Presenciamos dos shows de delfines, los cuales estuvieron muy lindos. Además, como no podía faltar... ¡Fuimos a la playa! ¡Me sentí en el paraíso! Tomamos mucho sol, disfrutamos del agua, tomamos helado... ¡Fue una tarde perfecta! Y la cena de ese día fue barbacoa... Sin embargo, ya desde el comienzo, en esa noche se respiraba un aire especial. La alegría de compartir esa comida juntos se confundía con la tristeza de saber que pronto nos tendríamos que separar... La verdad es que ese día estuvo repleto de emociones, ya que luego de cenar tuvimos una fogata en la cual nos reímos, bailamos samba y canciones de la fiesta de bienvenida, compartimos diferentes juegos... Por última vez nos juntamos con nuestros grupos para competir juntos en los juegos. Mi equipo salió anteúltimo, pero fue muy lindo porque no se sentía ningún tipo de competencia entre nosotros. Se notaba que todos estábamos allí con la intención de divertirnos y pasarla bien. No sé por qué, pero esa noche sentí que todos estábamos "más cerca". La pasamos tan bien como si nos conociéramos de siempre... Nos quedamos charlando hasta tarde... ¡No quería que ese día llegara a su fin! Todo se había pasado tan rápido...

Recuerdo que el domingo 27, al bajar del auto en la puerta del hotel, seguía sin entender como habíamos llegado a ese momento. ¡Ya estábamos en la fiesta de despedida! Para mí, fue la fiesta perfecta. Tan perfecta que parecía un sueño, tan perfecta que

no nos dimos cuenta cuando terminó... De pronto nos encontramos abrazándonos y llorando, sintiendo felicidad por haber tenido esta hermosa experiencia, pero a la vez, tristeza de saber que al día siguiente cada uno retornaría a su hogar...

Quiero agradecerles por todas las charlas, risas y momentos compartidos. Gracias por una semana llena de momentos que voy a guardar por siempre en mi corazón. Nunca olviden que los quiero mucho!!!. Y... ¡Nos estamos encontrando!(ya sea en una carta, en un mail o... ¿por que no? personalmente...)





諸喜田 マリネ

Shokida Marine

16歳 3世

アルゼンチン Argentina

在亜沖縄県人連合会



今回、ジュニアスタディーツアーに参加する機会を与えていただき、この上ない経験となりました。

この機会を通して沖縄の文化や歴史に触れ、学ぶ事ができました。

一番嬉しかった事は世界各国のウチナンチューの子弟と交流し、それぞれの習慣を知った事でした。なかでも同じスペイン語を話す参加者と特に仲良くなりましたが、国によって表現や言い回しの違いに気づき驚きました。言葉のハードルはお互い理解しあいたいという強い思いと、あとは身振り、手振り、想像力で補いました。

歓迎パーティーでのゲームはとてもいいアイデアだったと思います。ここで皆、知り合ったばかりのころの、決まり悪さや引っ込み思案なところが消え、楽しむ事ができました。

沖縄の古くから伝わる芸術や武術を、短い時間でしたが見るだけでなく、学び、体験できた事は祖父母のころの日常的な習慣を垣間見たような気がします。

琉球村や首里城では、その時代の変った建築物を興味深く思いました。

めったに体験したことのない猛暑でしたが、私の国とはまったく違う、美しい沖縄の海を楽しみました。きれいな透き通った水、波はほとんどなく、穏やかな、暖かい海でした。唯一欲を言えば、もう少し、自由時間がほしかったと思います。なぜかと言いますと、もっと話をしたり、知り合いたかった人がたくさんいたからです。

あと、驚いたのが沖縄の人の温かさです。まるで、同じ家族で、ただ違う家にすんでいるような、そんな気持ちがありました。

最後に、沖縄県知事、スタッフの方々、ボランティアの皆さんに心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。このプログラムがずっと続き、毎年多くの世界中の若者にも経験できるよう、願っています。

Este año tuve la oportunidad de participar en el Junior Study Tour y considero que fue una experiencia muy enriquecedora para mi crecimiento personal.

Durante este recorrido pude conocer muchos lugares históricos de Okinawa y aprender sobre su cultura e historia.

Lo que más me gustó fue el haber podido conocer y relacionarme con descendientes de Okinawenses de todas partes del mundo y aprender sobre sus distintas costumbres.

Al darse la comunicación de una manera más simple, fluida y espontánea con los que hablan el mismo idioma, ellos fueron los primeros con quienes logré establecer una conversación. Además fue muy divertido ver cuantos diferentes usos y distorsiones de las palabras existen en los diversos países.

A pesar de las barreras presentadas por los diferentes idiomas, con mucha voluntad de las dos partes todo se puede lograr. A veces me veía en la dificultad de no poder decir en palabras algunas cosas, pero con el deseo de querer comunicarme, trataba de expresarme a través de señas, y con un poco de voluntad e imaginación de las demás personas podíamos conversar.

Me pareció muy buena la idea de realizar los juegos de la fiesta de bienvenida, ya que a partir de ellos uno vence la vergüenza que generalmente se tiene al principio, al no conocer a nadie.

Fue muy entretenido practicar las artes tradicionales de la isla, a pesar del poco tiempo que le pudimos dedicar, logramos no sólo ver, sino aprender y poner en práctica una actividad que formaba parte de la vida cotidiana de nuestros abuelos.

Me resultó muy entretenido pasear por Ryukyu Mura y el castillo de Shuri, pues gracias a eso pude darme cuenta de lo diferente que eran las estructuras de las viviendas.

A pesar del calor que tenía al no estar

acostumbrada a esas altas temperaturas, disfruté mucho el conocer una playa tan hermosa como la de Okinawa que, a diferencia de la mía, tiene agua cristalina, casi sin olas, es decir, más calma y cálida.

Una cosa que me hubiese gustado es haber podido tener un día más, pero libre, porque al no haber dispuesto de mucho tiempo hubo personas con las que no pude hablar de la forma en que me hubiese gustado.

Lo que me impresionó mucho fue la amabilidad de la gente de Okinawa, es como si todos formasen parte de una misma familia, con la única diferencia de que viven en diferentes casas.

Finalmente, quisiera agradecer profundamente a la Prefectura de Okinawa, a la gente del Staff y a los voluntarios por haber hecho posible esta enriquecedora experiencia y deseo que esto se siga realizando todos los años para que más jóvenes puedan disfrutar de esta hermosa vivencia.





仲本 山城 ダニエラ

Nakamoto Yamagusuku Daniella

15歳 3世

ペルー Peru

ペルー沖縄県人会



私にとってこの沖縄での体験を言葉で言い表すことは難しいです。メンバーとして選ばれる前から沖縄へ行くことが夢でした、それが実現されてとっても幸せです。

旅立つ前は嬉しさと緊張感でいっぱいでした。でも引率者の安座間さんから沖縄に関しての歴史や文化や習慣、そしてマナーを少しずつ教えていただいたお陰でツアーの時に役立ちました。沖縄までの旅は長くて少しきつかったけど、私と同様テストを受けて選ばれなかった子達を思うとわがままは言えません。ただ感謝の気持ちでいっぱいです。

那覇空港へ着いた時、親戚やJSTのスタッフの皆様が出迎えに来ていました。こんなに歓迎されたのは生まれて始めてです。ウチナンチュは情熱的で親しく、好感豊かな楽しい人達だなあと感じました。

沖縄県庁へ訪問した時は、渡慶次ガブリエーラ(マービ)と二人で県知事に御挨拶をしました、でも外国からの参加者を代表するとは思っていませんでした。もし知らされていたら緊張して言葉が出なかったと思います。次に国際通りや那覇市内を見学しました、ここでなぜウチナンチュはシーサーを大切に一番目立つ所に飾っているかを知りました(魔除)。この日最後に平和祈念公園へ行きました。沖縄戦はどんなに残酷で無惨な戦争であったかビデオや写真を見て、解説を聞いて分かりました。お婆ちゃんから色々とお話を聞いたことがあります。資料館にある大きな本に書いてあった生存者達の言葉を安座間さんの通訳で聞き、なぜ人は戦わなければならないのか、なぜきれいに話し合いができないのか、それがわからないので胸に込み上げる怒りと悲しみが抑えきれずに涙が出ました。水曜日は首里城を見ながら日本の文化と中国の文化の影響が加えられている事に関心を持ちました。其の次に琉球村へ行って紅型や空手、舞踊、

そして私の大好きな三味線を習いました。木曜日はヤンバルへ云ってエコツアーをしながらそこに住んでいる動物たちや植物を見ながら比地川に沿って急な階段を上ったり下ったりしながら沖縄で一番大きい綺麗な比地大滝にたどり着きました、道のりは大変ハードでしたが最高によかったです。最後に万国津梁館を見学しました。

金曜日は海洋博記念公園で、イルカのショーを見て、そして水族館を見学しました。その後海水浴に行きました。沖縄の海はペルーと違って砂は白く、波がありません。まるで塩水の入った大きなプールの中にいるような感じがしました。次にパインアップルパークへ行きました、パインから色んな食べ物や飲み物ができると言う事に興味を感じ又びっくりしました。ペンションに帰り、バーベキューを食べた後、キャンプファイヤーに火を灯し、色んな競技に参加し遊んで、夜遅くまではしゃいだり、笑ったりして凄く楽しいひとときを過ごしました。

ホームステイの日はとっても楽しかったです。おじいちゃん、おばあちゃんやお父さんが住んだ沖縄に行く事が夢でした。親戚のおもてなしに圧倒されて何だかまだペルーから離れていないような気もしました。又、沖縄のまだ見えていない所をあちこち連れてもらいました、沖縄そばは大好きです。

私にとって沖縄は一番素晴らしい思い出です。いつかウチナンチュの地へ行行って、心の中にあるJSTの友達皆と再会する日を祈っています。私は沖縄JSTを一生忘れませんだからみんなも忘れないでね。

沖縄県、稲嶺県知事様、ペルー沖縄県人会の皆様、尚学高校のボランティアの皆様、JST担当者並びにスタッフの皆様、御世話になりました引率者の方々(特によっちゃん)そして沖縄で友達になった皆、本当に、本当にありがとうございました。

El mejor recuerdo de Okinawa

Es difícil expresar con palabras lo que esta experiencia significa para mí. Antes de formar parte del Junior Study Tour, para mí conocer Okinawa era un sueño y ahora me siento muy feliz ya que se hizo realidad.

Antes de viajar me sentía a la vez de emocionada y contenta muy nerviosa, pero sabía que íbamos muy bien preparadas gracias a que Nissan Yochan Azama nos fue enseñando poco a poco la historia, cultura y tradiciones uchinanchu. Esto me sirvió de mucho allá ya que podía entender mejor las explicaciones que nos hacían durante las visitas.

El tiempo que tuvimos que estar en el avión fue muy largo pero ayudó a darme cuenta que no todos tienen la oportunidad de viajar a un país que está a miles de kilómetros lejos de casa y me sentía agradecida al haber sido escogida entre los chicos que, al igual que yo, se habían presentado a la entrevista y que también se merecían ganar esta beca.

En el aeropuerto nos esperaban nuestros familiares y un grupo del staff que se encargaba del Junior Study Tour. Nos recibieron de una manera que nunca imaginé y allí pude sentir la calidez, alegría, simpatía, generosidad y sencillez de la gente okinawense.

El segundo día visitamos al Gobernador de Okinawa. Allí Gabriela Tokeshi y yo dimos un discurso (no nos habían dicho la importancia de este hasta después de decirlo porque sino estoy segura que me ponía muy nerviosa). Luego paseamos por Kokusai Dori y por la ciudad de Naha. Aprendí sobre lo que representan los shisa para los okinawenses (los shisa son puestos en las puertas de las casas para proteger a las familias de los malos espíritus). Finalmente fuimos al Parque Conmemorativo de la Paz. Después de ver el video y visitar el museo pude comprender mejor lo que los okinawenses sienten con respecto a la guerra y me di cuenta de porque tratan de conservar la paz mundial. En ese momento me sentí muy mal, porque no solo recordaba lo que mi obaachan me contaba sino que estaban escritos algunos testimonios de personas que también habían sobrevivido y me llené de indignación y tristeza ya que me ponía a pensar en todo el sufrimiento que la guerra trae y no puedo entender por qué hasta ahora las personas buscan discutir en vez de tratar de llegar a acuerdos para evitar todo esto.

El miércoles visitamos el Castillo de Shuri donde pudimos ver, plasmada en una gran muestra

arquitectónica, la mezcla de culturas uchinanchu, japonesa y china. En Ryukyu Mura, dimos un paseo y luego tuvimos la oportunidad de realizar un trabajo artesanal: pintamos nuestro bingata. Después nos dividieron en grupos para practicar Sanshin, Buyo o Karate.

El jueves fuimos a Yambaru, donde visitamos un museo y pudimos observar en un video y de manera dinámica algunas especies de flora y fauna típicas de Okinawa que están en peligro de extinción. Después de eso hicimos una caminata y al final llegamos a la cascada de Hijiotaki, la más grande en Okinawa. Fue muy cansado llegar hasta allá pero la vista fue muy bonita. Al finalizar el día visitamos Bankokusinryokan.

El viernes fuimos al Ocean Expo Park, donde vimos espectáculos de delfines y paseamos por el acuario. Después fuimos a la playa. Esta es muy diferente a la de Perú ya que la arena es blanca y no hay olas, a mí me daba la impresión de estar nadando en una piscina con agua salada!!! Luego fuimos al Pineapple Park, y yo me sorprendí mucho al ver los distintos productos que se hacían de piña. Finalmente regresamos a la pensión donde, después de comer barbacoa, tuvimos una fogata y participamos de juegos muy divertidos y nos reímos mucho.

Los días de Homestay fueron demasiado lindos. Siempre había tenido la ilusión de conocer el lugar donde vivieron mis ojiiichan, obaachan y mi papá. Mis familiares de Okinawa me trataron tan bien que sentía que nunca había dejado por completo a mi familia en Perú. Ellos me pasearon por varios sitios de Okinawa que no había conocido y además me llevaron a comer los platos típicos como el Okinawa Soba que es muy rico.

Quiero agradecer a TODOS: a la prefectura de Okinawa, a la AOP, a los chicos voluntarios del colegio de Naha, al grupo que formaban parte del staff, a todos los que organizaron este Tour, a cada uno de los tutores que fueron acompañándonos (en especial a Yochan), a todos los amigos que hice en Okinawa...

Ahora que estoy de vuelta en mi país tengo el mejor recuerdo de Okinawa y espero volver a la tierra uchinanchu y encontrarme con todos los chicos que ya forman parte de mi corazón... nunca los voy a poder olvidar!!! Espero volver a verlos pronto y espero que, al igual que yo, nunca olviden este JUNIOR STUDY TOUR!!!!!!



渡慶次 山城 マリア ガブリエラ

Tokeshi Yamagusuku Maria Gabriela

14歳 3世

ペルー Peru

ペルー沖縄県人会



私が JST のメンバーとして選ばれた時は、信じられない気持ちで一杯でした。

皆が褒めてくれて大変嬉しかったです。

最初に私のイメージしていた沖縄はペルーとはぜんぜん違う所だと思い、沖縄の風習や習慣、マナーそして言葉を少しでも覚えなければならぬと思っていました。

ツアーが始まり、沖縄へ着くとすぐに嬉しい事ばかりでした。前から話で聞いていたおじさんや従兄弟達に会えたことです。皆がとっても親切で凄くかわいがってくれました。何だかずっと昔から一緒に暮らしていた様な気がしました。また、おばあちゃんの姉妹にも逢いました、とっても嬉しがって私を抱きながら泣いていました。その時沖縄とペルーの親戚の絆がどんなに深いかを知りました、私も嬉しくて泣きました。

21日月曜日予定通りにツアーが開始されました。十カ国から集まった51人の参加者は言葉や習慣は違うけど、皆同じ理由で沖縄へ来た事は確かでした。それは一人一人の先祖が沖縄出身という事と、このツアーに参加することでした。

その日はゲームをしたり、それぞれの特技を披露したりしてとっても楽しい始まりでした。

次の日は県庁へ表敬に行き仲本カオリちゃんと一緒に参加者を代表して挨拶をしました。その後、国際通りや平和通を歩きました。色々な物がたくさんあり、買いたいものがあちこちにありました。次に平和祈念公園へ行きました。そこは私にとってツアーで一番印象的な所でした。なぜ沖縄はそんな目に遭わなきゃならなかったのか、戦争に巻き込まれ、アメリカの占領地になった。でも私が誇りに思ったのは、そんなどん底から起き上がり今日の沖縄を建て直したウチナーンチュです。

翌日は首里城に行きました。素晴らしいいいいい！美しいいいいい！その後、琉球村へと向かいました。芸能体験で、私は三線を選び「島唄」を習い、その後に

皆の前で演奏しました。

次の日はヤンバルへ行きました。自然の中に住んでいる野生動物や植物を見学しながら比地大滝に辿り着きました。大変ハードで、本当に疲れました。その上、高い所へ登るのはあまり好きじゃないので・・・でも楽しかったです。最後にパインアップルパークへ行きました。沖縄のパンはとっても美味しい！

ツアー最後の日は水族館へ行きました。そこには色々な動物や魚を見学しました。一番好きだったのはイルカのショーでした、とっても頭が良くて、かわいかったです。

そして、皆が待ちかねていた海へ海水浴に行きました。砂は白く、海の色は3色以上に見えました。泳いだ人から、水は暖かく、岸边には小魚が泳いでるのが見えたそうです。

金曜の夜はキャンプファイヤーと色々なゲームで盛り上がりました。しかし、ツアーもう終わるということで、みんなどこか寂しい感じでした。私達は、この素敵な旅の思い出を少しでも多く自国へ持ち帰るために、ノートにメッセージを交換しあったりしました。

土曜、日曜日は親戚と過ごすことができました。みんな、とても親切でした。

日曜の夜には、お別れパーティーがあり、一人一人に修了証が渡され、その後にはいくつか余興が行われました。私とカオリはまた、ピアノを披露しました。最後には、それぞれに別れを告げ、泣く人もいて、それはとても悲しい瞬間でした。みんな、帰りたくない、この素晴らしいツアーをもっと続けたいと思っていました。

次の日もまた、とても悲しい日となりました。私にとっても良くてくれた親戚、ツアーのみんな、そしてこの素晴らしい体験を与えてくれた美しい島沖縄との別れです。

本当に楽しいツアーでした。たくさんの事を学び、今まで知らなかった色々な場所や物を見ることが出来ました。もう少し、ツアーのみんなや親戚と過ごす時間が欲しかったです。

私がこのツアーをこんなに楽しめたのも、家族の支えがあったお陰です。引率の安座間 “よっちゃん” さんは、私達に沖縄の歴史や文化、風習について教えて下さり、そしてツアー中はいつも通訳をして下さりました。ペルー沖縄県人会(AOP)のお陰で、ジュニアスタディーツアーに参加することが出来、世界各国の若者と知り合えた、この貴重な機会を私達に与えて下さいました。

また、この度のお陰で、今まで私の父親でさえ会ったことのなかった親戚とも会うことが出来ました。彼らの家を訪ね、私の両親とも電話で話をし、もう今ではつながりが出来ました。

沖縄はとっても大好きです。きっと、また訪れようと考えています。この一週間は私の人生の中でも最も素晴らしい思い出です。絶対に忘れません。

私の感謝の気持ちとして、次のジュニアスタディーツアーに参加するペルー沖縄県人会の子達の準備を手伝いたいです。もちろん、県人会が必要とすれば出来る限り、手伝っていきたいと思います。

Toda esta linda experiencia comenzó cuando me anunciaron que me había ganado la beca, ese momento hasta ahora lo recuerdo, estaba súper emocionada y ni siquiera me lo podía creer, todos me felicitaron y estaban muy orgullosos de mí.

La primera imagen que tenía de toda esta aventura, era que Okinawa es un lugar totalmente diferente a Perú y que tenía que aprender sus costumbres, como comportarme y lo más importante que era el idioma.

El tour comenzó. Cuando apenas llegamos cada uno de nosotros fue a la casa de la familia en Okinawa, que fue algo muy lindo porque conocí a tíos, primos que no conocía y cuando estaba con ellos me trataban con mucho cariño y parecía que los conociera desde siempre; incluso tuve la oportunidad de conocer a mis tías abuelas de parte de mi papá y de mi mamá, nos emocionamos mucho e incluso mi tía abuela de parte de papá comenzó a llorar, en ese momento me di cuenta el vínculo que había entre las dos y sentía como escalofríos en mi cuerpo de la felicidad al poder verlas.

El lunes 21 comenzó el programa con todos los chicos de los diez países, en total éramos 51 personas, todos de diferentes países, costumbres, idiomas, etc, pero todos

estábamos juntos por la misma razón: de tener raíces okinawenses y de participar en el Junior Study Tour. Éste día hicimos juegos, actuamos muchas personas y fue muy divertido!!

En los siguientes días, visitamos al Kencho y leímos nuestro discurso Kaori y yo representando a todos los participantes de los países excepto Nihon; paseamos por Kokusai Dori, que era enorme y había muchas cosas lindas, de todas las variedades y de todo, ahí encontrábamos todo lo que queríamos. También fuimos al Museo Conmemorativo de la Paz, fue el lugar en el que más me enriquecí, me di cuenta de todo lo que tuvo que pasar la población de Okinawa en la época de la segunda guerra mundial, cómo los norteamericanos se habían apoderado de Okinawa; pero, sobre todo esto, Okinawa se ha sabido levantar y ahora está muy bien y la verdad que todo esto yo admiro.

Visitamos el Shurijo, eso si me encantó!! es precioso!!! Y después de esto fuimos a hacer los talleres que era en Ryu Kyu Mura. Yo elegí sanshin, estuvo muy entretenido, aprendimos Shima uta; y, después de eso, todos demostramos lo que habíamos aprendido.

Tuvimos la oportunidad de conocer la fauna y flora de Okinawa en Yanbaru, ahí me cansé, ¡ je, je ¡; y, además me da miedo las alturas, pero igual me pareció muy interesante, al final llegábamos a una catarata en la que todos fuimos y algunos se bañaron. Después de eso fuimos a la tienda de piña, las piñas de Okinawa son riquísimas!

El último día del tour fuimos al Acuario, era enorme y había una gran cantidad y tipos de animales; lo que más me gustó fueron las dos presentaciones de los delfines en las que demostraron que son muy inteligentes. Y por último nos fuimos a la playa, que creo que era el lugar más esperado para ir, la arena era blanca y el mar tenía como tres tonos diferentes, lo que si me contaron fue que el agua estaba caliente y a los pececitos los veías nadar.

En la noche de ese día viernes, al pie de la fogata disfrutamos de una reunión con todos

e hicimos juegos divertidos; luego, todos estábamos con nostalgia y algo tristes porque el tour ya estaba terminando, aprovechamos para firmar nuestros “books” y para llevarnos un recuerdo más de este lindo tour!

Después, el sábado y domingo fue para estar con la familia, en mi caso conocí a más familiares, todos muy amables.

El domingo en la noche era la fiesta de despedida, nombraron a todos y nos dieron un diploma, después algunos hicimos un pequeño número, en el caso mío y de Kaori volvimos a tocar piano, pero esta vez 3 melodías, una de ellas a cuatro manos.

También se hizo la presentación de los voluntarios, acompañantes y los participantes; por último todos nos despedimos de todos, algunos lloraron y fue un momento muy triste, nadie se quería regresar a su país, todos querían seguir en este lindo tour!

Igualmente, el día siguiente fue muy triste, estaba dejando a mi familia que me había atendido muy pero muy bien, a todos los chicos y demás participantes del Junior Study Tour ... y al lindo lugar en donde pasó esta linda experiencia Okinawa.

El tour fue muy divertido y lo aproveché al máximo, aprendí un montón, descubrí bastantes lugares y cosas que no conocía de Okinawa; a pesar de ello, me hubiera gustado tener más tiempo para estar con todas las personas del Junior Study Tour, con mi familia, para poder comprar y conocer más Okinawa.

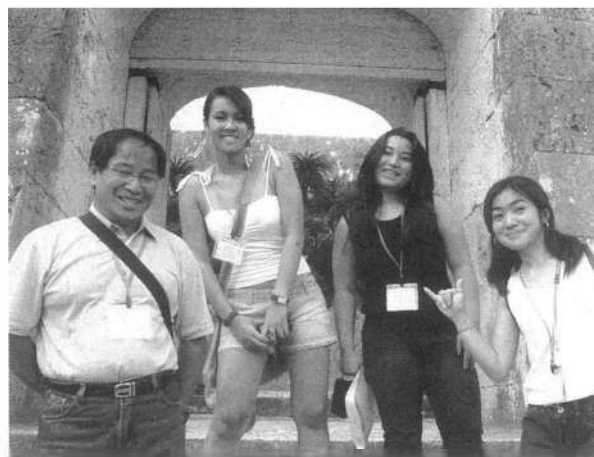
Yo creo que me gustó y disfruté tanto este viaje gracias al apoyo que he tenido siempre de mi familia; de nuestro tutor Sr. Yochan Azama que desde el principio nos ayudó, enseñó cosas de la historia, cultura y costumbres de Okinawa y nos guió siempre, es más, durante el tour nos traducía todo; el taller de la Asociación Okinawense del Perú (AOP) que nos preparó, culturizó y enseñó un poco cada año, también el curso de liderazgo AOP, que creo que a mí me ayudó mucho para este evento; y también a la misma Institución que permitió la entrega de las 2 becas y nos dio esta linda, valiosa y única oportunidad de ir a Okinawa para participar en el Junior

Study Tour y conocer a muchos jóvenes nikkei de diferentes partes del mundo.

También gracias a este viaje pude conocer a mis familiares que nunca antes los había conocido y mis propios papás tampoco, recién cuando fui a sus casas hubo esa conexión y mis papás hablaban por teléfono con ellos y ahora ya hay un poco más de confianza.

¡Okinawa me encantó y pienso regresar allá. Esa semana y media fue la mejor que he tenido en toda mi vida, fue única y jamás la olvidaré!

Como una forma de agradecer la oportunidad que me han dado, voy a apoyar a otros chicos del AOP para que se preparen para participar en el siguiente Junior Study Tour; y por supuesto, voy a ayudar al AOP en todo lo que sea necesario y todo lo que pueda.





神谷 ナオミ

Kamiya Pedraza Naomi

14歳 2世

ボリビア Bolivia

ボリビア沖縄県人会



今年、幸運にも沖縄を訪れることができました。沖縄へ行けると決まったとき、とてもわくわくしました。父の故郷を訪ねることが出来るのです。そして、沖縄にいる親戚にも会いに行けます。ご先祖様について多少は知っておきたいと思っていましたし、これは絶好の機会ではないかと思いました。

私は少しの日本語を覚えてから日本語学校に通い始め、一ヶ月で、親戚の人達と会話できるように出来る限り日本語を習得しようと努力しました。しかし、一ヶ月経ち、私が話すことが出来たのは挨拶と簡単な自己紹介といった、ちょっとした事でした。7月16日に出発することを知らされたとき、「まだ先のことだなあ」と思っていたのですが、すぐにその日がやって来ました。車で空港へ向かい、今から日本に出発するなんてとても信じられませんでした。空港でもう一人のボリビアからの代表である比嘉ウーゴ、そして引率をしてくれる比嘉次雄さんに会いました。

サンパウロからロスアンゼルスへの11時間のフライトで何をしたらいいのかさっぱり解りませんでした。結局寝てしまい、一時間ほどたつてなんとなく落ち着けず、目が覚めました。それから飛行機の中で上映されていた映画を観たり、持参した本を読んだり音楽を聴いたりアルゼンチンの女の子達とお喋りをしたりして過ごしました。

ロスアンゼルスに着いて、飛行機の清掃と燃料の補給、メンテナンスのため、一時間だけ待機しました。ロスアンゼルスから日本に向かう道のりはもっとひどいものでした。持ってきた雑誌は全部読んでしまい、することが無くなってしまったので、ひたすら眠っていました。東京成田国際空港について、お金をドルから円に換金しました。一時間ほどバスに乗り、国内線羽田空港へ。そして沖縄に到着しました。そこで親戚の人達が私を見つけてくれるのを待たなければいけないことに気がつきました。なぜなら私は彼らに会った事が無いのですから！ボリビアの旗と二人のボリビア代表と私の撮影を終え、やっと親戚に会うことが出来ました。が、そこには言葉の壁がありました。私は日本語をほんの少ししか話せませんでしたし、彼らは全くと言っていいほどスペイン語が解りませんでした。話をするのは難しかったのですが、成田で会った私の兄、あき

が渡してくれた日本語・英語の小さい本が役に立ちました。

親戚と一緒に、父、祖母、祖父の生家を見に行きました。全ての親戚に会い、みんな私を歓迎してくれました。

ツアーに参加している間言語の問題はありませんでした。ペルーの引率のよっちゃんが、出来る限り通訳をしてくれたからです。私が出会った、沖縄、ペルー、キューバ、アルゼンチン、ブラジル、グアム、アメリカ、カナダ、ハワイ、フィリピンから参加していた十代のみんなはとても感じが良かったです。一人一人と本当に良い関係を築くことが出来ました。

私達の共通点は、みんな日本人の子弟だということでした。日本人の文化や人々の振る舞いを見ることが出来、そしてその一週間だけ私も日本人になれることをとても楽しみにしていました。

空手を習ったり、首里城見学、知事表敬、平和記念公園や、やんばるの散策、ビーチ・・・沢山の楽しいアクティビティがありました。日本の人々の日常を体験できて、とても楽しかったです。なかでも食事です。見た目はちょっと変わっていましたが、食べてみると美味しかったです。

お別れパーティーをした最後の夜、一週間というのはこんなにも早く過ぎるものなのかと驚きました。ずっとみんなと一緒に行動し、私はみんなのことを本当に大好きになっていました。

最初に泣き出してしまったのは私だったと思います。このままみんなと別れて、もう一生会えないかもしれないという事が、ただただ信じられませんでした。この最高の思い出は、この先どんな旅をしてもこの思い出を越えることは出来ないでしょう。このような機会を与えてくださったことに深く感謝致します。出来ればみんなともう一度再会したいです。みんなに会えなくて寂しく思っています。私達はたくさん冗談を言い合い、素晴らしい時間を共有しました。またこんな機会があればいいのに！みんなと再会できる日が待ち切れません。

とても楽しい体験をさせていただきました。きっと私の中で忘れられない事として残っていくでしょう。ボリビアに来る前の父の生活を知り、親戚の皆さんに

もお会いすることが出来ました。彼らの習慣や文化にも少し触れることが出来ました。そして世界中からやってきた沢山の人達と友達になれました。

私は最高の体験をすることが出来ました。いつかまた親戚や、このジュニアスタディーツアーで出会った友人達に会いに沖縄を訪れたいと思っています！

Hi! My name is Naomi Kamiya and I am fourteen years old. I am from Santa Cruz, Bolivia, and this year, I had the privilege to go visit Okinawa. I was very excited when I heard that I had won a trip to Okinawa. I was going to be able to actually be in the place where my father was born, and meet my family that live in Okinawa. I wanted to know a little more about my ancestors and I thought this might be my big opportunity.

Since I knew little Japanese, I went to a Japanese school for one month and learn all I could possibly learn to be able to communicate with my family members. But since it was only a month, I learned a little bit, only how to say hello, how to introduce myself and some other things.

When they told me I was going to leave July 16th, I thought, "That is so far away from now!" But when the day finally arrived, when I realized that I was in my car headed to the airport, I could not believe I was actually going to Japan! At the airport, I met Hugo Higa, the other representative from Bolivia, and Higa Tsugio, the chaperone that was going representing Bolivia.

I didn't know what to do on the eleven-hour flight from Sao Paulo to Los Angeles! When I could finally fall asleep, I could only sleep for one hour because I would get uncomfortable. I got distracted with the movies the plane showed us, I read some magazines I had brought with me, listened to music, and talked to the girls from Argentina.

When we got to Los Angeles, we only waited for an hour, because they had to clean up the airplane, put more gasoline, mostly just to maintenance.

On the trip from Los Angeles to Japan was even worst. Since I had already read most of my magazines, I had nothing to do. So most of the time what I did was sleep.

When we arrived to the Narita, the international airport of Japan in Tokyo, I changed my money that I had in US dollars into Yens. So then we took a one-hour bus drive to Haneda, the national airport. When we arrived to Okinawa, I realized that I had to wait until my relatives recognized me because I had never seen them!

They took a picture of the other two representatives of Bolivia and I with the Bolivian flag. Finally, when my relatives found me, we already started having communication problems. Since I knew just a little bit of Japanese, and they knew almost NO Spanish, we could

hardly talk to each other. Something that helped a little was a small book that my brother Aki had given me when I met him at Narita, a Japanese-English book.

With my family, I got to see the house in which my father and my grandmother and grandfather had been born. I met all of my relatives I have in Okinawa and they treated me very kindly.

But when I was at the tour the whole week, I had no problems communicating because Yochan, the chaperon from Peru, translated everything he could.

The other teenagers that I met were really nice people from Okinawa, Peru, Cuba, Argentina, Brazil, Guam, USA, Canada, Hawaii and from Philippines. I got along great with each and every one of them.

What we all had in common was that we are all descendants from Japanese people. And I was really looking forward to seeing how their culture was, how they acted around people, and just become them for a week.

We learned karate, we visited the Shuri Castle, we visited the governor, visited the Peace temple, we went hiking to Yanbaru, went to the beach and did many fun activities. I really enjoyed doing all of the things Japanese people would usually do. Especially eating their foods. Even though some foods looked weird, they all tasted delicious.

When it was finally the night of the good-bye party, I could not believe how incredibly fast the week had gone by. I really got attached to all of the people. I really liked them a lot.

I was the first one I think to start crying at the party. I simply just couldn't believe that I would probably never see them again! It was truly one of the best memories I will have of ANY trip, and I am very thankful I got this huge opportunity. I hope I can see all of them again, because even though a month or so has gone by since we all left, I miss them. I remember all of the great moments we had together, all of the jokes we shared, and I hope something like this will happen again! I just can't wait to see all of them again!

I really enjoyed this experience. It is going to be one of those experiences you NEVER forget. Because first of all, I got to know how my father lived before he came here to Bolivia, I got to meet all of my family members, and learned all of their customs and about their culture. I met a bunch of really great friends from all over the world, which I became really attached to, and I got to see many sights people would die to see.

In conclusion, it has been the BEST experience I have ever had, and I hope that someday in the future, I will visit my relatives in Okinawa and see all of my friends (TOMODACHI) I made in this year's Junior Study Tour!



比嘉 浩二

Higa Koji

17歳 2世

ボリビア Bolivia

ボリビア沖縄県人会



まず初めに、ジュニアスタディーツアーのスタッフの皆さんに深く感謝申し上げます。また、この美しい沖縄県へ訪れる機会を与えて下さった皆様に心から感謝を申し上げます。

ジュニアスタディーツアーに参加したことによって、僕の祖父、両親が育った沖縄県の色々な場所を知ることができました。思い出深い旅となりました。

また、色々な国の人々と友達になり、みんなと一週間生活を共にして、とても楽しく過ごすことができました。

首里城訪問では、初めて見るお城に感激しました。そして琉球村では、沖縄県の人々の住居や三味線、空手、舞踊などの伝統芸能を知ることができました。

エコツアーは大変疲れました。しかし、目的地への長い道のりも苦痛には思えませんでした。なぜならば、そこには美しい滝と沖縄の自然が僕たちを待っていたからです。

もうひとつ気に入った場所は、水族館でした。ボリビアには、水族館がないため、とても印象的でした。初めてみるたくさんの種類の魚が泳いでいました。イルカのショーも素晴らしいものでした。

海水浴を楽しむ時間もあり、ツアー参加者全員でバレーの試合もしました。皆で楽しく笑い、素晴らしい時間を過ごしました。

その日の晩は、日本式のバーベキューパーティーが開かれ、皆で料理の準備をしたり、食べたりしながら、参加者全員そしてボランティアの皆さんとも親睦の和を広げました。私たちが沖縄に着いた時や、お別れパーティーの時にも、ボランティアの皆さんには大変お世話になりました。心から感謝します。

お別れパーティーでは、ジュニアスタディーツアー参加者一人一人に修了証が渡され、おいしい料理と、参加者の中から歌や楽器の発表がありました。

沖縄県への旅を実現させて下さった皆さんと、お世話になったスタッフの皆さんにもう一度お礼の言葉を申し上げます。

Primeramente quisiera dar un agradecimiento muy grande a los organizadores de este tour y a todas las personas que hicieron posible que pueda conocer la hermosa ciudad de

Okinawa.

Fue un viaje inolvidable en el que pude conocer distintos lugares de Okinawa, el lugar donde se criaron mis abuelos, mis padres.

Conocí muchas personas de diferentes países con los que tuve la oportunidad de convivir durante toda una semana en la que hice varios amigos y que estuvo llena de diversión.

En este viaje tuve la oportunidad de conocer el Castillo de Shuri, en el que me sorprendí bastante porque fue la primera vez que pude apreciar un castillo.

También visitamos RYUKYUMURA donde conocimos las raíces okinawenses como ser las viviendas y algunas artes tradicionales. (Sanshin, Karate, Buyo)

Estuve en un ecoturismo bastante cansado pero valió la pena la larga caminata que tuve que hacer porque pude ir a una catarata bella e impresionante en la que pude apreciar la naturaleza de Okinawa, jugar con los demás miembros del tour y disfrutar de un paisaje hermoso.

Otro lugar que me gusto fue el acuario porque en Bolivia no hay ningún acuario y pude apreciar las especies marinas que nunca había podido apreciar antes, luego pude ver el show de los delfines, fue un espectáculo fenomenal.

En la playa tuvimos tiempo para nadar y para disfrutar de un partido de voleibol en la que participamos casi todos, siempre riendo y divirtiéndonos.

Esa noche tuvimos una barbacoa al estilo japonés en la que todos compartimos unos momentos divertidos cocinando, comiendo especialmente confraternizando con los voluntarios que les doy mis agradecimientos por habernos entretenido cuando llegamos a la ciudad de Okinawa y también para nuestra ultima noche en la que estuvimos todos los integrantes del tour.

En la fiesta de despedida hubo una entrega de diploma a cada participante de Junior Study Tour, una cena deliciosa y algunos integrantes hicieron algunas presentaciones de canto y tocaron algunos instrumentos.

Reiterando mis más grandes agradecimientos a todas las personas que hicieron posible mi viaje a Okinawa y a todo el staff que nos acogió en esa ciudad.



アレマン レオナルド ホルヘ エルネスト

Aleman Leonard Jorge Ernesto

14歳 4世

キューバ Cuba

キューバ沖縄県人会



Quiero agradecer al Gobierno de Okinawa, en especial al señor Keiichi Inamine, Gobernador de la Prefectura de Okinawa y a todos los organizadores de la gira Juvenil de Estudios del Año 2003.

Para mí fue una gran experiencia haber ido a Okinawa, el lugar de mis antepasados.

Me ha gustado mucho la ciudad y sus habitantes, tiene bellos lugares como el Castillo de Shuri y el Parque Conmemorativo de la Paz, que muestra en parte el pasado de Okinawa y la belleza natural que posee.

Estoy muy contento de haber practicado las costumbres japonesas y artes tradicionales como el Karate, baile y artesanía.

Además tuve la oportunidad de conocer a jóvenes descendientes de Okinawa que viven en otros países, intercambiar ideas con ellos así como con jóvenes okinawenses.

Me siento feliz de haber conocido a mis familiares y compartir con ellos.

Esta valiosa experiencia es un verdadero estímulo para estrechar las relaciones de Okinawa con otras naciones.

Muchas gracias a todos.



まず、沖縄県と稲嶺県知事、そしてジュニアスタディーツアーのスタッフの皆さんに感謝を申し上げます。

祖先のふるさと沖縄へ行く事は、私にとって大きな経験になりました。

沖縄の町や人々をととても気に入りました。首里城や平和祈念公園のような美しく、沖縄の歴史を学べる場所や、また自然の美しさも見ることが出来ます。

沖縄の習慣、空手や踊りのような伝統芸能、伝統工芸品を学ぶことが出来て、うれしかったです。

さらに色々な国の沖縄子弟の参加者とも知り合うことが出来、そして彼らと沖縄からの参加者とも交流することが出来ました。

親戚とも会うことが出来、彼らと一緒に過ごせて、うれしかったです。

この貴重な経験は、沖縄と他の国々との関係を結ぶための刺激になります。

皆さん本当にありがとうございました。





キャサレン アーナ 城間

Katharine Anne Shiroma

15歳 4世

ハワイ Hawaii, U.S.A.

ハワイ沖縄連合会



ジュニアスタディーツアーは、私にとって忘れることのできない素晴らしい経験となりました。なぜなら、ただ単に旅行で歴史的に価値のある場所を訪れるだけでなく、多くの友人達を作ることが出来たからです。最初は、このツアーに参加することに対してとても神経質になっていました。しかし、ツアーを終えた今では、このツアーに参加して一つの後悔もないばかりか、この経験が私の記憶の中にずっと残って欲しいと思いません。

沖縄に到着すると、ハワイ沖縄連合会から一緒に参加したタイと私は親戚達からの出迎えを受けました。最初は、言葉の壁と時差で何が何だかわからない状態でしたが、次第に何とか意志の疎通ができるようになると同時に時差ボケにも慣れてきました。

沖縄に到着して最初の2日間はとてもきつかったです。生まれて初めて全く違う文化や習慣に触れ、それに慣れる必要があったからです。沖縄滞在中には、いくつかの親戚宅に泊まることもでき、それとともに仏壇に対して感謝の気持ちを表せることもできました。

親戚宅での滞在2日目には、綱引きに参加しました。この綱引きは、大昔に衝突ばかりしていた部族の長が綱引きで問題を解決しようとしたのが始まりのものとされています。この綱引きでは皆大昔の衣装を着けていたので、私はタイムスリップしたような気分になりました。この綱引きに使われた綱はとても大きく人が乗ることができる程大きな綱でした。私はこの綱の一部を切ってハワイに持ち帰り部屋に飾っています。親戚の話によると、この綱引きは10年に一度に開催されるもので、私はこれに参加することができてとてもラッキーだと言われました。

来沖3日目、ジュニアスタディーツアーの始まりです。オリエンテーションで他の参加者達と会うことができました。オリエンテーションやウェルカムパーティーでは、ゲーム等をとおして緊張を和らげるとともに、一人一人と会うことができました。みんなとてもフレンドリーで笑いや笑顔

が絶えませんでした。

ツアー2日目に、私達は沖縄県庁に行きました。県庁は那覇市で一番大きく、そのデザインはとても変わっていました。県庁の内外装には多くの県産芸術品が使用されていてそれぞれ意味がありました。私は県民ホール天井に飾られている各世代を意味した蝶々に目を奪われました。また、県庁の14階からの眺めは、まるでカラフルな郵便ハガキをみているようでした。

県庁訪問の後、私達は那覇市内で一番多くの人で賑わっていると言われる国際通りを散策しました。国際通りはたくさんの商店がひしめき合い、とても競争が激しいのではないかと思います。この散策にもう少し時間があればショッピングを楽しむことができたのと思いました。

平和祈念公園では沖縄の歴史について学びました。公園内の資料館で展示されている悲惨な出来事を知ることは、私にとってとてもためになりました。戦争に関するビデオを見た後、このようなことが二度と起こらないように祈りながら視聴室を出たのを今でも思い出します。平和資料館の展示コーナーを出た後の景色はとてもきれいで、まさに私が望んでいたものでした。波が岩にあたって砕ける光景とその音はとても清々しく、私に平和の意味を与えると同時に、資料館内で見た悲惨な光景を忘れさせるのに十分なものでした。資料館での悲しい展示物と資料館を出た後の素晴らしい景色の対比は、人々に戦争と平和について考えさせてくれるものでした。平和祈念堂の観音像は私が今までに見た中で一番大きかったです。そこで私達は全員平和の鶴を折って捧げました。

ツアー3日目は首里城に行きました。そこでは多くの職員が昔の琉装で働いていました。首里城の正門はとても素晴らしく感激しました。首里城を訪れていると琉球王朝に触れることができた気がしました。首里城の中で一番興味を持ったのが、複雑な模様が施された王座でした。

首里城を訪問した後私達は琉球村に行きました。琉球村では私達は紅型の体験学習を受けることができました。最初、紅型を制作する行程はと

でも変わっていると思いましたが、完成するととても素晴らしかったです。その紅型は私の部屋に飾っているのですが、今でもその紅型を見るとあの時の思い出がよみがえります。

さて、琉球村についての私達は空手、三線、琉球舞踊の体験学習を選ぶことができました。私は全部習いたかったのですが、一つだけしか選ぶことができなかつたので、私は琉舞を選びました。琉舞教室では、私と新しい友達は琉装に着替えてとても楽しく琉舞を教えてもらいました。また、教えてくれたおばあちゃんの一人は一升瓶を頭の上に乗せながら踊っていました。

4日目は山原の比地大滝に登りました。これは肉体的にはきつい冒険でした。何とか滝壺にたどり着いたら、心地よい満足感が心身を駆けめぐっていました。滝壺では急いで昼食を取り、冷たい水に足を入れました。その後は、万国津梁館を訪れました。その頃私達はとても疲れていたのですが、万国津梁館からの眺めはとてもきれいで、その眺望は県内で2番目に綺麗と言われていることを知りました。

5日目は、海洋博記念公園の美ら海水族館に行きました。そこでは、海の生き物に触れることのできるコーナー等あり、今まで見たことのない海洋生物が展示されていました。この水族館でとても驚いたのは大きな水槽でした。水槽の中には大きなマンタやジンベイザメが悠々と泳いでいました。また、水槽の下から魚たちを見ることのできる場所もあったので、そこから、頭越しに魚たちが悠々と泳ぐ姿を見ることが出来ました。

水族館を見学した後、私達はビーチに行きました。その日はとても蒸し暑かったので、ビーチで泳ぐことは、全員が待ち望んでいました。沖縄の海はハワイと違い温かかったのもとても驚きました。その日の夜は、キャンプファイヤーがあったり、踊ったりと忘れることのできない夜となりました。

次の日は、再び親戚宅でのホームステイとなりました。親戚は私に小さな花笠と浴衣を買ってくれました。彼らに対するお礼は言葉では言い表すことはできません。

さよならパーティーはとても感動的でした。この7日間でツアー参加者同士がこれほどまでに仲良くなれるのかとつくづく思いました。何となく私達は兄弟や姉妹になった感じがしました。この夜はたくさんの感動で満たされていました。私はこのツアーで多くの友達を作ることができ、今ではメールでお互いの情報交換をしています。

終わりに、ハワイ出発から帰国まで引率者として私達の面倒を見てくれたネディ・島袋さんに感

謝申し上げます。彼女がいたおかげで私達参加者はスムーズにツアーを終えることができました。また、アカミネ・シズコさんと私の琴の先生であるバーニー宮城さんにも感謝の意を表したいと思います。アカミネさんは私にツアーへの参加を強く勧めてくれました。宮城さんは私の親戚と連絡を取り、書類業務を行ってくれるなど色々な手配を行っていただきました。

このツアーは私にとって日本語を学ぶことができ、さらに世界から全く違うバックグラウンドを持つ参加者達と友達になることができました。私達は異なる言語や国から来ていたのですが、皆と交流することができ彼らとはまるで昔から知っているような感じでした。このツアーは私に自信を与えてくれたと思います。

ジュニアスタディーツアーはとても素晴らしいプログラムであると思います。このツアーでは多くの参加者が行動を共にして、私達のルーツや沖縄の歴史的遺産を共有することができました。このツアーを企画していただいた沖縄県にとっても感謝しています。ツアーの学習プログラムはとても楽しかったです。ツアーに参加してとても残念に思うことは、時間があつというまに過ぎ去ったことです。私は多くの友人を作ることができ、これからも互いに連絡を取り合っていきたいと思います。マハロ。

The Junior Study Tour proved to be a unique experience that I will never forget. Not only did I get to travel and see historical places, but I made plenty of new friends as well. Going into this, I was very nervous as I had no idea what to expect. But now, not only do I not have a single regret about participating in this Junior Study Tour, but I just wish the whole experience lasted longer!

Upon arrival in Okinawa, my traveling companion, Ty from Honolulu, and I were greeted by our relatives. I had a hard time at first because of the language barrier and the time difference, but eventually my relatives and I communicated just fine and my body adjusted to the time difference. I would have to say that the first couple of days were the roughest. This was the first time I had to adjust to a whole new culture and I was not familiar with a lot of their customs. I was able to pay my respects to the family shrine and that meant a lot to me. I was also very fortunate that I was able to stay with different relatives on some nights of my trip. They were extremely kind an warm people.

On the second day with my relatives, I was taken to an event called “rope-pulling” that evolved from the story of two emperors who were in conflict and they solved that conflict by having a rope-pulling contest. It was like stepping back in time because almost everyone who participated was dressed in full costume. The rope was so big that you could actually stand on it! I even got to help pull the rope and I have a piece of that rope now hanging in my room. My relatives told me that an event as big as this only happens about once every ten years, so I was very lucky to arrive at just the right time. This “rope-pulling” was truly an amazing experience.

On the next day, I finally got to meet the rest of the Study Tour group. We had an orientation where we played games that allowed people to loosen up and meet one another. Everyone I spoke to was very friendly and we communicated a lot with smiles and laughter.

We went to the government building(kencho) the next day. The design of the building was unique and we were told that it was the biggest building in the city. A lot of the art and designs in the building had symbolic meanings and usually had a story behind it. My attention was especially caught by the butterflies hanging from the ceiling. I found out that they were a symbol for the generations. The view from the 14th story of this building was like looking out at a huge postcard.

After this, we went to kokusai dori, the busiest street in Naha. I thought that this market place was very interesting because there were so many shops and they were so close to each other! The shops, I learned, were very competitive. I wish that we could have had a bit more time to go shopping but our itinerary was packed!

I learned a bit of Okinawan history at the Peace Prayer Memorial. It was interesting to hear about the war and all the horrible things that happened during that time. I remember walking away after the lecture hoping that war like that never happens again. The view from the Cornerstone of Peace was beautiful and just what I needed. Looking out at the ocean in combination with the sound of the waves crashing on the rocks gave me a sense of peace and helped me forget about the tragedies of war that I had just heard. I truly felt as if the world came together here.

Our next stop was at the Buddha. It was the biggest Buddha that I had ever seen and I will remember it always. It was magnificent! I'm happy that we were

able to contribute to the offerings by making a paper crane.

The next day we went to Shuri Castle. Much of the staff working there, to my surprise, were dressed in costume. The entrance gate itself was incredible! Being at this castle gave me a feeling of the old days and it was like stepping back in time. I especially remember the throne on which the king sat looking so intricate.

After Shuri Castle, we went to the Ryukyu Mura which is a very interesting place. At Ryukyu Mura, we painted a picture, a style called *bingata*. I thought that this was a very odd style of painting, but our paintings turned out very well and I now have my painting I did hanging on the wall in my bedroom. Whenever I look at it, it brings happy memories.

Prior to the trip to Ryukyu Mura, everyone was given a choice of either learning karate, learning how to dance the Ryukyuan way(*buyo*), or learning how to play the *sanshin*. Even though I wanted to do all of them, we only got to choose one and I chose the dance. To my surprise, we were given costumes to wear for the dance and I had lots of fun dancing with my new friends. One of the ladies teaching us even put a sake bottle on top of her head and danced around with the bottle balanced perfectly on her head!

The next day we hiked in the forests of Yanbaru. This was a very physically challenging adventure. When we had finally arrived at Hijitaki Waterfall, a feeling of relief washed over me. I rushed through lunch just to stick my legs in the water and it felt so good! We visited the Bankokushinryokan after Yanbaru, and everyone was still very tired from the hike. The view from one of the ledges was very beautiful and was said to be the second most beautiful view in Okinawa.

On Friday, we went to the aquarium where we got to touch some of the sea life and I saw species of fish I had never seen before. I was stunned at the sight of the tank in the middle of the aquarium. The tank was immense and filled with huge manta rays and sharks. We actually got to go under part of the tank and the sea life would swim overhead. I had never experienced anything like that before from the aquarium, we walked to the beach and had time to swim. It was just what we all needed because it was hot and humid! I was surprised at how warm the ocean water was...not at all like here in Hawaii. I had lots of fun at the campfire that night. We all danced and played with fireworks. It was a night that I will long remember.

The next day we had home stay again. My relatives had bought me a mini-hanagasa and even a yukata! I felt like I couldn't thank them enough. They truly made my stay in Okinawa a very special time.

The farewell party for the Study Tour group was an emotional experience. It was amazing how closely we bonded in such a short amount of time. It was a very sad feeling leaving one another because it felt like we had all become brothers and sisters. This night was filled with memories very dear to me. I made many good friends and miss them very much already. I have been e-mailing a lot of them everyday and we really like to stay in touch with one another.

I want to thank Mrs. Nadine Shimabukuro, our chaperone from Hawaii to Okinawa and back again. She made it smooth sailing for Ty and myself all the way. She was an excellent chaperone and we were very lucky to have her.

I also want to thank Mrs. Shizuko Akamine and Mrs. Bonnie Miyashiro, my koto instructors. Mrs. Akamine told me about the trip and encouraged me to go and Mrs. Miyashiro did a great deal of the initial paperwork and making contact with my relatives in Okinawa that I didn't even know existed before this trip!

This trip enabled me to learn more of the Japanese language and terms. I made friends with boys and girls from all over the world and even though we all came from very different backgrounds, it felt like we had known each other for a long time! Even though we spoke different languages and came from different cultures, we blended together very well. Meeting all these new people gave me a sense of self-confidence that I didn't have before the trip.

The Junior Study Tour is an excellent program. It brings so many diverse people together and we learned as a group about our shared common heritage and roots. I especially thank the government of Okinawa for sponsoring the trip. The educational aspect was fascinating and yet we had fun at the same time. My only regret is that it just went by so fast. I feel I have made many lifelong friends and I know that we will stay in touch and I hope we continue to share life experiences with one another. Mahalo.





タイ ジン コバシガワ

Ty Jin Kobashigawa

15歳 4世

ハワイ Hawaii, U.S.A.

ハワイ沖繩連合会



2003年7月17日は私が沖縄へと旅だった日で、私の人生にとって新しい冒険への始まりの日として記憶に残っています。

飛行機に乗った時、私はとても興奮していました。なぜなら、これが初めての海外旅行であり、家族や友人達と離れて6400kmも離れ外国へと旅だったからです。しかし、この時は、地球を半周したところで新しい家族やとても大切な場所を見つけることになるとは知るよしもないでした。

沖縄での滞在中に、沖縄の文化について多くの事を学び、世界中に住んでいる新しい友達を作ることができました。また、私は今まで写真でしか見たことのない親戚とも会うことができました。ジュニアスタディーツアーは、ハワイの普通の十代が経験することのできない素晴らしい体験の機会を与えてくれました。

このツアーの主な目的の一つは私達の祖先の文化、沖縄の文化を学ぶことであり、今ではより理解できたと私は信じています。首里城、県庁、平和祈念公園等を直接訪問したことは、本やビデオで勉強するよりも役に立ちました。

これらの訪問をとおして私は色々なことを学びました。まず平和祈念資料館では、戦争が、美しく平和な沖縄にもたらした悲惨さを学びました。資料館では写真やビデオをとおして戦争による被害者の光景を見ました。私は今でもなぜ、沖縄の人々に対してあのような悲劇が起こったのかを考えてしまいます。しかし、今では沖縄は世界の平和のシンボルとしてその役目を担っていると思います。なぜなら、平和祈念公園を訪れる人達は、私が感じたものと同じように平和の意味について考えさせられるからです。

首里城は沖縄の文化的な遺産を見せてくれるとともに、私達の祖先がどの様に暮らしていたかを見ることのできる壮大な場所でした。私にとって首里城はとても感動的でした。今までにこのような大きな建築様式をハワイで見たことがなかったからです。琉球王朝について学んだのですが、その王国がとても栄えていたことは、私の目を見

開くものがありました。その一方で、首里城が過去に4回も破壊されたことを知りとても残念に思いました。しかしながら、その度に、首里城は復元されていたことは、当時の琉球王朝が大きな力を持っていた証拠であると思います。

琉球村を見学した際に私は空手を習う機会に恵まれました。それまでに、空手を習ったことがなかったのでとても楽しかったです。最初は、他の参加者の前で演舞を行うということで少し尻込みしました。しかし、次第にとっても楽しいと感じるようになり夢中になりました。私達が習ったのは難しい型ではないと思いますが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

このツアーの良いところの一つは、今までに会ったことのない私の親戚に会うことができたことです。本当のことをいうと、空港で親戚に会ったときは少し緊張しました。しかし、彼らの暖かい出迎えであつと言う間に私の緊張感は吹き飛びました。親戚と過ごした時間はとても素晴らしい経験となりました。なぜなら、限られた時間しか無く、一生懸命楽しむことができたからです。例えば、親戚の出身地で行われた綱引きや今帰仁城跡を訪れたり、毎日、多くのイベントがありました。彼らと一緒に過ごす中で、私達は本当の家族になることができました。そのため、帰国の日に、さよならを言うことがとても辛かったです。

私はこのツアーで多くの楽しいことを経験しました。しかし、その中でとても良かったことは、国を超えて多くの友人達を作ることができたことです。ツアー参加前には、世界中に友達を作ることができるとは思いませんでした。しかし、参加者同士で共通の趣味があることを知りそれを基に次第に友情が芽生えて、最終的に異なるバックグラウンドを持つ参加者同士が仲良くなれたことはとても驚きでした。

ツアー後半の3日間は、ペンション・キャロライナですごしました。その期間中はとてもクレイジーでした。毎夜、私達は遅くまで色々なことを話し合ったため、平均睡眠時間はほんの2、3時間だったと思います。しかし、日中は、アドレナ

リンが私達の体を元気づけ全てのスケジュールをこなしました。異なるバックグラウンドを持つ人達と会話することは、彼らの住んでいる国や社会を学ぶのにとっても役に立ちました。このツアーの目的は沖縄文化を学習することですが、私は他のツアー参加者から彼らの母国についても学習することができたと思います。ツアー期間は一週間と短い間でしたが、私達は色々なことを共有しました。このことは私の人生にとって忘れることのできない貴重な体験となりました。

ハワイから私達を引率してお世話していただいたネイディ・島袋さんやこのツアーを企画、運営を担当したスタッフの素晴らしい仕事のおかげで、このツアーは成功したと思います。最後に、沖縄県へ、このツアーの実施を行っていることに対して感謝申し上げます。このツアーは本当に価値のあるものなので、どうぞこれからも続けていってください。

私の沖縄での経験は、沖縄文化に対する考えを深めるだけではなく、参加者同士の共通の絆を持つことができたことです。このツアーは私のルーツに対する感謝の意を持たせ、素晴らしい思い出を与えてくれました。また、参加者達は違う国や文化のバックグラウンドを持っているのですが、ツアーを終えた今では、私達には沖縄という故郷と呼べる素晴らしい場所があるように思えます。

July 17th 2003 will live on in my memories as the day that I embarked on a new adventure. This was the day that I left for Okinawa, not sure of what the world had in store for me. As I stepped on the plane I was filled with excitement and curiosity as this would be my first time in another country and 4000 miles away from my family and friends. However, I would soon be surprised to see that I had a place to call home and a family in a place half way around the world.

Throughout the course of my stay in Okinawa I learned many things about the Okinawan culture, made new friendships that stretched across the world, and even met relatives that I previously only seen through pictures. Having the opportunity to participate in this amazing trip allowed me to experience things that a typical Hawaii teenager would normally not have the chance to do.

One of the primary goals of this trip was to

learn about the culture of my ancestors, the Okinawan culture, and I believe I now have a greater understanding of it. Visits to the Shuri Castle, Kencho, Peace Prayer and Memorial Park, and many other sites allowed myself to gain a deeper understanding of Okinawa than that of any book or video would allow me to.

Through these sites we were able to learn first hand of the horrors a war can bring to a peaceful country and devastate a beautiful island. At the Peace Memorial Museum the tragedies of war were shown through pictures and testimonies of the victims. Even now as I think about it, it's hard to imagine the suffering the people of Okinawa must've gone through. However, Okinawa truly serves as a symbol of peace all over the world, because anyone who visits here will come away with a new understanding of peace, just as I have.

The Shuri Castle was also a magnificent site that allowed me to see the cultural heritage of Okinawa, and how my ancestors' world may have been. The site of the Shuri Castle was impressive, because I have never witnessed that type of architecture on such a massive scale in Hawaii. Learning about the Ryukyu kingdom was also an eye opener, because I never realized how vast the kingdom was at one time. On the other hand it was sad learning about how the castle was destroyed four times, but it also showed the resiliency of the country as it was rebuilt each time.

We also had the chance to participate in one of the performing arts, and I choose to do karate. I had never before had the chance to do take part in this and it was a lot of fun. At first it was a little scary since we had to perform in front of an audience, but we soon were having so much fun we completely forgot about them, and we were in a world of our own. It may not have been the most graceful or difficult performance, but we had a great time.

One of the benefits of going to Okinawa was the opportunity to see family I've never seen before, this really got me excited. I have to admit I was a bit scared when I first met them at the airport, but any worries that I had, were soon gone when I was greeted with open arms. It was quite an overwhelming experience,

because we were always doing something as a family trying to make the best of the few days we had with each other. From visiting their home towns giant tug of war to seeing the Nakijin Castle remains, each day was packed with things to do. With each passing day we really became family, and it was sad having to say goodbye to everyone.

Although there were many things I enjoyed about this trip, the most surprising and best part was the new friends that I have made. Never in my wildest dreams did I expect that at the end of the tour I would come out with friends that expanded across the globe. It was quite amazing how everyone was able to get along so well considering the different backgrounds we came from. However, we all found some common interest and from that we built our friendships.

The last three days of the tour and the Pension Carolina, were crazy to say the least. Each night we would share stories with one other, play some games, and have a few laughs in the process. I think most of us only got a couple hours of sleep the last few days, but adrenalin kept us going. The great thing about meeting people from around the world was learning about cultures of the countries they live in. Although the focus of this trip was to learn about the Okinawan culture, I also had the opportunity to learn a little about other countries from the stories that each participant in the tour told me. Although we only shared one week together, I will never forget the good times we had together and remember them for the rest of my life.

Finally, there are also a few people I would like to thank for making this the most memorable trip I ever had the opportunity to be a part of. First of all, my chaperone Nadine Shimabukuro, who was clearly an asset to the Junior Study Tour. She clearly demonstrated her knowledge and understanding of the Okinawan culture by sharing information with all the students. Being a travel agent, she also took care of any paperwork that customs would need. In my opinion she was the best chaperone anyone could have. Next, all of the staff members that organized the tour and made every second of the trip the best it could

be. Without you none of this would have been possible and I appreciate all the hard work you put into planning this tour. Finally, I want to say thank you to the Okinawan Government for allowing the Junior Study Tour to take place. I hope you continue these tours in the future, because they are definitely worth it.

My experiences in Okinawa have allowed me to gain a deeper understanding of not only the Okinawan culture, but also the common bond people from around the world share. This trip has taught me to appreciate my heritage and given me memories to last a lifetime. In the end, although we come from different places and cultures, there will always be another place that we can call our ancestral home . . . Okinawa.





玉城 由美

Tamashiro Yumi

16歳 2世

アメリカ U.S.A.

北米沖縄県人会



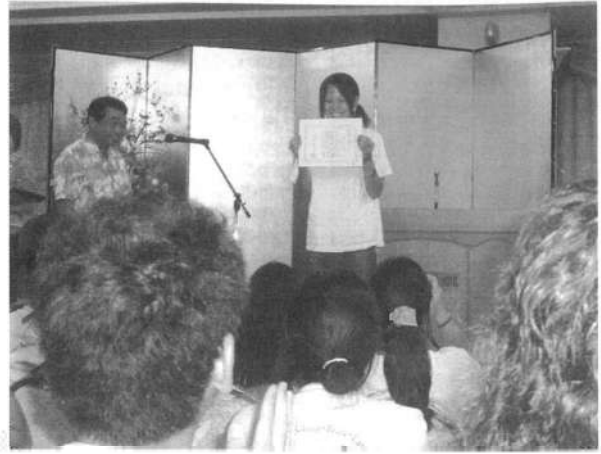
『沖縄での経験』

Okinawa Experience

このジュニアスタディーツアーに出発する前、私はちょっと行くのが憂鬱だった。沖縄はとても暑くて、湿気もすごいはずだし、まったく知らない人たちと沖縄を回るのはきっと居心地が悪いだろうなと思ったからだ。しかし沖縄に到着して叔母のジュディや他の県人会の人たちと会って、少しこの旅行を楽しもうという気になってきた。沖縄の気候は今まで経験したことのないものだった。一歩外に踏み出すと、まるで、この島全体がサウナになっているかのように感じた。最初の二日間は叔母とビーチに行ったりなどして過ごし、二日目の夜に叔父の友人の娘、ミナと“お祭り”に行った。こんなに楽しんだのは久しぶりだった。すぐ月曜日に来て、これから10日間一緒に旅をするメンバーと対面する瞬間が来た。自分が想像していたよりすんなり友人を作ることができた。その夜はツアーで一緒になる高校生の人たちが企画してくれた歓迎パーティーがあった。私たちはゲームをしたり歌を歌ったりして、より打ち解け、お互いを知ることができた。次の日から5日間はいろいろな場所を訪れた。国際通りや平和祈念堂、平和記念資料館、首里城、水族館、やんばる、琉球村。水族館は世界で二番目に大きいといわれているもので、海はとても美しかった。砂浜は真っ白で、水は透き通った青色だった。琉球村で琉球舞踊も体験することができた。ツアーが終わって、ホストファミリーの家に戻り、また一緒にすごすことができた。そしてお別れパーティーの日を迎えた。とっても楽しいパーティーだったけれども、同時にとても悲しかった。この五日間でとても仲良くなった皆にさよならを言わなければいけないからだ。私たちは皆泣いた。お互いの写真を撮り、別れを告げ、そして自分の国へ帰った。五日間でこんなに沢山のひとと親しくなれるなんて想像もできなかった。このような素晴らしい人たちと出会うことができ、叔母家族と四日間過ごすことができたことをとても幸運に思いました。

Before I left for this Junior Study Tour, I was a bit hesitant to go because it would be so hot and humid, and plus the idea of traveling around Okinawa with complete strangers wasn't very comforting. But after I arrived and was greeted by my Aunt Judy and other Ken-jinnkai members I was a bit more confident about the trip. I have never experienced a weather like Okinawa's. As I stepped outside it felt like a never ending Sauna. I spent the first two days with my aunt at the beach and the second night I went to an Omatsuri with my Uncle's friend's daughter Mina. It was very exciting experience since I had not been to one in many years. Soon Monday had come along and was time for me to meet my fellow tour members that I would be traveling with for the next five days. It turned out that it was not as bad as I thought and made friends very quickly. That night we had a welcoming party hosted by a high school that would be participating with us on the tour. We played games and learned dances to get more comfortable and acquainted. Over the next five days I visited places such as the Kokusai road, Okinawa's prefectural government, the Peace prayer and memorial park, Shurijo Castle, the Aquarium, Yanbaru, and Ryukyu Village. The aquarium is supposedly one of the biggest aquariums built, and the ocean was beautiful. It had white sand and water was clear sky blue. I also learned how to dance Buyo at the Ryukyu Village. As our tour ended, we were driven back to our host families to spend more time with them and then the following night was our farewell party. The farewell party was so exciting and fun but at the same time it broke all of our hearts because this day was the day that we would have to say farewell to the

people that we had gotten so close to over the past five days. We all cried, took pictures with everyone, and finally said our goodbyes and left for home. I never would have thought that I would get so close to so many people in just five days. But I am so glad and thankful that I had been given this opportunity to meet such wonderful people and spend a wonderful five days with them and another 4 days with my Aunt's family.





柳田 コリン タケシ

Yanagida Colin Takeshi

14歳 2世

アメリカ U.S.A.

ワシントン州 沖縄県人会



沖縄滞在中に、沖縄の文化、そして歴史上起こった様々な出来事が現在の文化に影響を与えていることを学びました。私たちが最初に訪れたところは那覇市でした。街を回ってみて、沖縄の街や道はワシントン州より小さいのに、とても混雑していることに気付きました。市内には、昔使われていた焼き物を焼く古いカマもありました。そのカマは昔から残されているカマの一つで特別な焼き物が作られた所です。

次に、私たちは第二次世界大戦での出来事を忘れない為につくられた平和祈念公園に出かけました。戦争中生き抜く為に人々は誰かの先祖のお墓に避難していた事を学びました。また、傷を負った人達の写真もたくさんあり、人々は病で飢饉におそわれるだけでなく同じ日本兵に殺されることさえあったのです。生き残った人々の体験を日記に書いた話もありました。戦争中、沖縄の人々は日本兵とは異なった方言を話ただけで殺されました。沖縄人はアメリカ兵に殺されただけでなく日本兵に殺されたのが多かったのです。またそこで、戦死した多くの人達の名前が刻まれた大きな石壁がずらっと並んでいるのを見ました。

翌日私達は沖縄の住民によって築かれた中国様式の首里城に行きました。そこには保存する為に壁で囲まれた小さな所があり、そこは神聖な所で人々はその前で祈る為にやって来るそうです。

首里城の建物はみんな中国様式ですが、一つだけ日本様式の建物があります。首里城の殆どが戦争で破壊され、最近復建されました。昔からの建物は殆ど残っていません。首里城の中央には大きな庭があり、特別な祝いや行事が行われ、国王は部屋の中にある王座から窓を通して見ていたそうです。戦争中に首里城の殆どが焼かれてしまい、兵隊が襲撃し、国王の王冠が奪われました。政府は誰がその王冠を取ったか分かっているが、その人と接触することが出来ず、王冠を首里城に返させることが出来ないそうです。

首里城を去り、次に琉球村を見学しました。そこには沖縄近海の色々な種類の魚が描かれた壁や、昔漁師が使った船を見ました。さらに昔から

残されたと思われる小さな村があり、機械を一切使わない手作りの工芸品や、食物等を置くお店がたくさんありました。

その後、空手の実演を見ました。空手に使う色々な武器を見せてもらい、使い方も説明してくれました。実演を見終わって、私達グループは実際に空手を習うことが出来ました。空手の型のひとつを習い、また、もし襲われた場合どうすればよいかも教えてくれました。それぞれのグループの練習が終わると、その練習の成果を発表しました。

次の日、私達はやんばるへエコロジーツアーに行きました。森に住むめずらしい動物について学びました。沖縄だけに生息する、とても大きくて、細い足を持った蜘蛛を見つけました。私は今までこんな大きな蜘蛛を見たことがありませんでした。私達は又、植物についても学びました。大きなさや豆みたいな植物があり、その種を乾かしてネックレスやブレスレット等が作れるそうです。森の中を歩き終え、滝にたどり着き、そこでしばらく休むことにしました。下から眺めた虹のかかった滝を見て、みんな写真を撮ったりしていました。休憩後、私達は名護のパイナップルパークへ行きました。色々な種類のパイナップルやパイナップルから出来たジュースやお菓子などがたくさんありました。

最後の日は、水族館へ行きました。おもに沖縄に生息する様々な種類の魚がたくさんいました。一番大きな水槽には鯨やマンタや他の魚が一緒にゆうゆうと泳ぎ回っていました。

沖縄に行く前に、私は皆さんから沖縄はとても暑く湿度の高い所だとは聞いていましたが、着いてみるとそれは猛烈な暑さでした。ワシントン州では夜には少なくとも温度が十度下がりますが沖縄では温度と湿度が夜十時半になっても下りません。外はまだ30℃くらいで私はまるで湿気に囲まれているように感じました。沖縄で10日間過ごしても、その気候に慣れるとは思いませんでした。話で聞いた沖縄はもっと小さな町が多く、高層ビルも交通渋滞も無い所だと思っていまし

た。しかし沖縄に到着してみると私の予想とは反対で、空港の駐車場を出ると、夜遅くにもかかわらず道路は車で混雑していました。ワシントン州も混んでいますが沖縄とは比較出来ません。私は道の狭さと、狭い土地に多くの建物を建てているのに驚きました。

沖縄での滞在最後に至って、多くの隣国ではアメリカの風習や生活様式を取り入れているようですが、沖縄は今でも独自の生活様式、文化を守っていることが分かりました。それは本当に素晴らしいことで、私は誇りに思いました。お世話を下さった皆さんに心から感謝を申し上げます。

During my stay in Okinawa I learned many things about the culture and how different events in Okinawa's history have affected its present day culture. One of the first places that we visited while in Okinawa was Naha city. When we started our tour through the city I noticed that even though Okinawa was a smaller place than Washington the streets and the cities were much smaller and much more crowded. While walking through Naha city we stopped at an old pottery kiln that was used long ago. These kilns that we saw were some of the only ancient kilns that remained from ancient times and they were also used to create certain kinds of pottery.

After we left Naha city we headed for the Peace Prayer and Memorial Park which was a huge memorial to remember the things that happened in World War II. While looking through the memorial I learned that during the war people had to take shelter in caves that usually had ashes from someone's ancestors in them just so that they could stay alive. There were also many pictures of injured people and what the people living in that time had to face, such as disease, famine, and even being killed by their own kind. In the memorial there were stories that told of different events seen through the eyes of some of the survivors told through their diary entries. During World War II the Japanese would kill people from Okinawa just because they spoke in a different dialect from the soldiers; Okinawan people were killed not only by the Americans but more by the Japanese soldiers than anyone else.

At the memorial we saw many smaller memorials composed of large rock formations honoring certain people from World War II, we also saw the names of many people that had died during the war on a large wall of stone which stretched across most of the memorial.

The next day we headed for Shuri Castle an ancient castle that was built by the Okinawan people but in a more Chinese style of architecture. On site of Shuri there was a small area enclosed by walls to preserve it; that area was a sacred place and people would come and pray in front of it. In Shuri there is only one building that is built in the Japanese style of architecture all the rest are built in a Chinese style. During World War II most of the buildings inside the castle were destroyed by bombings and have recently been restored. Most of the original architecture no longer exists there. The center of Shuri was a large open area in which festivals and other special occasions would be held, and the emperor or king would sit on his throne and look through a window directly in front of the throne and observe the festivities from inside. When most of the castle was destroyed during World War II soldiers came in and raided the castle and one soldier ended up taking the king/emperor's crown, and even though the government knows who has the crown they haven't been able to contact him and make him return the crown to Shuri.

After leaving Shuri we headed for the Ryukyuan Theatre where we took a tour around the area. On the tour the first thing we saw was a wall with all of the different species of fish known to exist in Okinawa, and after that we saw some of the boats that the Okinawan fisherman used in older times. Leaving the boats we came to a small village which was still standing from previous times and there were small shops setup where people would craft items and make food the old fashioned way by hand instead of using a machine.

Upon the completion of our tour, we were given a demonstration of karate. The people that came to teach us karate showed us some different kinds of weapons and how to use them. Once their demonstration was complete,

my group began practicing karate with one of the students of the main teacher. He taught us one of the different kinds of karate that they had performed for us earlier and he also showed us what to do if someone tried to punch you or grab you. When each of our groups were finished practicing the “area” we chose the study group participated in a small performance

The next day we headed to the Yanbaru rain forest to go on an ecology tour. We learned about a lot of the different animals that lived in the forest, one of them was a type of spider only native to Okinawa; that spider is much larger than anything I have ever seen but is skinnier legged than I would expect with such a large body. We also learned some things about the plant life, there is a plant there that looks like a giant pea pod and when it dries out some people use the seeds inside of the pod to create necklaces and other types of jewelry. At the end of our tour through the forest we came to a waterfall, where everyone decided to take a break and stay there for a while. A lot of people decided to take pictures of the waterfall because the view of the waterfall from the rocks below was incredible and there was a small rainbow that stretched across the bottom of it. After everyone had finished resting at the waterfall we headed to the Nago pineapple park. There we saw many different kinds of pineapples and also every kind of product that could possibly be made from pineapples, which included everything from juices to pastries.

For our last tour day we headed to an aquarium that exhibited many different species of fish that were mainly native only to Okinawa. In one of the largest tanks in the aquarium there were two huge whale-sharks swimming slowly around the tank along with a few Manta rays and other fish.

Before visiting Okinawa, I expected it to be hot and humid because everyone had warned me about the climate, but when I arrived there hot and humid was an understatement. In Washington the temperature would always drop at least 10 degrees at night, but in Okinawa both the temperature and humidity would barely budge.

Even at 10:30pm it was about 85 degrees outside and felt like a mist was surrounding me the whole time. Even after staying there for 10 days I still don't think I ever completely acclimated to the weather. I had also expected Okinawa to be covered in small cities without a lot of buildings and without a lot of traffic just from what I had heard. But when I arrived there it was the complete opposite, once we got out of the parking lot to the airport all I saw were crowded streets and a ton of cars considering it was late at night. Washington's cities are crowded but it is nowhere in comparison to the cities of Okinawa. I was amazed at how small the streets were and how closely they placed buildings in such small areas.

In the end during my visit to Okinawa I found out that even though many of the neighboring countries are adopting American traditions and lifestyles, Okinawa has been able to retain and hold its own unique culture and lifestyle. I think that that is wonderful and it makes me very proud of my heritage. I would like to sincerely thank everyone who helped in the organization of this year's Junior Study Tour.





アシュリー フリック

Ashley Frick

14歳 3世

アメリカ U.S.A.

ニューヨーク沖縄県人会



世界中に友達ができ、これまで会う機会のなかった家族に出会うことができた、沖縄での素晴らしい体験を報告させていただきます。感謝します。

沖縄では、県庁を訪ね、人と島文化の過去と現在を学び、平和祈念公園で時間を過ごし、私自身についてこれまで知らなかった多くのことを発見しました。そして、本物の友情、誠実さ、信頼関係を体験したほか、ちょっとしたロマンスもありました。

私たちの生真面目な様子や可笑しい場面は、2003年ジュニア・スタディ・ツアーの全行程に密着していた撮影班により、すべてカメラに収められました。

ツアーはもちろん忘れられないものですが、中でも一番の思い出は、参加者がそれぞれ、サンシン、琉球舞踊、空手の中から一つを選んで2時間ほど練習した時間です。私は「空手」を選びました！私たちは、皆が食事をする前で披露しなければなりません。ほとんどの参加者、特に私は、もうボロボロでしたが、それが却っていい思い出になりました。

世界からの参加者のほとんどは、木々の少ない大都市に慣れていますが、沖縄は美しい自然のある緑広がる島。その美しい景色を見るために、私たちは比地大滝までエコツアーをし、そこで自由に飛び込み涼みました。暑さが厳しく、中には湿気に慣れない参加者もいました。私もハイキング半ばで気を失い、道にあった一番大きな岩につまづいて転んでしまいました。ようやく滝に辿りついた私は、喜んで1時間たっぷり泳ぎまわりました。

その翌日はいよいよビーチ！私はあまりに興奮していたので、バスの中で歌まで作ってしまいました。その歌を、友達になったコリン、ケイティ、タイ、オリバーに歌ってあげると、勘弁してくれと言われてしまいました！私たちはまず、水族館とイルカ・ショーを見ました。ビーチは綺麗で太陽がとてもまぶしかったです。泳いだり、日光浴をしたり、砂でお城をつくって壊しあったり、ビーチバレーをするなど、いろいろなことをして楽しめる場所でした。私は、泳いで、日光浴をして、ビーチバレーでは友達と衝突してしまいました。その夜、宿泊先のペンション・カロライナで

は、素敵な友達たちが、よく日焼けした背中をしっかりと叩くことを忘れませんでした！

最初から最後まで、私は自分についてたくさんのことを発見しました。自分がしっかり者で、リーダータイプで、物事の善し悪しが判る年齢なんだということを知りました。友達は、私が身も心もきれいな人間だと言ってくれ、見返りを求めないで与えていけば幸せになれると言ってくれました。

今回の旅でできた大勢の友達とは、今でも連絡をとりあっています。この旅でたくさんの経験が得られたのは、ティコさん、ヒデコさん、トモさん、おばあちゃんのユキとおじいちゃんのロバート・ステッタ、そして、この素晴らしい旅を準備してくれた母と父のお陰です。

このツアーは世界から多くの国々を呼び寄せ、この時だけは、身のまわりの憎悪や戦争のことを忘れさせてくれました。私は、この感覚は誰もが皆、経験するべきだと信じます。なぜなら、この旅の平和に満ちた感覚は、憎しみや怒りをはるかに超えるものだからです。旅のあいだ中、カメラでは捉えることのできない、しかし記憶の中に生き続ける、新しくできた友達との素晴らしい瞬間がたくさんありました。あまりにも楽しかったので、同じ友達たちと5年後にまた沖縄を訪ねようと計画しています。この先、他の人達もジュニア・スタディ・ツアーを体験できることを願っています。

Thank you for the opportunity to tell you of my wonderful experience in Okinawa, where I made friends from all over the world and had the chance to meet family I never met before.

In Okinawa I learned of the prefectural government, the past and present culture of the people and land, spent sometime in the Peace Prayer and Memorial Park, and found out things I never knew about myself. I also experienced true friendships, loyalty, trust, and maybe even a crush.

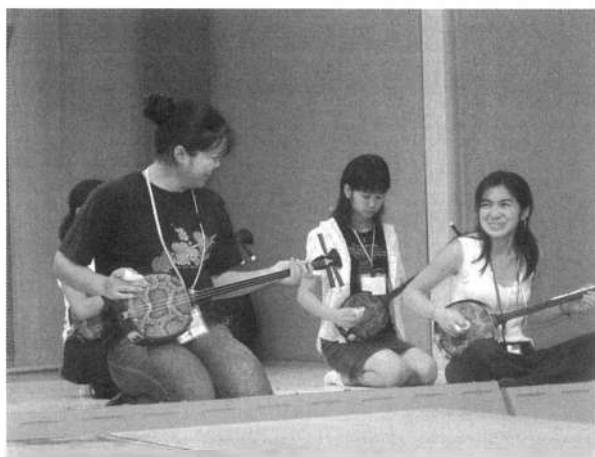
Through out the entire trip, the Junior Study Tour of 2003 was followed closely by a film crew that captured every

serious and hilarious moment that the students may have encountered.

Although the trip was unforgettable, to me, the number one memory was when the students had maybe two hours to learn either sanshin, the traditional Ryukyu dance, or karate. I chose KARATE! We had to perform in front of an audience while they ate their meal. Even though most of the students, especially me, messed up it made the whole experience even better.

Most of the students from other countries are used to big cities with scarce trees, but Okinawa is a vast green slate with beautiful nature. To see the beautiful scenery the students took an ecology tour to the Hijiotaki Waterfalls where we were allowed to jump in and cool off. The heat was intense and not everyone was used to the humidity. Halfway through the hike I ended up passing out and then tripped over the biggest rock in the pathway. When I finally reached the waterfall, I gladly swam around for a good hour.

The very next day was the beach! I was so excited that I made a song up while we were on the bus ride. I sang it to my friends Colin, Katie, Ty and Oliver from the trip and they begged me to spare you! First we went to the aquarium and to a dolphin show. The beach was beautiful and very sunny out. There was much you could do like swimming, tanning, knocking over each others sandcastles or playing volleyball. I swam, tanned, played volleyball and of course got hurt in a collision and had a very nice patch of sunburn. That night at the Pension Carolina my wonderful friends made sure I got a nice smack on the back!



From beginning to end I found out a lot about myself. I learned that I have a strong personality, I'm a leader, and that I'm old enough to know the difference between right and wrong. I learned from others that I am a beautiful person inside and out and can be happy giving and not receiving anything in return.

On this trip I made many friends that I'm still in contact with today. On this trip I experienced so many things that I wouldn't have been able to experience if it wasn't for Teiko-san, Hideko-san, Tomoo-san, my Oba-chan and Ogi Yuki and Robert Stocketta, and my mother and father who prepared me for my great trip.

This trip brought many countries from all over the world together and for once this year, we forgot about all the hatred and war going on around us. I believe that everyone should experience this feeling because all the peacefulness on this trip would surpass any hatred or anger. On this trip I had so many great moments with new friends that could never be captured by a picture or film, but could always be replayed in my mind. I had so much fun that I'm planning on going back to Okinawa again with the same friends in five years from now. I can only wish that others have a chance to experience the Junior Study Tour of years to come.





仲原 オリバー 竜司

Nakahara Oliver Ryoji

16歳 2世

カナダ Canada

カルガリー沖縄県人会



世代の架け橋、ジュニアスタディーツアー

夏休みを間近に控え、友達、バンド、野球クラブ等で毎日を過ごすことを心待ちにしていた矢先、左肩を傷め、この夏一切のスポーツを禁じられてしまった。「つまらない夏休みになるなあ」と気落ちしていたとき、ジュニアスタディーツアー参加者推薦の連絡が入ったのだ。最後に沖縄を訪れたのは6年前、この旅が忘れられない思い出になると確信していた。ただ沖縄の文化を学ぶということだけでなく、他国から参加する沖縄の子弟達とも出会えるからだ。

飛行機に足を踏み入れる前から長時間の飛行を覚悟していたが、合計15時間の窮屈さは大いに報われた！なま温かい湿った空気が鼻を突き上げてきた瞬間、幼かった頃の記憶が甦ってきた。真夜中近くだというのは、暑さは相当に厳しい！身体中の水分が先を争って湧きでくる。ジワジワしたものを絶え間なく肌を感じながら「ああ、ふるさとだなあ！」と心が安らいでいくのを感じた。

ツアーの初日、私にとって最高に緊張した日だといえる。他国から参加している同年代の生徒達と顔を合わせることはわかっていたが、新しく友達をつくるということはどんな時でも難しいものだ。人いっぱいの部屋に足を踏入れようとした時、「何だ、学校の始業式と変わらないじゃないか」と少しは気が楽になった。ただ一つためらったのは「言葉の壁」。それでもしばらくするうちに「さてよ、日本語が全く話せないのは自分だけじゃないぞ！」と気がついたのだ。それから、恥を捨て、まず米国からの参加者たちと話し始め、日が経つに連れ、日本語を一言二言使いだせるようになったのだ。最初の2、3日を通して、地元の生徒達とゲームをした事で更に興味が湧いてきた。彼らが教えてくれた「チュンチュン」という遊びが、みんなとのコミュニケーションを取る優れた道だとは直ぐに気づけなかった。この遊びで、お互いに共通するものが見いだされただけでなく、楽しく時を過ごせることができたのだ。それをきっかけに、急激に親睦が深まり、同

じグループの仲間だけでなく、他のグループの生徒達とも新しい会話が広がっていった。

ホテルの部屋に落ち着き、夕食を終えたあと、面白いゲームや踊りで和やかなひとときを過ごしながら夜が更けていった。関係者の方々、地元の生徒達は、とても親切で、親しみやすく、楽しめないはずがなかった。楽しい夜のひとときに後ろ髪を引かれる想いで部屋に戻り、この一日を振り返ってみた。初日から、非常に興味深い場所を訪れ、私は今迄、沖縄にこんなに興味深い遺跡などが存在するとは知らなかった。全ての史跡を訪問したとはいえないが、故郷である沖縄の伝統は非常に興味深く、予想した以上に多くのことを学んだ。

残念なことは、自分が日本語を十分に話すことが出来ず、聞いて理解する事しか出来なかったことだ。それでも、自分なりに一所懸命、より多くの言葉を習う努力をし、幾度も仲間達を相手に話すようにしていた。また、私は地元の参加者に、彼らが今迄学んできた英語を使用する影響を与えただけでなく、数々の英会話の秘訣を教える事もできたのだ。参加している地元の生徒達は、このツアーの為に英会話を習い始めたばかりだったというので、どのような反応を示すのかとても興味深かった。だが、すぐに会話に不自由しないことが判り、しかもこちらがゆっくりと説明すれば、単語や決まり文句の意味も理解出来たようだ。彼らの、英語を喋るのだ！という意気込みは、私自身にとっても、ただ日本語を上達させる助けになっただけでなく、ためらわず、自信を持って、日本語で意思表示を頻繁にすることを促がしてくれた。

一週間を通して、数々の史跡を訪問した。G8サミットの開催場所、海洋博公園、世界最大の水族館、首里城、そしてエコツアー。その中で、沖縄文化学習の一つとして訪れた、沖縄県平和祈念資料館は最も私の興味を引いた。昔、沖縄住民が、土地の権利獲得の為に戦った戦争について十分に教えられた。その戦いで辛苦を乗り越えて来た沖縄住民の愛郷心と魂、その伝統を受け継ぐ血を引ていることを更に誇りに思った。巨

大な漆器彫りの仏像は、驚く程の迫力だった。仏像が彫られた悲しい由来を知り、そして「魂を打ち込めば何事も成せば成る！」と教えられた。

数々の活動に参加した中で「紅型染め」は非常に興味をそそられた。独創的な方法で、昔からの製造過程をしっかりと教えられ、実際に、自分で作った紅型を持ち帰る事が出来たのはとてもうれしかった。

エコツアーで、滝まで歩いた事も素晴らしい体験だった。徒歩で上ったり、下ったりしたのはかなりの運動だったが、自然に囲まれた山道を一步一步踏み締め、最後に辿りついて目にした滝は、本当に美しかった。多くの植物が、戦争中に食料や薬として役立つ事を学ぶ事もできた。

以前にも沖縄を訪れたことはあったが、この旅が最も心に残る旅だと正直に言える。最後に訪れた時は9歳の頃、ツアーで出逢った仲間との新しく芽ばえた友情を含め、この旅こそ永久に私の記憶に残るだろう。様々な場所での見学や体験を通して得た数々の知識を身に締め「私は、沖縄出身だ」と誇り高く言える。戦場で最悪の状態でありながらも郷土を守る為に戦い続けた沖縄住民。敗戦したにもかかわらず、誇りを持って戦った沖縄人の子孫であることの誇りを湧き上げてくれた。

旅も終りに近づき、最終日の「さよならパーティー」では、複雑な思いが、一人一人の胸の中をめぐっていただろう。短い期間だったが、ツアー中に芽生えた深い絆は、長年の友のように感じた。笑顔の上にフラッシュがキラメク中、「もしかして、もう二度と会えないかも・・・」と淋しい思いが胸の奥を埋めていくのがひしひしと感じられた。

あれから一週間、旅の思い出は、まだ私の心の奥に刻み込まれている。旅の初日に出会った笑顔、夜、焚き火を囲って踊ったこと。この旅で、学び、過ごした全てのひとときを決して忘れることはないだろう、そしてまた、これからも私の人や歴史に対する見方に大きな影響を与えることだろう。2003年のジュニアスタディーツアーに、参加する機会を与えてくれた沖縄の方々には深く感謝します。私は、この素晴らしい体験を通して得た知識を、次の世代に伝えて行くつもりです。また、ツアーの間、問題も無く、参加者が楽しく過ごせるようにと、いろいろと手助けして下さったボランティアの方々にも、感謝します。いつの日か、心引かれる美しい故郷沖縄に戻れることを願って。

A couple months during school before the summer was to begin, I would have been looking forward to the same old summer. A summer filled with friends, my band and a baseball season to finish. But recent accidents in sport related injuries have led me to realize that I would not be able to be apart of those events during this summer. Depressed by the fact that I would not be doing anything this summer my mother received a call from the local Okinawa club in my city. Surprised by the fact that I have not been to Japan in 6years, I knew that this trip would be a memory that I would never forget. Not only because of the Okinawa culture would I learn, but the friends that I would make from all over the world.

Before I had even set foot on the plane itself, I knew that it would be a long flight to my destination. But after the totaled 15 hour flight I realized that the long hours had been worth it. The warm humid air that I first breathed in made me feel like when I was a kid. Although it had been near night time, it had still been very hot. Even though the constant sweating and humid air, I felt as though I were in heaven it felt like my real home.

The first day had been the most nerve racking for me, I knew that I would be meeting people my age from different countries but making new friends is always hard. As I stepped into the room filled with people, I realized that it would be no different than your first day at school. The only thing holding me back was the whole language barrier. Then I remembered that I would not be the only one that would not be speaking a lot of Japanese. I first began to talk to kids from America then as the day moved on I broke out from my shy shell and tried to strike a conversation in Japanese with the knowledge that I knew. . . This to me had become interesting because, with the examples of playing games from the first few days with Okinawa students. It had not yet occurred to me that a game that the Japanese students taught to me “chun chun”, was in fact a very good way of communicating to everyone else. Not only did it create us to have something else in common but also a way to have fun with each other. >From then on the friendships just kept developing, not only with the same kids every day but starting new conversations with others.

As we settled into our hotel rooms and had dinner, the night was filled with fun games and dances to make us feel more welcome. All of the students and staff had been so friendly and helpful that it was difficult not to have fun. As the night had settled down and we headed back to our rooms, I sat in my bed thinking of the days I had ahead of me, and

what an experience it was going to be. From the first day on we had visited many extremely interesting sites; I never knew that a place like Okinawa would have so many interesting places to visit. Not to mention all of the historical sites that we had gone to visit. Learning about my Okinawa heritage and my native land had been so interesting and I learned a lot more than I thought I would have.

Sadly I had come to realize that I could not speak my native language very well, but only understand what was being said. But with that I tried my hardest to learn more of the language and used it often to my other friends. Not only that but I also influenced them to use the English that they have been learning, so that maybe I could throw in a few tips. All of the students had previously learned the English language prior to the tour, so I found it very interesting to see how they would do. I soon found out that all of them had spoken English very well and they could understand it if explained slowly. With their eagerness to speak more English it had encouraged me to speak my mind more often. Not only did it help me improve my Japanese but my self confidence to speak more often in my native tongue and use it as often as I could.

Through out the week we had visited many sites such as where the G8 summit had been held, the giant aquarium expo, the Shuri Castle and the Nature hike. Out of all of the sites visited, I had felt that the cultural lessons learned at the Okinawa Prefectural Peace Memorial Museum had been the most interesting. It had taught me well about Okinawa's past and the war that was fought to obtain right over the land. Now knowing of the hardships that the Okinawa Citizens have been through that war, I am even more proud to be part of an Okinawa heritage. I had also thought that Bhudda that we had visited made of lacquered wood was very extraordinary. It beards a very sad story of a man who built it and why he did it. This had made me realize that if you put anything to your mind you can eventually achieve it.

With the many activities that I had been involved in, I thought that the Bingata painting had been the most intriguing. It had taught me of the original ways that the creators had done it in the past. I was also lucky enough to take my piece of art home with me. Another activity such as the Nature hike to the water fall was another amazing experience. Trekking on and on up and down up and down was quite the work out. In the end the site of the waterfall had been beautiful along with the much natural vegetation that had been viewed on the way. I learned a lot about the

plants that had helped many soldiers in the war for food and other uses.

Although I had visited Okinawa before, I can honestly say that this is the one trip out of all of them that I will remember the most. For when I had visited long ago I had only been around 9 years old, this experience will last in my mind forever, with the many friends that I have met throughout this trip. Not only that but all of the sites that we had gone and visited, all of the information that I had taken in and how I realized to be more proud of where I am from. I found it most interesting that no matter how bad the circumstances were in the battle for Okinawa the Okinawa people still proceeded to fight for their land. Even though in the end they were defeated the thought that they fought and fought just for their pride, makes me proud to be who I am.

As the tour was coming to an end with sayonara party, many thoughts and emotions had been going through everyone's minds and hearts. During this trip everyone had created such a deep bonds with one another. Even though it had been such a short time to get to know each other, it had felt as though we had been friends for years. Not knowing much about them, I still had felt a strong bond between us all. Maybe it had been because we had so much in common together but we just did not know it. It had been a very sad moment realizing that I may never see the friends that I have met in Okinawa ever again, and I think that everyone else knew it as well as the cameras flashed to hold the memories.

It has now been just about one week since I have got back from the junior study tour, but the memories in my mind are still there as if they just happened. I still remember the first day in which I had arrived to smiling faces, to the bonfire at night in which we all danced together. I will not forget one moment of this trip and it will always have an impact on my outlook of people and history itself. Not only of the Okinawa heritage and culture but the lessons of life learned from its experiences. I would like to thank the Okinawa Government for allowing me to be involved with the Junior Study Tour of 2003. It has been an amazing experience for me and I hope to fulfill my knowledge to the generations to come. I would also like to thank all of the volunteers on the tour; they had made it fun and a very comfortable learning environment. One day again I will return to my home land, the land of beauty and the land that I love.



ディナマエ エロイ リェゴ

Llego Dinahmae Eroy

17歳 3世

フィリピン Philippines

フィリピン沖縄県人会



フィリピンを代表してこのジュニアスタディーツアーに参加できた事をととても名誉に、そしてうれしく思っています。

出発する数ヶ月前まではまったく興奮していませんでしたが、当日を迎え、あと数分で那覇空港に到着するというその時になってこれは夢ではないのだと気づきました。きれいな海、美しい島に降り立ったとき、私の望みは叶ったのだと思いました。

フィリピンの国旗とジュニアスタディーツアーのマークを掲げて、スタッフの方々が満面の笑顔で私たちを温かく歓迎してくださいました。親戚の皆さんまで空港に迎えに来てくれるとは思っていませんでした。彼らの姿を一目見たとき、感動して心が震えました。さまざまな感情が入り混じって、祖母や、真境名 ふみこさん、私が愛する人たちの記憶をよみがえらせてくれました。真境名さん一家はその夜、家族皆で私のために歓迎会を開いてくれました。そのときの気持ちはとても言葉では表せませんが、皆が集まり、一つになりました。

待ちに待った日が来ました。午後一時に、ツアーの参加者が沖縄県国際交流・人材育成財団に集合しました。そのあと船員会館に向かいました。そこは、私たちが二泊する宿で、あらかじめ指定されたルームメイトとともに過ごすこととなります。七時から交流プログラムやゲームをすることになりました。トリシアと私はフィリピンのフォークダンスで‘レロン レロン シンタ’というダンスを披露しました。皆はとても感動し、拍手を送ってくれて、フィリピンの衣装で皆と写真を撮ったりしました。とても楽しかったです。そして10時には就寝しました。

7月22日(火)

スケジュール通りに七時に起床し、その三十分後に朝食をとりました。8時半には出発して、沖縄県庁を訪れました。そこで簡単に私たちの第二の故郷、沖縄について勉強しました。その後、国際どおりに行きました。安くてウィンドウショッピングができるお店がたくさんありました。午後

1時から午後三時まで昼食を取り、平和記念資料館に向かいました。そこで職員から簡単にこの施設に関する説明を受け、沖縄戦のビデオをみました。そして、平和の礎を見て周り、平和祈念堂に行き折鶴を奉げました。ホテルに戻って午後七時に夕食をとり、就寝時間までにいくつかのレクリエーションをしました。

7/23(水)

笑顔で始まる一日はとってもいいですね！今日はパトリス・レジナの誕生日なのです。彼女の誕生日を歴史ある首里城で迎えることができ、私たちはとてもうれしかったです。首里城では、ずっと昔に存在した琉球王朝について学びました。その後は、琉球村に行き、沖縄の伝統工芸について勉強しました。そして、三味線、舞踊、空手の三つから自分が興味のあるものを選び、それについて学びました。私は琉球舞踊を選択しました。各コースともその練習の成果をみんなの前で披露しました。

今日は昨日とは違う場所ペンションキャロライナに宿泊です。ここで三日間、新しく割り当てられたルームメイト達と過ごします。夕食の後、トリシアの誕生日のために、サプライズパーティーがありました。これには本当に驚き(サプライズ!)でした。私とトリシアは本当に何も知らなかったのです。トリシアにとってはこの大切な日を家族と過ごせなかったけど、とても嬉しそうでした。みんなに祝ってもらって、とってもいいパーティーでした。本当にとっても楽しかったです。

7/24(木曜日)

さあ、行くぞ！最もきつそうな一日の始まりです。朝の10時にヤンバルエコツアーに出発しました。最初にオリエンテーションをし、美しい比地大滝を見るために長い、長い道のりを歩きました。森を歩いて登ったのは生まれて初めての経験です！

もうあんなに歩くことは当分無理だと感じました。でも、とても楽しかったです。次にG8サミットの開催された万国津梁館を訪ねました。そこはとてもくつろげる場所で、夕日と、青緑色の海

という調和の取れた風景に囲まれていました。そしてペンションに戻り、ひたすら休んで一日を終えました。

7/25 (金)

とても疲れている朝でした。だけど、私たちは最後のアクティビティをととても楽しみにしていました。まず海洋博に行き、世界で二番目に大きい水族館を見に行きました。ヒトデに実際に触れたり、私たちの国とはまた違う沖縄の海の生き物を勉強したり、イルカショーを見たり、とても興奮しました。そして、ビーチでレクリエーションを試してみんなで楽しい時間をすごしました。ペンションに帰る前にパイナップルパークにも立ち寄りしました。バーベキュー形式の夕食を終えてキャンプファイヤーがあり、たくさんのゲームや、歌ったり、踊ったりしました。私とトリシアは、感謝を込めて参加者全員に記念の品を渡しました。みんなと楽しんで、三時に眠りにつきました。

7/26 (土)

今日は寝不足でしたが、次の日程のために出発して、そしてみんなとお別れです。みんな「笑顔」と「悲しみ」の二つの顔を浮かべて、ペンションを出ました。涙がこぼれそうで、また同時に嬉しくもありました。まだお別れパーティーがあるからです。

7/27 (日)

息が詰まるような気持ちで、家族とともにお別れパーティーの会場へ行きました。修了証書が手渡されました。私たちの経験したたくさんのことがビデオで上映され、列席者も楽しんで観てくれていました。そしてトリシアと私はもう一度“レロン・レロン・シンタ”を踊りました。(歓迎パーティーで踊ったのと同じです。) 皆さんが楽しんで観賞してくれていました。

悲しいことは考えないようにしていましたが、ついにお別れのときが来てしまいました。皆にまた会えると信じています。いつ、どこで再会できるかはわかりませんが、いつでもその日を待ち望んでいます。ほとんどの人が泣きながら、みんなと離れる寂しさを隠しきれないでいました。でもいつものように「連絡してね!」といいました。私もまたこらえきれずに皆に言いました。「皆に会えなくて寂しくなる!」

7/28 (月)

最後の日です。フィリピンにいる本当の家族に会えるのだから、もっとわくわくすると思っていたのに何が、私の心を引き止めているのを感じました。「もう少し沖縄に滞在してもいい?」と言いたい気持ちに駆られました。沖縄がすでに私の

心の中に根付いているのを感じました。私の、とても大切な一部です。この素晴らしい島、沖縄を私はとても好きになりました。

" A one of a kind Adventure"

Being one of the "chosen-few" for being a participant of the Junior Study Tour 2003 is in fact an honor and a great pleasure representing my country, having the privilege of visiting the homeland of my beloved grandmother, and experience one of a kind adventure.

At first, honestly, i was never that excited a few months back before the real event. Until it was July 18, the arrival date, a few minutes before landing at the Naha Airport. Then i realized that i wasn't dreaming. Seeing the wonderful ocean and fantastic island, and stepping for my first stand at Okinawa was totally a fairy tale come true!

A heart-warming Philippine flag and a Junior Study Tour 2003 banner together with the staffs welcomed us with their extreme smiles. I never expected that my relatives will also welcome me in the airport. I was so overwhelmed and touched when I saw them. It was actually a mixed emotion I felt, remembering back all of the loving memories of my Okinawan grandmother, Fumiko Majikina. I don't know if I was excited or I want to cry with that event. They even prepared a welcome party for me with the whole Majikina family when the evening came. No exact words could express what I really felt to meet and gather them all for a night.

July 21 (Monday)

The Genesis (beginning) had now come! It was 1:00 in the afternoon when all of the participants gathered, met each other, and held an orientation at the Okinawa International Exchange and Human Resources Development (OIHF). After that, we went to Hotel Sen-in Kaikan where we will be staying for two nights with our designated roommates. When it was already 5:30, we had our interchange program and welcome party at 7:00 in the evening, where Trisha and I performed a Philippine Folk Dance entitled "Leron Leron Sinta" especially for all the participants. We were so overwhelmed by all of their applause and their picture taking with us wearing our Filipiniana costume. It was so fun! Then 10:00 in the evening came for the bed time.

July 22 (Tuesday)

As a daily routine, we woke as early as 7:00 in the morning and have our breakfast 30 minutes after. We left the hotel at exactly 8:30 to visit the Okinawa Prefectural Government (Kencho). We had a brief orientation there where we learned a lot of things about our second homeland, Okinawa. After that, we went to Kokusai-dori, where you can see lots of "yasui" stores to do some window shopping. Then have our lunch at 1:00. At 3:00 in the afternoon, we went to Peace Prayer and Memorial Park. We had some briefing there by the staffs of the Peace Memorial Museum, watched a video clippings, and tour of the Cornerstone of Peace (Heiwa no Ishiji) and in Peace Prayer and Memorial Hall where we made some Origami. We went back to the hotel again, have our dinner at 7:00, then did some recreation before bed time.

July 23 (Wednesday)

What a great day to start with a smile! Because, it's Patricia Regina's tanjobi! We were so excited celebrating her birthday at the Shurijou Castle, where we had a little knowledge about the kings of the Ryukyu Dynasty, many centuries have passed by. Then we went to Ryukyu Mura, where we learned Okinawan Traditional Arts. We had a class there where we will be choosing one from Sanshin, Buyo, or Karate. I chose Buyo, an Okinawan Dance. Then each of the class performed on stage.

This time, we went home to a different hotel, at Pension Carolina, where we will be staying for three nights with new sets of roommates. After having our dinner, we had a little surprise party for the birthday girl, Trisha. It was truly a surprise because it was the only two of us who didn't know about the surprise party. Trisha was very happy even though she wasn't able to celebrate it with her family. But it was worth it, because all of us were able to fulfill the missing space she had felt. So it was still fun!

July 24 (Thursday)

Here we go...the most tiring day of the activities. At 10:00 in the morning, we went to Yanbaru Ecology Tour. There we have an orientation first then have our longest walk to reach the beautiful Hijiotaki Waterfalls. It was the first time I had climb a forest, ever! I swear, I felt like I can't afford to stand and walk for a month. But still, it was exciting though.

Then we went to Bankokushinryokan where the G8 Summit was held last year. It was very relaxing place surrounded by the harmonious sunset and invigorating blue-green ocean. We went back again to the lodge and just rest, rest, and rest for the whole night.

July 25 (Friday)

What a tiring morning! But still we're so excited for the last activity. We went to Ocean Expo Park, the second most largest aquarium in the world, where we handed a real starfish, saw different marine resources of Okinawa and witnessed an exciting dolphin show. After that, we had a recreation at the beach, where some of us spent a very hot and sticky swimming moment with each other. Then we dropped by the Pineapple Park before going back at the lodge. We had our unique last supper in a barbeque theme. Then have our campfire after where we had lots of games and danced. Before night ended, Trisha and I gave some piece of memorabilia to all of the participants as a token of "Thank You" for all of them. Some of us spent the night full of fun with their close friends until 3:00 dawn.

July 26 (Saturday)

Lack of sleep. But still gotta move for the fun is all over and we will be parting different ways now. We left the lodge wearing two-mask: a 'smile' and a 'sad' face. Quite teary, at the same time glad. But we never loss hope, for there is till yet the Farewell Party we've been waiting for.

July 27 (Sunday)

Holding back our breathe, we still went at Miyako Hotel to have our Farewell Party together with our families. Governor Keiichi Inamine hand us our certificates respectfully. Then a sneak preview of our enjoying experiences was shown to the visitors. Once again, Trisha and I danced the "Leron Leron Sinta" (the same dance we performed at the welcome party), where everybody did really appreciate and loved our performance.

Until the saddest fear did not escaped the fact. the time when we have to split out the most unwanted word, not goodbye, but "Farewell". For we believed that we'll still be meeting each other. We don't know exactly when and where, but we'll always be looking forward for it! Most of us cry and couldn't hide their feelings of longing for each other inside. But as we

always say: "Keep in Touch!". Well, neither do I couldn't hide the words I can not keep to myself: "I'll surely miss them all!"

July 28 (Monday)

The finale scene is now on air... I thought I was so excited coming back home to my real family in the Philippines. But then, I felt like there was something holding me back, and I felt like saying: "Can I extend my stay here in Okinawa?". For I realized that the place has now a space in my heart, it now became a special part of me. I've already loved the fantastic island of Okinawa.

Few minutes before the departure time, we spent our last precious laughs, smiles, and exchange of Thank You's to each other... Until we have to hug and kiss them now for the last time and say again the word "Farewell". As I walk inside and leave them, I couldn't control what I really felt inside. it really made me cry... Then again I said to myself the words I cannot keep inside of me: "I'LL SURELY MISS THEM ALL!!!"..."I'll be coming back here again and once meet you all someday!". then smiled, waving to them for the last time...



ACKNOWLEDGEMENT:

I would like to send my sincere "Thank You" to all the following people who now became a special part of me and who made all of these possible:

- Majikina Family (Nobuko, Miyuki, Akiko, Kimiko, Genichi, etc.)
- Gov. Keiichi Inamine of Okinawa Pref. Govt.
- Staff and crew of Junior Study Tour 2003
- Mr. and Mrs. Munetaka Hirakawa
- Philippine Okinawan Society
- all the participants of the Junior Study Tour 2003

"THANK YOU SO MUCH" for everytihng!
Truly, it's from the bottom of my heart... Domo Arigato Gozaimasu!!!!....





パトリシア レジーナ ノセダ ロペス

Patricia Resyna Noceda Lopez

17歳 3世

フィリピン Philippines

フィリピン沖縄県人会



『沖縄発見の10日間』

いつも自分の中の日本人の部分に興味を持っていました。私の父と祖母は沖縄で生まれました。沖縄はどんな所かな？フィリピンのようなのかな？など、絶えず私の心には疑問がありました。父や祖母の故郷を知ることを夢見ていました。

7月18日9:00、もう一人の参加者ミコ リェゴと、引率者のコーラ アセルデンさんと共に、フィリピンから沖縄へ。飛行機は福岡に少し立ち寄り、そして、4:05に那覇空港に到着しました。そこでは、ツアーのスタッフと、親戚が私達を出迎えてくれました。ミコは、親戚の真境名さんに会うのは初めてで、驚いていました。私達の到着をテレビカメラが撮影に来ていたので、まるでスーパースターのようでした。ホームステイは、真境名さん、平川さんファミリーと一緒に過ごしました。ホストのご家族の皆さんは、とても親切で、時間を割いて、私達を色々な所へ連れて行ってくれました。

また、いろいろな日本の食べ物も作ってくれました。銘苅さんと彼のお母さんには、ミハマに連れて行ってもらい、お昼をご馳走になりました。観覧車にも乗って、とても晴れた日だったので、美しい景色を見ることが出来ました。

オリエンテーションで、参加者全員と初めてあった時は、不安でいっぱいでした。友達出来るかな？どうやってコミュニケーションを取るのかな？プログラムでぎっしりの一週間を乗り切れるかな？これから、何が待ち受けているのかな？

毎日様々な体験があり、新しい発見もありました。平和祈念公園を訪れた時は、戦争による破壊や人々の苦しみを思い起こさせました。平和の灯は、人類の恒久平和への願いを表しています。

やんばるでのエコツアーは、沖縄の豊かな動植物を垣間見ることが出来ました。本当に疲れましたが、比地大滝の眺めは、長い道のりを終えたご褒美のようでした。

海洋博では、サメや珊瑚やマンタ、今までに見たことのない生物など、海の生き物を身近に感じました。ナゴパイナップルパークでは、パイナップルから作っ

た様々な製品を試食することが出来ました。また、名護は私の父の生まれた場所だったので、私にとって名護の訪問は特別でした。

プログラムの余興として、ウェルカムパーティーで民族衣装を着て、私とミコでフィリピンダンスを披露できてうれしかったです。

琉球村では、舞踊の基本を学びました。テレビの取材で、フィリピンダンスとの違いをインタビューされたので、彼らにフィリピンダンスのステップを少し見せてあげました。

私達は、サヨナラパーティーでも、ホストファミリーの真境名さんと平川さんファミリーの為に夢中で踊りました。その後、私達の衣装を参加者の二人に思い出としてプレゼントしました。

7月23日は私にとって忘れられない日となりました。その日は、私の17歳の誕生日で、初めて家から離れて過ごしました。首里城への訪問は、私にとってプレゼントとなりました。琉球村では、自分へのプレゼントとして、美しい琉球着物を着て、記念撮影をしました。この写真は、祖先の土地への初めての訪問として、思い出となるでしょう。

その夜、夕食後にツアーのスタッフ皆さんと参加者の皆が、一生の思い出となる日を作ってくれました。私の新しい家族のようなみんなが、誕生日の歌を歌ってくれました。たった2日前に会ったばかりなのに、私にプレゼントをくれました！なんだか、もう一つの家族と自分の家にいるように感じました。

私の沖縄での滞在は目覚めの旅でした。沖縄は、その豊かな文化遺産や温暖な気候、そして人々の温かい心、とてもフィリピンと似ています。言葉の壁があったにもかかわらず、たくさんの友だちができました。そしてまた、参加者それぞれの文化を知り、色々な国の文化や習慣の違いや似ている点が分かりました。

沖縄発見のこの素晴らしい10日間に、沖縄県、ツアーのスタッフ・ボランティアの方々、フィリピン沖縄県人会、そして、私の大学にこのツアーに参加できたことを感謝しています。真境名さん、平川さんファミリーには、本当にたくさんのおもてなしに感謝申し上げます。第二のお母さん・引率者のコーラさん、友達以上になれたミコへも感謝しています。

短い滞在で、たくさんの思い出ができました。いつか、また戻ってきたいです。しかし今のところ、私は自分のルーツを辿り始めた事を誇りを持って言えます。

DISCOVERING OKINAWA IN TEN DAYS

I have always been fascinated by the fact that I am part Japanese. My paternal grandmother and my dad were both born in Okinawa. Many questions keep nagging my mind. How does Okinawa look like? Is it like the Philippines? I dream of discovering the place that Grandma and Papa used to call home.

The answers started to come on July 18, 9 am when I left for Okinawa on board Philippine Airlines together with my co-delegate, Micko Llego and our chaperone, Tita Cora Acerden. After a brief stop-over at Fukuoka we touched down at the Naha airport at 4:05 pm. Here, we had our first taste of Japanese hospitality. The tour organizers and staff plus our host families were at the airport to welcome us. Micko had a surprise of her life when she met for the first time her paternal relatives, the Majikinas. We felt like “superstars” upon seeing a TV crew and some photographers taping our arrival on the land of our ancestors.

Our homestay was spent with either the Majikina or Hirakawa families. Our host families were very accommodating and spent so much time in bringing us to Kokusai dori, Jusco and Ryubo malls, Naha beach, a sticker factory and to the night flea markets for some shopping. They also made sure that we tried different varieties of Japanese food and delicacies. Mr. Mekaru Taishin and his mom went out of their way to bring us to Mihama for a sumptuous lunch and a ride on the giant Ferris wheel. On that clear sunny day, we had a magnificent view of Naha City.

When I met the other participants for the first time at the orientation, I had my apprehensions. Will I gain new friends? How do we communicate with each other? Will I survive one week of hectic activities? What's in store for us?

Everyday was a learning experience. With each activity, there was something new to discover and explore. A visit to the Peace Memorial Museum

reminds everyone of the ill effects and destruction caused by wars. The Flame of Peace justifies man's quest for lasting peace. The Yambaru ecology tour, though exhausting, gave us a glimpse of Okinawa's rich flora and fauna. The sight of the Hiji waterfalls is a welcome reward to an hour-long trek through bridges, never-ending stairs, rocks and stones covered with ferns and moss. At the Ocean Park aquarium, I felt so close to the underwater creatures like the whale sharks, the schools of fishes, corals, manta rays and other forms of marine life I have never seen before. The trip to the Nago pineapple park allowed us to taste the different delicacies made from pineapple. Moreso, the visit to Nago is for me a sentimental journey because this is where my Papa was born.

I am glad that Micko and I prepared and practiced a Philippine dance as our contribution to the program. Dressed in our native costumes. We performed at the welcome party at Hotel Senin Kaikan. During a visit to the Ryukyu Mura where we learned the basics of the Buyo dance, a television crew interviewed us. We were asked to compare Philippine folk dances and Okinawan dance steps. We responded by showing them a few steps of a Philippine dance. At the farewell party at Miyako Hotel, we enthusiastically danced again as the Majikinas and Hirakawas, together with other homestay hosts, were special guests in the party. That night, we happily gave away to two of our delegate-friends our native costumes for them to remember us by.

July 23rd was a very memorable day for me. It was my 17th birthday and my first time to celebrate it away from home. It gives me a different high that I am celebrating it by visiting the Shuri castle where kings of the Ryukyu Dynasty held important events many years ago. At the Ryukyu Mura, I gifted myself with a rare treat. I rented a beautiful yellow Ryukyuan kimono and had my picture taken. This photograph will constantly remind me of the time I first came to the land of my ancestors.

Later that evening, after dinner, the tour organizers and participants made sure this day would be unforgettable for me. Accompanied by the sounds of drums, my new-found family sang Happy Birthday as I blew my cake. People I have met only two days

ago gave me gifts! It felt like being at home only with a different family.

My stay in Okinawa is an awakening trip. Okinawa is very much like the Philippines with its rich cultural heritage, warm weather, pineapple farms, flea markets, malls, extensive shoreline and the genuine hospitality of its people. In spite of the language barrier, I made a lot of friends and gained a deeper insight on the different cultures of the delegates. I am awed at the similarities and differences of the traditions and culture of people around the world.

For ten wonderful days of discovering Okinawa, I would like to thank the Okinawan Government, the tour organizers, staff and volunteers, the Philippine Okinawan Society and my school, De la Salle University, for allowing me to participate in this exchange program. To the Majikina and the Hirakawa families, my gratitude for their unmatched hospitality and generosity. To Tita Cora for being a second mom while I am away from home. And to Micko for being more than a friend.

I have many fond memories of my ten-day sojourn to Okinawa. Someday, I wish to go back to rekindle ties and to add to my experiences. But for now, I can proudly say I have started to trace my roots.





レドナ ジェニファー 祐紀

Redona Jennifer Yuki

15歳 3世

グアム Guam, U.S.A.

グアム沖縄県人会

私としては、このジュニアスタディーツアーのさんかは、初めてなものでしたので、少しきんちょうぎみでした。と、同時にワクワクした気持ちでいっぱいでした。「ともだちできるのかな？」とか、そういう気持ちもありました…さいしょのうちは。でも、そのさいしょの日の夜、ルームメイトたちとすぐになかよくなり、あんしんしました。

スケジュールそのものはスパルタ式と言うか、ハードと言うか、キツかったけどものすごく楽しめました。と言うより、グアムではあまり山のぼりとか、国際通り歩きとかしないので…よそう以上に楽しかったです。引率していた人たちも思っていたとおりのきびしい人たちではなく、おもしろい人たちばかりでした。

色んな沖縄のすがたが見れてうれしかったです！やっぱり一番楽しかったのは、山のぼりとすいぞくかんです！山のぼりはものすごくきつかったし、つかれましたけど、いざ滝の冷たい水にさわったとたんにはいやすれました。やっぱり滝は好きです！と言うより、私は自然大好き子なのですごうれしかったです。

すいぞくかんの方は個人的にはすごく楽しかったし、おもしろかったです。グアムでは見れない魚やいきものたちを見ることができたり、何よりも大好きなイルカにも会えてうれしかったです！海ではさんねんながらともだちと泳ぐことができなくて、大変かなしかったです。でも、それでも、ともだちといっしょにいただけでもおもしろいし、うれしかったです！

しょうじき言って、私がイメージしていたこのツアーはちがっていました。私がイメージしていたものはもっと…こう…きびしい様な、つまらない(コラ)様なものかと思っていました。でも、よそうは外れていてまさに交流会ですね！

県内さんかしゃの皆は優しかったし、おもしろい人たちばかりでした！他の国から来た人たちも皆、思っていたよりふつうで案外話しやすかったです。たくさんのもだちもできたり、このツアーにさんかすることができて大変皆さんにはかんしゃしています！

まあ…一番きついと思ったのは沖縄の「あつさ」でしたね。私のよそうでは、グアムと同じくらいあつさだと思っていましたが、こんなにもあついなんで、思ってもいませんでした。さいしょの内は何ともなかったんですが、日が過ぎていくにつれ、だんだんとあつくなりはじめました。でも、皆にはめいわくかけたくなかったし、何とかたえるようにしたんですが、あつがりな私はすぐダウンしてしまいました。ごめいわくをおかけして本当にすみませんでした！

でも、まあ…ともだちといることその「あつさ」にもたえられることになり、楽しいツアーとしておわったことにうれしいです。う～ん…行くところすべて楽しかったとは言えませんが、本当に本当に楽しいツアーでした。今まで、こんな楽しい思い出とかはなかったもので、大切にこのきおくの中にとっておきます！たぶん、ほかの皆もそう思うでしょう。と言うか、そうしてほしいです！

他にもいっぴいかきたいことはあるのですが、どうやって言葉にあらわせばいいか、ちょっと分からなくて…とにかく色んなばしょに行くことができ、沖縄の楽しさをあじわえることができました。「沖縄ってこんなばしょだったんだー」と思いつつ、これからも沖縄に遊びに行きたいです！と言うよりは、もし、できればまたこのツアーにさんかしたいと思っています！いえ、はっきりとね！本当に楽しいツアーでしたし、またこんなに楽しい思いができるのなら、どんなにきついことでもたえて見せるっ！！てな感じで…ぜひ、またさんかしたいと思っています！

もちろん、できればまた同じ人たちで…そうしたらともだちとも再会できるんだけど…さすがにそれはムリですね！でも、本当にこのツアーはおもしろかったし、私の楽しい思い出の1つとなりました！もちろん、それには皆さんにはかんしゃしています！心からかんしゃしています！他の人たちにもぜひ、このツアーの楽しさをじっかんさせてもらいたいものです！！

比嘉 淳子

Higa Junko

八重山農林高校3年



『国際交流』

このツアーに参加できて、私は本当に良かったと思います。

参加のきっかけは学校に届いた募集要項でした。今までこんな行事があることを知らなかった私は、“国際交流”という言葉にひかれて応募しました。参加が決定した時はとても嬉しかった反面、普段はあまり使うことのない英語に自信がなかったこともあり、ちゃんと交流できなかったらどうしようという不安もありました。それに、離島からの参加者1人ということもあって、とても緊張し、当日を迎えました。

初めはどうしていいかわからず、笑顔を交わすことくらいしかできなかつたけれど、徐々にゲームなどを通して少しずつ打ちとけ、仲良くなることができました。実際、ツアーがおわってみると、長いようで短かった5泊6日の日程は、不安だったことを忘れるほど楽しく、充実していて、あっという間に過ぎていった様に思えます。

ツアーでは、沖縄本島の様々な場所を訪れ、沖縄の文化や歴史について学び、また、自然に触れたり普段あまりできないような多くの事を色々体験する事ができました。琉球村、エコツアー、美ら海水族館など、どれも心に残る思い出ができました。

また、自由時間にもみんなでバレーボールをしたり、部屋でゲームやおしゃべりをしたり、本場ブラジルの“サンバ”を教えてもらったりして、とても楽しく過ごしました。

ツアー中、海外参加者と1対1になった場面では、思ったことがうまく伝わらず困ってしまったこともたくさんあって、もっと勉強しておけば良かったと何度も後悔しました。しかし、相手が一生懸命聞いてくれたこともあって、身ぶり手ぶりを交えながらではあったけど、何とか気持ちを伝えられるようになりました。例え言葉が通じなくても、心を込めて接すれば、交流はできるものなんだということを実感しました。

ジュニアスタディーツアーに参加して、多くの友達ができ、とても多くのことを学びました。また、今までよりもさらに国際交流への関心も高まりました。

最後に、このようなすてきなプログラムを計画し、私たちのために頑張ってくれたスタッフの皆さんに心から感謝し、これからもこのツアーで体験したこと、学んだことをもとに色々な事に挑戦し、みんなとも交流を続けていきたいです。

このジュニアスタディーツアーに参加させて下さいまして、心から感謝します。

吉村 苑華

Yoshimura Sonoka

読谷高校3年



『もっと英語を勉強したい』

スタディーツアーに参加できて、本当に良かったと思います。このツアーに応募した時は、普通高校からは7名しか選ばれないと聞いていたので無理だろうと思って

ていました。結果がくる日は、朝から休み時間ごとに職員室へ確かめに行き、自分が選ばれたと聞いた時にはとてもびっくりしました。

そして、ツアーに行くのがとても楽しみでした。海外からくる人達の国を紹介する資料が届いて、中を見た時、こんなに多くの国から来るとは思っていなかったのもとても驚きました。英語を母国語としない国からの参加者もいたので、どうやってコミュニケーションをとろうかと心配でした。

当日になり、参加者の多さに驚きました。一日目、二日目には、夜にレクリエーションがあったので、それを通して会話をすることができてとても良い機会になりました。

三日目、四日目になると、だんだん打ち解けてきて、ちょっかいをしたり、気軽に話しかけることができるようになりました。五日目に行った海では、一緒にはしゃいでバレーをしたり、とても楽しい時間を過ごすことができました。ペンションへ帰ってからの夜は、ブラジルからの参加者と一緒に初めてのサンバを踊ったり、バレーをしたりと、一日、一日が過ぎ最後の夜になりました。最後の夜は、沖尚の人達が企画してくれたグループごとで対決するレクリエーションがあり、より一層みんなと仲良くなれました。あと一週間でも二週間でも一緒にいたいという気

持ちでした。

さよならパーティーも色々なパフォーマンスがあり、とても楽しくて今日でお別れという気が全くしませんでした。もう二度と会うことができない人もいるだろうと思うと、とても悲しくなりました。最後は、みんなと抱き合っただけ泣きました。今でも、あの人は今どうしているかなと、よく考えることがあります。

スタディーツアーに参加して、他の国の文化を知る事、英語でコミュニケーションをとる事の楽しさを知ったと同時に、自分の英語力の無さ、コミュニケーションをとる事の難しさを再認識することができました。これから、もっと英語を勉強して、みんなの国へ遊びに行った時に驚かれるぐらい話せるようになりたいなと思いました。

本当にものすごく楽しい六日間でした。このツアーで知り合ったみんなとは、ずっと、一生の友達でいたいです。

このツアーを支えてくれたスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

高良 南

Takara Minami

球陽高校3年



『これが私の出発点だ』

ジュニアスタディーツアーに参加した一週間は、自分がまだまだであることも感じましたが、とても楽しくて充実し、もっと英語やスペイン語を勉強し

たい、みんなの国のことを知りたいという意欲がわいた一週間でした。

緊張もなく迎えた初日。パンフレットと名札を配るときに「英語とスペイン語のパンフレット、どっちがいい?」「名前は何ですか?」という私の英語での問いかけに、みんなが笑顔で答えてくれるのを見て、前に海外旅行をしたときの初めて英語が伝わった嬉しさを思い出して、とてもワクワクしていました。

グループリーダーにもなり、さらに意気込んだ二日目。国際取り散策のホストをぜひともスペイン語で紹介したいと思い、カロリーナに話しかけた私。しかし彼女に、「ワカラナ〜イ。」と言われ、ツアー早々ショックを受けました。後になってブラジルはポルトガル語だと気づき、二つはラテン語からきているから似てるということを知っていたけど、同じ漢字文化でもほとんどわからない中国語と日本語の関係と同じなんだと思ひ込ませ、いつもよっちゃんの近くにいるスペイン語を聞けるようにしていました。

私が最も心に残っているのは、ずっと同部屋だったナオミとの交流です。最初は他の人を交えてもほとんど話らしいことができなかったのですが、三日目、二人つきりになったときのこと。シャワー浴びるから夕食で部屋を出るときに時間を教えて欲しいと言われ、とても緊張し、早く終わらないかな、終わってから夕食の誘いが来たらいいのにとさえ思っていました。しかし運命の瞬間は訪れ、勇気を出してスペイン語で、「七時十分前だよ。レストランに先に行くね。」と話しかけると、ナオミの「デンキュー」という言葉が返ってきたのです。初めて会話らしいスペイン語が話せ、本当に嬉しかったのを覚えています。その後、英語ではあるけれどちょっと話せるようになり、自分の顔が笑顔になっているのを感じました。再び部屋に二人の時があり、ナオミの持っていた南米のミュージシャンのCDがおもしろそうなので『関係代名詞』を使ってCDと歌手を尋ねると、?な顔され、私は戸惑ってしまいました。でも私が何を言いたいのかを聞いてくれようとし、オムニバスだからどれが好きと言う彼女の優しさにとても感動しました。

伝えたいことがあるなら、単語でも、聞いて欲しい、言いたいことがあるんだということを表すことが大切なんだと思いました。言葉を越えた優しさに触れたり、積極的に、笑顔になれた分だけ夢に近づけたような気がしています。この出発点を忘れず、私はできるという気持ちで前に進んでいきたいです。

玉城 幸



Tamashiro Miyuki

浦添高校 3年

『沖縄が前よりもっと好きになりました』

初めに日程表を見たときはものすごく長い感じがしたけど、時間がたつのは早いものであっというまに終わってしまいました。最初は日本人にも話しかけられなくて根暗全開だったけど、なおこが隣に座って色々お話をしたのでよかったです。なおこは自分より年下なのに人に話しかける勇気があってすごいですね。見習います。そしてバスに乗り込むときにがんばってこなみに話しかけました。船員会館に着いたらまた、部屋の人達は知らない人だらけでした。でもみんな普通に会話してすごいなあと思いました。沖尚の人のテンションの高さにはびっくりしました。だけどそのおかげで盛り上がれた感じだったからよかったです。そしてご飯がおいしかったです！首里城は駐車場が完備されてて近代的な城でした。暑くて坂がきつくて大変でした。恩納村までの道は長かったです。

みゆきが一番はじけたのはパイナップルパークです。目に写るすべてのものを試食しまくりました。パイがちょーおいしくて何回も食べました。おなかが出るほど食べたのであとで気持ち悪くなりました。たぶんあんなに食べたくせに何も買わなかったからだと思います。万国津梁館からの景色はすごくきれいだったけど、パインには勝てませんでした。あと、比地大滝は歩くのがかなりきつかったです。年を感じました。だけど、滝に足をつけたらもう全部忘れてしまいました。泳いでる人がとっっても気持ちよさそうでうらやましかったです。いつか泳ぎに行きたいです。

三線が体験できたことはかなりうれしかったです。しかも前に友達に習ったときは全然ひけなかったのが、島唄がちょっとできるようになったから家でまたひいてみました。でも本当にすこしかわからないから自分でもっと勉強しようと思いました。

このツアーで、沖縄が前よりもっと好きになりました。そして人間が大好きになりました。今まではただ、英語が好きだから通訳とか日本語教師になりたかったけど、沖縄のこととか人間同志のかかわり合いの中でたくさん学ぶことがあったから今は、前よりもこの仕事に就きたいなあって思うようになりました。それに、英語だけじゃなくてスペイン語とかも勉強して世界を飛び回りたいです。フィリピンにお買い物に行きたいです。あと、自分はいちおサブリーダーっぽかったのに何もしないでアシユリーが一人でかなりちゃんとやっていました。申し訳ないです。

またみんなで踊りたいです。だから、もあいしましょう！第二回ツアー開催しましょう。みんなとずっと仲よしてたいです。絶対また逢いましょう☆ではまた今度。

安次富 紗綾香



Ashitomi Sayaka

浦添商業高校 2年

『ジュニアスタディーツアーが終わって』

私は、このツアーに参加することができてとても嬉しく思いました。なぜなら、英語を母国語とする人、英語以外の言葉を母国語とする人達と一週間、一緒に過ごし色々な体験をすることができたからです。沖縄に住んでいるのに知らないこともあったりして再発見もできました。確かにハードなスケジュールだったと思うし、比地大滝まで登っていったのは辛かったけど、そのお陰で、仲が深まったんじゃないかなと思います。

今は、学校の友達にこのツアーのことを教えてあげたり、再発見したことなどを教えてあげたりしています。意外に皆も知らなかったりするの…そして、国外参加者の皆が帰ってしまった今はメールや手紙を送ったりして連絡を取り合っています。世界のいろんな所に友達ができとても嬉しいです！また皆に会える日が来るといいなと思いつつ、英語を勉強しています！このツアーに参加して英語以外の言葉が母国語とする人達と、英語で会話をしてる時に、英語の勉強が必要だと思ったから…

このツアーは私にとって、とても良い経験になりました。そして、このツアーを成功させてくれた引率の方達や財団の方達、ボランティアで参加して盛り上げてくれた沖尚の人達ありがとうございました！この経験を生かして国際交流の橋渡し役などができたらいいなと思います。ありがとうございました。

比嘉 こなみ



Higa Konami

首里高校3年

『言葉ではなく心で通じ合うこと』

このツアーに参加することで、沖縄を縦断し、たくさん場所を回り、沖縄の中味を味わうことが出来ました。平和学習では戦争の悲惨さや爪痕など、忘れてはいけないことを再び学び、考えさせられました。自然学習では比地大滝のすごさや、達成感を味わいました。美ら海水族館も初めて訪れてとても感動しました。

その中でも特に、人と人の繋がりを深く学びました。「言葉の壁」は心配していた通り、とても厚く、壊すことがとても難しかったです。その結果、自分の英語力の不十分さ、積極力がなく、自分から話しかけることができなくて、雰囲気が悪くなることもありました。また、英語で話しかけられても、何を言っているのか理解出来なかったり、答え方が分からなかったりと、苦戦の連続でした。しかし、一緒に行動して、一つのことを考えたりすると、言葉ではなく心で通じ合うことが出来て、少しずつ距離が縮まってきました。すると会話を多く交わし始め、より一層仲良くなることができました。ジュニアスタディーツアーに参加することが出来て本当によかったです。とても充実したものになりました。自分を知り、相手を考えることが出来たこの出会いと経験は、一生の宝物になると思います。これからの自分の糧にして、夢に向かって進んで行きたいです。

安里 みちよ



Asato Michiyo

首里東高校3年

『次は私が世界へ飛び立ち、文化を学びたい』

私がこのツアーに申し込んだ理由は、得意な英語を使って、外国人とコミュニケーションをとりたいた、という単なる好奇心からでした。

しかし、オリエンテーションの日、海外参加者は、アメリカ合衆国だけではなく、南米であるブラジルや、ペルーからも来ていて、また、厳しい審査の中から選ばれてきた事を知って驚き、このツアーを有意義に楽しもうと強く思いました。

実際、海外参加者の子達と話してみると、南米での母国語はポルトガル語ということがわかり、最初は意思の疎通をはかるのが困難でした。私自身も、英語は得意なはずだったのに、いざ外国人を目の前にして話すと、なかなか単語が出てこなかったりして、思うように話せませんでした。

でも、朝起きるときのあいさつや、寝るときなど、ちょっとした会話でもコミュニケーションがとれる事がわかりました。たった一つの単語で、気分を良くし、コミュニケーションをとる事がいかに楽しくて、大事かという事を学びました。日がたつにつれて、会話も成り立ってきて、女の子同士ではアクセサリーなどのおしゃれの話をしたり、男の子とは、音楽の話などをして盛り上がりました。

このツアーには、約八カ国もの国から参加者は来ていたけど、全く言葉の壁を感じる事はありませんでした。パーティーではグループ対抗のゲームを楽しみ、琉球村では沖縄の伝統工芸の紅型を作ったり、また、伝統芸能を習い、比地大滝でのエコツアー、そして、ビーチなど、言葉が通じなくても、同じ気持ちで楽しむことができました。

このツアーを通して、沖縄の歴史、文化、芸能を学習し、再確認することができました。また、私自身の課題であった、コミュニケーションも得る事ができ、良い勉強となりました。そして、友達の輪が、県外だけではなく、国外までと広がり、素晴らしく、貴重な体験をする事ができ、とても良かったと思います。

このツアーで学んだ事を忘れずに、これからの生活に役立て、一生の財産となる世界中の友達と繋がりを持ち続け、次は私が世界へと飛び立ち、文化を学んでこようと思います。

ジュニアスタディーツアーでの思い出は、かけがえのない大切なものとなりました。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

新垣 怜子

Arakaki Reiko

那覇高校3年



『多くの人達と出会えた』

七月二十一日から始まったジュニアスタディーツアーは短い期間でしたが、とてもいい思い出ができました。

一日目はみんな人見知りをしてたのか、とてもぎくしゃくしているように感じました。船員会館では桃香、カオリと同じ部屋で、三人で浴衣を着て写真を撮ったりしました。船員会館でのご飯はおいしくて、私はたくさん食べてたのですが、海外参加者の子はあまり食が進まなかったようでした。それを見て、日系でも育ってきた環境で日本食が口に合わなくなるんだなあ実感しました。

二日目、三日目まではゆったりと時間が過ぎていたのに、四日目ぐらいから急激に時間が過ぎていく感じがしました。その頃には私たちも打ちとけ、仲良くなっていたので最後の夜のキャンプファイヤーはとても盛り上がりました。

私がこのツアーに参加して学んだ事はたくさんあります。沖縄に住んでいても行ったことがない場所がいっぱいあり、特に四日目のやんばるエコツアーで比地大滝へ行ったら、那覇では見られない大自然を目の前にしてただ驚くのみでした。アップダウンの激しい道りを歩き終え、辿り着いた比地大滝の水はとても気持ちよかったです。普通に過ごしていたら体験できないことばかりでした。そしてこのツアーに参加して一番良かったと思ったことは、多くの人達と出会えた事です。海外参加者のみんなはもとより引率者の方々、スタッフのみなさん、そして県内参加者、県外参加者の三人と会えて良かったです。

このような機会を与えて下さった人材育成財団やこのツアーを支えて下さった銘莉さんや新屋さん、祐子さんまた、引率者の方々にとっても感謝しています。そしてツアーを盛り上げてくれた沖尚の人達にも感謝の気持ちでいっぱいです。

私は高校三年生で受験なのでツアーの頃に比べて勉強ばかりの日々が苦しいけれど、ツアーで出会った人達からちょくちょくメールがくるのでとても励まされます。これからもみんなと連絡をとりあって十年後、二十年後にでも、同窓会を開きたいです。

ジュニアスタディーツアーはとても楽しくてとてもいい経験になりました。参加できて良かったです。

新崎 奈央

Arasaki Nao

那覇高校3年



『ウチナンチュネットワークに貢献したい』

今回、私はこのスタディーツアーに参加したことで、今までにない、素敵な夏休みのスタートを切ることができました。多くの新しい友達と一緒に、沖縄のあらゆることについて学習することは、私にとって、

大変貴重な経験となりました。

私は、今まで外国に住む人との接点が少なく、コミュニケーションの取り方に不安があったのですが、日本語を使えたり、聞き取れる人が結構いて、会話する内にだんだん打ち解けていくことができました。またそうでない人とは、自分の英語力を試すいいチャンスとなりました。案外みんなすぐに親しくなれたように思います。私はここで「イチャリバテョデー」の精神が各々から発揮されていたように感じました。やはり、みんなには沖縄の血が流れているのだと実感しました。

また、沖縄の自然、歴史、文化を学習するにあたって、沖縄に住んでいても、今まで訪れる機会がなかった場所に行くことができたので、大変嬉しかったです。今回の学習を通して、初めて知ったことも多く、今までの知識がいかに浅はかだったか、ということに気付かされました。生まれ育った沖縄について、また、自分自身についても、新たに見つめ直すことができ、とても良かったです。私はこれからもさらに知識を深め、多くの人に伝えていきたいです。スタディーツアーの参加者の皆さんも、沖縄で肌で触れて学んだことを持ち帰り、各地で継承して行ってほしいです。

今回、ジュニアスタディーツアーに参加して、私が一番嬉しかったことは、県内や本土、そして海外

にまで、多くの友達ができたことです。五泊六日を共に過ごすことで、私たちは深い絆を築き上げることができ、また、楽しく学習することができました。メモ帳には、一人一人メッセージを書いてもらったり、Eメールアドレスを交換したりしました。メールのやり取りを中心に、いつまでも交流を続けて、さらに、世界に広がるこの「ウチナーンチュネットワーク」に貢献できるよう努めていこうと思います。そして先人たちが渡った地へ、私もいつか出向いてみたいです。

最後になりましたが、沖縄尚学高校の国際交流クラブの皆さん、ウェルカムパーティーや、キャンプファイヤーなどのプログラムを楽しく演出して下さい、どうもありがとうございました。そして、銘苅さん、新屋さん、ゆう子さん、その他大勢のスタッフの皆さん、スタディーツアーで、たくさんの思い出を作ることができ、私にとって、とても良い経験となりました。このような素晴らしい企画に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

前田 那美子



Maeda Namiko

那覇国際高校3年

『これぞ、いちやりばちよーで一！！』

こんなにも愉快的な仲間達に出会ったことは今までにない。こんなにも沖縄を満喫した夏は今までにない。こんなにも短く感じた一週間は今までにない…というくらい楽しくて有意義な一週間を過ごすことができた。たとえば言葉や住んでいる場所が違っても、

皆おんなじうちなーんちゅ。不思議と親近感がわき、県内、県外、海外問わず皆と仲良くなれた。これぞいちやりばちよーで一!!人懐っこい皆にうちなーんちゅスピリットを感じた。

この仲間と共に一週間を過ごせて本当に良かった。色々な国のことを聞けたし、直に聞くスペイン語、ポルトガル語、タガログ語は私にとっては未知の世界でかえって興味が湧いた。また、海外参加者の方が強く沖縄を想っているように感じられ、海外に住む彼らに沖縄の良さを教えられたような気がした。県内からの参加者は私と同じように交流を通して英語力を身につけようという目的を持っていたので、共に英会話に奮闘できて楽しかった。英語が達者な子、ガイドも十分できそうくらい沖縄のことを良く知っている子などには心から尊敬した。それから挙げたらきりがなくらいたくさんの個性に出会ってたくさんの刺激を受けた。そんな皆と踊りまくったキャンプファイヤー、寝食を共にしたこと、沖縄について学べたことは本当に素晴らしい思い出だ。この一週間は天気良すぎて、暑さに耐え切れない子もいたけれどやはり沖縄は夏が一番だ。県外、海外参加者にはこの暑さも含めてよき思い出だと思ってくれたらいいなと思う。

英語はずっと好きで学んできたので、参加する前からたくさん話そうと張り切っていた。そのおかげで、気がつけば英語で雑談をしたり、海外の子に通訳を求められたりしていた。海外参加者と接するなかで、たとえ片言でも恥ずかしいなんて思わずに自分の意思を伝えようという気持ちで頑張れば、コミュニケーションは十分可能だということ学んだ。

このツアーが私にとって意義深いものになった理由がもうひとつある。それは、生まれて初めて“リーダー”という役割に就いたということだ。ありがたいことにFグループは優秀で、集合も早く誰もがリーダーのようなグループだった。いつも列の一番後ろにいるようなリーダーだったけど、協力&慕ってくれたFグループのみんな本当にありがとう。

外国に友人を作るためWEB上からペンパルを探す人もいるが、私は世界8カ国に19人、同じ県内に21人、県外に3人もの友人を作ることができた!!今沖縄にいる21名でさえもいつかは県外へ出て行くかもしれない。それでも、参加者全員のふるさとがこの小さな沖縄なのだからきっとまたここで再会できる日が来るだろう。その時はみんな何語で会話しているのだろうか…?私はその時には英語は完全にスペイン語もまあ話せるという風になろうと思う。

最後に、ツアー関係者の皆様、素晴らしい体験をありがとうございます。

大本 紗哉



Ohmoto Saya

那覇国際高校2年

『ジュニアスタディーツアーで得たもの』

私は今回初めてこのツアーに参加することができてとても光栄でした。そしてこのツアーに参加できたおかげで、本当に沢山の事を学べたと思います。

海外からの参加者と共に改めて学んだ沖縄の歴史や文化には、再発見ではなく新発見もいくつかありました。沖縄戦のこと、郷土の芸能、沖縄の自然、今まで当然のように接して来た私の中の沖縄とは、少し違う沖縄を見たり体験することが出来ました。何度も行ったことのある場所も、よく分かっているつもりなだけで、その場所が伝えたいものを私はしっかりと感じていなかったように思えます。今回、沖縄についてあまり知らない参加者もいる中で、いつもとは違う環境で沖縄に接することができ沖縄に住んでいるから沖縄をよく知っているとは限らない、かえって日常的に接している私達が知らないことの方が多いのかもしれないと気付きました。そこで、英語を使って海外の人と交流をしたいと思っている私が、自国日本、ましてや沖縄のことすら知らないのでは、少し情けないような気がしました。外国の方に沖縄や日本について聞かれた時、私はしっかり答えられるでしょうか。答える事が出来なかったら、その方はそんな私をどう思うのでしょうか。そう考えると、今の自分の現状がとても恐ろしくなりました。この国際化の時代、海外で生活して活躍したいと願っている私が、そんな風では、とても交流なんて出来ないと思います。いま私達が学ぶべきことは、言語だけではなく、自国の歴史、文化だと思っています。

また、海外からの参加者と話して気付いたのですが、私は中南米の国を始め、参加国のほとんどの国について大した知識がありませんでした。彼らに聞くばかりで、私が知っている事を話すことは滅多にありませんでした。自分の国のことを相手が知らないという時、どんな風に思うのでしょうか。決して嬉しいことではないでしょう。少なくとも私は悲しむとおもいます。私は他を知らなくせに、自分の事は知っていて欲しいなんて、ただのわがままです。私は自分の国の事をわかることと同様に、世界のあらゆる国に目を向けてその国の事を学ぶべきでもあると感じました。そうすることで、互いの文化の交流も出来、更に分かり合うことが出来ると思います。

だから、私は自分の夢を叶える第一歩として言語を学び、自国と他国の歴史・文化をより深く学びたいと思います。

また、このツアーに参加して多くの外国の方と仲良くなり、友達になることができました。この友人達は、私のかげがえの無い大切な人になりました。彼らと過ごした日々は忘れる事の出来ない貴重な思い出です。始めはちゃんと会話が出来るか不安だったけれど、誠意を持って話せば私の伝えたいことも相手の伝えたいこともちゃんと伝わると思いました。不格好ながら、私達はお互いにコミュニケーションをとることが出来ました。大切なのは、完璧な外国語ばかりではなくて、話そうとする意欲、下手でも伝えようと努力することではないでしょうか。このツアーに参加するまでは、話したいと思っても自分から話しかけることが苦手でした。自分の英語力に自信がないので、通じなかったらどうしようとか、恥ずかしいとか思ってしまいなかなか

上手く話せませんでした。でもこの機会をきっかけに私の中で外国人とのコミュニケーションのとり方の考え方が変わりました。自分の考えが変わったというだけでも、このツアーに参加した意義があったと思います。

これからはどんなチャンスも逃さずに自分に出来るだけのコミュニケーションをしたいと思っています。言語力の向上と、歴史・文化の学習や自分に自信を持つことを目指してこれからも勉強に励みたいです。このツアーでは本当に沢山の事を学ぶことが出来ました。ここで学んだことをいつまでも忘れずにこれからも国際交流の場で活動したいです。

金城 美菜



Kinjo Mina

那覇商業高校2年

『今まで知らなかった沖縄を発見』

私は、ジュニアスタディーツアーに参加する事ができてとてもうれしかったです。普段学校では学べないような事を学んだり、いろんな国の人達に出会

ったり本当に最高の一週間でした。

最初は、那覇商業からの参加者が私一人だけだったので、友達ができるかとても心配でした。でも、みんなフレンドリーでいい人達ばかりでした。初めのうちは他の高校・中学校の人達としかしゃべらなかつたけど、沖縄尚学高校の生徒さん達が企画してくれたパーティーで、ダンスやゲームを通して海外からの参加者の人達とも話す事ができたので良かったです。また、海外からの参加者の中には日本語を話せる人がいたので少しは気持ちが楽になりました。あと、三味線やダンス、ピアノの演奏なども見ていて楽しかったです。

また、2日目からは県庁や沖縄の観光名所などをめぐり、今まで知らなかった沖縄を発見する事ができました。実際、首里城は家から車で、10分ぐらいの所にあるのに、首里城の正殿に入ったのは初めてで、琉球村も小学生の時以来だったので、とてもうれしかったです。そして、琉球村では、伝統芸能・工芸を体験したり、発表会をしたりと色々な思い出を作る事ができ、琉球舞踊を教えてくれたおばあちゃんが、頭に一升瓶をのせて踊っていたのには、びっくりしました。

美ら海水族館では、大好きなジンベエザメに会えてうれしくて写真まで撮り、オキちゃんもかわいくて一目惚れしてしまいました。

でも、時間はどんどん過ぎていっていつの間にか、お別れパーティーの日になっていて、「みんなとこれでお別れなんだな。」と思うときみしかったです。それでも、思い出をつくって楽しくすごそうと思ひ、いろんな人達と写真をとったり、話をしたりと楽しい時間を過ごす事ができてよかったです。

最初は見知らぬ同士だったけど、一週間後には、本当の家族になったと思います。また、最後までみんなが泣いていたのを見て、「本当に楽しかったんだなあ。」と感じる事ができたし、私自身本当に楽しかったです。今はみんなバラバラだけど、いつかまた会える日を楽しみにしています。そして私はみんなが大好きだし、そのみんなと出会わせてくれたジュニアスタディーツアーにはとても感謝しています。

大城 桃香



Oshiro Momoka

沖縄尚学高校2年

『お互いを知ろうという気持ちが大事』

ジュニアスタディーツアーの一週間という期間は、長いようでとても短かったです。でも、とても多くの経験を得たと思います。

私がこのツアーのことを知ったきっかけは部活でした。

私が入っている部活ではジュニアスタディーツアーのボランティアスタッフをしていたのです。去年私はスタッフとして参加していませんでしたが、話を聞いたりビデオを見たりしてすごく興味を持っていたので、その点では他の参加者のみんなよりこのツアーに馴染みやすかったと思います。

ツアーが始まると一日がとても早く過ぎていきました。まず始めに感じたのが、私の英語力の無さです。スペイン語やポルトガル語圏の人でもほとんどの人が流暢に英語を話していました。中には日本語も話せる人もいました。それでも、つたない英語でコミュニケーションがとれました。同室の子とは特に仲良くなれました。やはり共通語は大事だけど、お互いを知ろうという気持ちがあれば言葉があまり通じなくても友達になることができるんだということを実感しました。

日が経つにつれてみんな仲良くなっていったので、さよならパーティーの後別れるのがとてもつらかったです。私は泣かないだろうとなんとなく思っていたのですが、いざ別れの時間が迫ってくると涙がとまりませんでした。あまり話せなかった人もいましたが、みんなの心が何かで結ばれているように感じました。

また私は参加者という視点だけでなく、スタッフという視点からもこのツアーを体験することができました。部活のみんながああだこうだとツアーを盛り上げるためにいい企画を作ろうと頑張っているところも見てきたし、休みの日も使ったりしてリハーサルも一生懸命していました。表立って楽しむことはないけれど、役に立つことができた喜びや経験は、参加して得られる経験と同じぐらい素晴らしいものだったと思います。

このツアーでは世界の沖縄人のつながりや、沖縄に住んでいる私もよく知らなかった沖縄の芸能文化、歴史なども知ることができました。このツアーで得た経験は一生忘れないと思います。

最後に、ジュニアスタディーツアーのスタッフのみなさん、色々わがままも聞いてもらってすいませんでした。このツアーの成功はみなさんのおかげです。ぜひ今後もこのツアーを続けていってほしいです。この経験をいかしてこれからも頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました！！

真栄城 智恵美



Maeshiro Chiemi

沖縄尚学高校 2年

『他国の言語を学びたい』

この時期、私はアメリカへ1年留学をする準備の真っ最中でした。いえ、何を準備していいのかまったくわからず、戸惑っていた時期でもありました。沖縄の事を質問されてもどう答えて良いのかわから

ぬままアメリカで過ごすのか・・・迷っていた時期でもありました。それが、このジュニアスタディーツアーに応募したきっかけだったのだと思います。

初めて全員集合した日、恥ずかしさとたくさんの期待でいっぱいでした。その時、一人目の外国人、アシュリーが入ってきました。話しかけようと思いつき立ち上がり、戸惑いながら精一杯の笑顔で、”Hi! What’s your name?”と聞いた日のこと、今でも忘れません。それからぞくぞくと各国からのジュニアと引率者達が入ってきた時の緊張感、それがたった1週間であんなに仲良くなるなんて思いもしませんでした。

沖尚の国際交流クラブがバックアップしてくれて交流プログラムやウェルカムパーティーで恥ずかしがっていたみんなの顔が笑顔になってゆくのを感じて、とてもうれしく思いました。

初夜、ミドリというブラジル出身の子と同じ部屋だと知り、あの子は一人で日本人に囲まれて大丈夫かと心配になりました。しかし、部屋に入って私のおぼつかない英語で話しかけると、“日本語の方がいい”と言われビックリしてしまいました。彼女は英語も少し出来て、日本語も話せて、もちろんポルトガル語まで話せるのか？と私も、なおさんもビックリしてしまいました。日本では、いえ、私にとって、英語が話せるなんてすごいというイメージがあったのに、ミドリによって、それをぶちこわされた気がしました。同年代の子が3カ国語も話せる？それは普通のことなのか？また、ミドリを訪ねに来たチエミというブラジル出身の子も3カ国語を話すことが出来るというのです！それは私にとって大きなショックでした。それと同時に、他国の言語を学びたいという思いもわいてきました。

たった1週間であんなにみんなと仲良くなって盛り上がったキャンプファイヤー、そして、最後の夜、修了証書をもってこれで最後だと実感したさよならパーティー、本当にみんなと会えなくなると思うと、涙が止まらなくなりました。翌日の見送りには行けないと思っていたけれど、学校の後すぐ飛行場に行くときまだ何人かいて、バイバイを言えることが出来て良かった。これからも、お互いに連絡を取り合っていきたいと思います。

このツアーによって今まで住み慣れている沖縄にいて、見たことの無かった県庁のゲストルーム、この歳になって改めて知る平和祈念資料館や首里城、沖縄に住んでいる動植物たち。知っているつもりで知らなかった沖縄のことを知り、海外からの参加者と共に体験することが出来て本当にとってもよい体験になりました。このプログラムを企画して陰で見守ってくれた皆さん、本当にありがとうございました。このツアーは本当に大成功だと思います！このツアーに参加できて良かったです！！

稲福 陽香



Inafuku Haruka

興南高校 1年

『みんな大切な友達』

このツアーに参加して本当によかったです。今までに5泊6日がこんなに早いと感じたことはありません。とても楽しくて時間が過ぎるのがとても早かったです。一生に一度しかできないとてもいい体験

をさせてくださってありがとうございました。沖縄にいてもめったにできない県庁内見学や平和学習、伝統工芸体験、伝統芸能体験、比地大滝のエコツアーなどをして、とても勉強になりました。県庁の構造の意味などこのツアーを通さなければ一生知らなかったかもしれません。自分で色を選んで塗る紅型は本当に楽しかったです。

伝統芸能で私は三線を選びました。最初、指使いがとても難しかったけど何回も練習するに連れてだんだんできるようになりました。みんなの前で披露したとき、練習よりもよくできてとてもうれしかったです。比地大滝は急な階段を登ったり降りたりしてとても疲れたけど、広大な自然の滝を見たときに疲れは吹っ飛びました。比地大滝はとてもすごくてここに来るまでは大変だったけど本当に来てよかったなあと思いました。

平和学習で戦争を二度とおこしてはいけないこと、平和がどんなに大切か、私たちがどんなに幸せなのかを再び実感しました。

最初、海外組と仲良くなれるかととても心配だったけど、みんなとてもいい人で日本語も上手で思ったより早く仲良くなりました。言葉も片言とかジェスチャーで言った時も通じて言葉の壁はないなあと思いました。言葉を知らなくても心は通じあうということはすばらしいと思いました。みんなと仲良くなってとても楽しかったです。ブラジルの真由美とカロリーナと沖縄の梨華子と私の四人で **crazy group** を作ったり四人同じキーホルダーを買ったりとても仲良しでこれからも一生友達です。このキーホルダーも一生の宝物です。琉球村でアルゼンチンのミドリとペルーのマービーとブラジルのカロリーナと私でとったプリクラも一生の宝物で一生友達です。ハワイのケティーも一緒に洗濯をしたり、ダンスをしたりしてとても仲良くなりました。一生友達です。フィリピンのディナマエとパトリスアからもらったアクセサリーも一生の宝物です。このツアーに参加したみんな大好きでみんな大切な友達です。

別れは本当に辛かったです。またみんなと会いたいです。

国際交流を計画してくださったスタッフのみなさん本当にありがとうございました。みんなと仲良くなれてとても楽しかったです。一生の思い出になりました。本当にこのツアーに参加してよかったです。またみんなで会いましょう！

村吉 梨華子



Murayoshi Rikako

興南高校 1年

『交流ってすばらしい』

私は、このツアーでいろいろと学ぶことができました。

初日は、友達ができるか…とか、言葉が通じるか…などいろいろな不安があり、1週間が長く感じる

んだらうな、と思ったりしたけど、実際は平和・うちなーの伝統芸能を学ぶことができ、それ以上に国際交流ができる私にとって良い1週間で、とても短く感じました。

外国人といっても、うちなーの2世・3世や4世の人達だったのでとても親近感がありました。日本語を話せる人とか結構いたのでビックリしました。

ウェルカムパーティーでは沖縄尚学高の人たちがいろんなゲームを準備してくれて、みんなを盛り上げてくれました。とても楽しかったです。琉球村では紅型を染めたり、体験学習で三線を教えてもらいました。三線の練習は40分くらいしかなかったのにみんな息がぴったりで上手に出来たと思います。三線に少し興味があるのでこれを機会に家でやりたいです。

平和祈念公園では、戦争の恐ろしさをビデオや本などを通して知ることができました。平和の礎を見

て改めて亡くなった人の多さにビックリしました。

キャンプファイヤーの周りでみんなでサンバを踊ったり、チーム同士のゲームは本当に楽しかったです。バツゲームの「しり字」はとってもはずかしかったです。

さよならパーティーでは、まゆみが三線を弾いて「安里屋ユンタ」を歌いました。全員で写真を写したり、ツアーでもらったTシャツにみんなに名前を書いてもらったり、とっても思い出に残っています。

この1週間でみんなと仲良くなれて本当にうれしいです。国際交流のすばらしさを体験できたし、たくさんのお思い出もつくれたのでこのツアーに参加できてよかったと思います。

これからもみんなとメールや手紙などで交流を続けていきたいです。

このジュニアスタディーツアーを勧めてくれた先生やツアーのスタッフさん、どうもありがとうございました。

宮本 詩織

Miyamoto Shiori

港川中学校 1年



『最高の日々をありがとう』

あっという間の5泊6日のツアー。

初日は、自分は1番年下で、まして言葉が通じることなど、不安な気持ちでいっぱいでした。

でも、すぐに何人かの人が話しかけて来てくれて友達になれたので嬉しくて、あっという間に不安は消えていってしまいました。でもさすがに、外国から来た人たちとはホテルに着いてからしか話す事ができなかったのも、もっと早く声をかけてみればよかった、みんな楽しい人ばかりなのになんて思っていました。

ホテルの部屋に戻った後も、ルームメイトの人達と夜中まで自分の国の話とかして、次の日は寝坊をしてツアーのみんなや、スタッフの方に迷惑をかけてしまいました。でも私にとっては、語り合った時間や、寝坊した事も、大切な最高の思い出となりました。

又、沖縄に住んでいながら知らない事もたくさんあって、沖縄の伝統や文化を学ぶ事ができて本当に良かったです。

その中でも三味線の練習は、とても楽しかったです。

アルゼンチンから来たみどりさんに教えてもらったスペイン語、みんなで踊ったブラジルのダンスに海洋博でのビーチバレー、最後の夜にみんなでAll nightで話したこと、都ホテルでのサヨナラパーティー、今でも目を閉じると浮かんできます。

「みんな、最高の日々をありがとう！」 We are best friends forever!!!!

そして私は、このツアーで学んだ事、国際交流とは、同じ一人一人の人間同士が「心で、気持ちで交わる事」だという事を絶対忘れません。

いつか今度は、私も、この交流のお手伝いが出来ればと思います。

みんなの国にいつか行くから、みんな待っててね！

最後に、陰で支えてくれた、新屋さんを始めスタッフのみなさん本当にありがとうございました。

このジュニアスタディーツアーに参加させて下さいまして、心から感謝します。



島袋 希

Shimabukuro Nozomi

首里中学校3年



『この5日間で大きく成長できた』

私は、このツアーに参加して、とてもいい経験になりました。

ツアーの前は外国の人と話せるかなとか、友達ができるか、とても心配でありよく眠れませんでした。

しかし、実際にツアーに参加すると、みんなと普通に話せるし、すぐに友達もできて、前日までの不安がうそみたいでした。

ツアーの最初の頃は、沖縄の人とはすぐ友達になれたけど、外国の人とは、緊張してあまり話せませんでした。しかし、2日目ぐらいからは、ルームメイトのアルゼンチンからきたミドリとは夜遅くまでいろいろな話を話すぐらい仲良くなりました。

私は、ミドリと友達になれてから、どんどん話しかけられるようになりました。今まで、ずっと外国の人に話しかけられないという自分が変わった様な感じがしました。

私はこのツアーに参加して、たくさんの友達ができ、今までずっと近くにありすぎて興味がなかったけれどツアーでいろいろ体験して、今までとは違う沖縄を知る事ができ、この沖縄の文化や歴史をちゃんと残しておきたいと思いました。

これからたくさんの人に、このツアーに参加してもらって、外国の人と交流や沖縄の事について知る良さをぜひ味わってほしいと思いました。

きっとこのツアーに参加した人はみんな良い思い出をつくる事ができると思います。

めったにできないこの交流ツアーに参加できて、私はこの5日間で大きく成長できたと思います。

私はこのツアーに参加する事ができてとてもよかったです。

最後に、このツアー中ずっといてくれたスタッフの銘苺さん、上原さん、照屋さん、新屋さん、津覇さん、白さんありがとうございました。

山城 貴徳

Yamashiro Takanori

糸満中学校3年



『自分の国のことも多くの国の人に伝えたい』

僕は兵庫県の高校三年生の上原勝也さんとすぐ友達になり、ほとんど一緒にいました。家に帰ってきて「貴徳、なんかしゃべりかたが変になってるよ。」と言われ、笑われてしまいました。僕は「多分ずっと一緒にいた、とてもおもしろいセンパイからうつったのかもしれない。」と言いました。すると、母が「貴徳は外国に行ったら日本語を忘れて、英語が上手になるかもね。」と言われ、僕も「そうかもしれない。」と相づちをうちました。

ツアー初日、僕は外国人の多さにビックリしました。こんなにたくさんの他国の人と友達になれるチャンスがあるとは、と胸をワクワクさせました。しかし、最初は遠慮してしまうものです。僕達は日本語の通じる県のメンバーだけでくっついていました。すると、「コンニチワ。」と気をつかってくれたのか、かたことの日本語で話しかけてきました。僕もかたことの英語でしゃべりかえしました。するとどうでしょう、彼は言葉を返してくるのです。僕は言葉が返ってくる度に「少しずつ、少しずつだけ僕の言葉、気持ちが伝わっている。」僕はうれしく同じ事を何度も言ったり聞いたりしました。初め、僕は上手にしゃべろう、上手にしゃべろうとカッコつけていたのかもしれませんが、しかし、気持ちがあればかたことでも通じるじゃないか、ととても感動してしまいました。僕は自分の分かるありったけの言葉を使って話しかけるようにしました。外国の人としゃべっていると、自分も外国の人になれた気分になるのです。「もっと最初から話しかけていればよかったなあ。」と思いました。

今、僕はこのツアーで友達になった何人かの外国人とメールのやりとりをしています。もちろん英語です。はっきりって、このメールをうつのは僕にとってかなり大変なものです。でも、相手の国のことも知りたいし、自分の国のことも多くの違う国の人たちに伝えたい。だから僕は英語をもっと勉強してこのツアーで友達になれた彼等の母国へ必ず行きたいと思っています。

僕は今、英語、いや世界にとっても興味があります。

比屋根 安尚

Hiyane Yasunao

南星中学校 2年



『最高の思い出ジュニアスタディーツアー』

今回のジュニアスタディーツアーは僕にとって初めての国際交流体験でした。県内、海外にもたくさんの友達ができ、今でもメールや手紙などでやりとりをしています。海外の友達には英語でのメールな

ので、はたして僕の言いたいことが相手に伝わっているのか心配ですが、会話がしたい一心で、なんとか頑張ってメールを送っています。世界に向けてメールを発信していると考えたら自分でもすごいことだと思います。これもツアーに参加できたおかげです。

ツアーでは、みんなと一緒に毎日楽しく新鮮で、色々な事を学び、吸収することができました。沖縄の伝統芸なのである棒術にもチャレンジしたり、平和学習では、かなしい歴史、沖縄戦のことを学び、改めて戦争の悲惨さ、人間の命の尊さ、そして平和の大切さについて考えました。

ビーチレクリエーション、キャンプファイヤーなどで、ますます、みんなの心が一つになった様な気がしました。

でも、あつと言うまに一週間が過ぎ、みんなとの別れの時は、とてもつらくて悲しくて、空港での見送りの時は思わず泣いてしまいました。

僕は今、みんなの写真を見ると思い出します。僕にはじめて英語で話しかけてきたハワイのタイ君、僕達がおしえた日本語を覚え、何度か言っていたアシュリーとケイティー。大好きなサッカーと一緒に楽しんだコリン君、僕にスペイン語を教えてくれた、ペルーのよっちゃん、みんな僕の大切な仲間たちです。みんなに出会えて本当によかった。みんなのことは一生忘れません。

スタッフのみなさん、僕をジュニアスタディーツアーのメンバーとして選び、貴重な体験をさせてくださって、心から感謝しています。ありがとうございました。

ツアーに参加して僕はますます国際関係の仕事につきたい気持ちが強くなりました。

これから僕はウチナンチュとしての誇りを持って、ツアーで学んだことを生かしていきます。

みんな、僕に最高の思い出を本当にありがとう。

長嶺 一司

Nagamine Kazushi

南星中学校 2年



『一生忘れられない思い出』

沖縄は、戦前・戦後と多くの人々が安定した暮らしを求めて、他国へと旅立っていった。当時沖縄は、経済的な理由で、海外移民をよぎなくされたのである。

僕がこのツアーに参加した理由の一つには、沖縄から移民した人たちの二世、三世が、今世界で、どのような生活をしているか興味を持ち、知りたかったからである。また、去年、僕はハワイへのホームステイへ参加し、その時にすごくお世話になり、今回のツアーは外国にいる日系人の人たちが沖縄に来るということで、去年とは逆に、僕が沖縄のことをいろいろ教えてあげようと思ったからである。

「Hi, My name is Daniela Kaori Nakamoto. Nice to meet you!」オリエンテーションの会場で、ペルー出身のダニエラさんに話しかけられた。いきなり声をかけられてびっくりした僕は、どうにかコミュニケーションをとろうと、わかる英語でいろんな事を話してみた。すると彼女は、僕の話したことを理解してくれたらしく、自分のプロフィールなどを話してくれた。そこで僕は、どうにか話をつなげようと、沖縄のことについて話してみようと思った。しかし難しい単語が出てこなかったり、また、分かっているはずの沖縄の事を、知っているはずで知らなかったりなど、沖縄についての知識がかけていることに気付かされた。逆に、彼女の方が沖縄に対する知識が豊富で、沖縄について知らなかった自分がはるかしかった。僕は、こういう話を通して、彼女たちがいかに沖縄について学んでいるのかということを実感し、向こうに住んでいながらも、自分のふるさと沖縄に関心を持っている彼女たちに驚かされた。

ツアーが始まってまもないころ、部屋の割り当てで、僕は、カナダ出身のオリバー君と、ワシントン出身のコリン君といっしょにとまることになった。「どうしよう。日本人がいない。」僕はこれからどう

やりあっていけばよいか不安になった。しかし、そんな不安も一瞬にして消え去った。その日行われた、ウェルカムパーティーで、交流を深めることができ、いろんな話をして盛り上がった。この時の思いでは、僕にとって一生忘れられない思い出となった。

ツアーが山場を迎えようとした頃、僕は外国人の友だちもたくさんでき、いろんな人とコミュニケーションをとることができた。そんな中で、僕が特にしたしくなった人は、ニューヨーク出身のアシュリーさんだ。彼女はとてもひょうきんな性格で、カードゲームがうまくて、僕に「ゴーフイッシュ」というゲームを教えてくれた。そのほかに彼女はとても気前がよくて、自分の買ってきたパイナップルを切ってみんに差し出したりするなど、とてもおもしろい人だった。

彼らとの交流の中で、僕はいろんなことを知ることができた。彼らは、同じウチナンチュでも、世界のどこに住んでいるかによって沖縄に対しての考え方がちがうということである。しかし、彼らに共通していることは、みんな性格がおだやかで、とてもひょうきんだということである。これはまさに、ウチナンチュを象徴するものではないだろうか。

僕は、このツアーで沖縄に来た団員の一人一人が、この体験を通して学んだことを、母国へ帰っても、本当のふるさと沖縄のことを思い出し、誇りを持って生きてほしいと思う。

僕は、海外にいるウチナンチュをととても誇りに思うのだ。

最後になりましたが、僕たちにこのような機会をあたえてくださった国際交流課のみなさんありがとうございました。

古波蔵 直子

Kohagura Naoko

南星中学校 3年



『来年はボランティアで参加したい』

七月二十一日から二十六日の約五日間、私はジュニアスタディーツアーに参加しました。

二十一日のツアー初日の日、那覇市の東町会館でオリエンテーションがありました。私はその日、お母さんの前であまり緊張していない風をよそおいました。普段、あまり緊張しない私でも、さすがに五日間も初対面の人達と過ごすとなると、とても緊張しました。

東町会館に着いても少しマイナス思考ぎみの私は「五日間も誰とも話せず過ごしてしまったらどうしよう・・・誰か話しかけてくれないかなあ・・・。」と変な事を考えていました。でも私は、提出した作文に「人と話すのが好き」なんて事を書いてしまったのを思い出してしまいました。だから私は、隣の席に座っていた高校生、幸さんに話しかけました。初めて話せた時は本当に嬉しかった事を今でもはっきり覚えています。オリエンテーションも終わり、ロビーでバスを待っていた頃、私は幸代さんと話しました。バスの席も隣に座ってなんだか、少しずつ友達が増えていく様で嬉しくて、少し照れました。二十一日・二十二日の宿泊先では、美菜さんとアメリカから来たアシュリーと同室でした。初日はウェルカムパーティーも有り沖尚や去年の参加者のボランティアの人達とも仲良くなれて、たった一日で随分たくさんの人と仲良くなりました。二日目から班行動が多くなりました。私はグループの県内参加者に一人も中学生が居なかったのが、ものすごく不安でした。だから意地でも誰かと仲良くなってやる！！と思って、私はフィリピンから来たパトリシアに話しかけました。パトリシアは班行動の時、ずっと仲良くしてくれて、バスでは二人で国の言葉をたくさん教え合いました。パトリシアは3歳年上だったけれど同じ年の様に接してくれました。

三日、四日と一日一日過ぎるごとに一人一人話せる人が増えました。みんなと仲良くなったら別れるのが、ものすごく淋しくなりそうで、ちょっと悲しかったです。私は最後の日に、初めてしゃべった人もいました。「もうちょっと前に話しとけば良かった」とすごく後悔しました。だから、さよならパーティーでたくさんしゃべりました。私は、パトリシアからフィリピンダンスの衣装をもらいました。ちょっと泣きそうでした。

私は、このツアーに参加できて本当に良かったです。先生がツアーに行く事をすすめてくれたから、私はみんなと仲良くなれたと思っています。夏休みにこんなにいい体験ができてラッキーだなと思いました。とても充実して過ごせたんじゃないかなと思います。これからも、ツアーで仲良くなった人達とは少しずつ交流も取ろうと思っています。

来年あたりはボランティアとして参加したいです。

小山 奈未

Koyama Nami

日本福祉大学附属高校3年



『みんなとの出会いに乾杯！！！！』

時は7月21日、月曜日。天気は梅雨と言っておこう。体調は不良（全身じんましん）。まさに出だし不調である。名古屋空港からの一人旅、るるるるるう～。出発前日、部活の引退試合があり（ボロ負け）

泣。ドタバタで超ハードスケジュールだった私。自分は売れっ子芸能人なのか！？並みなノリだった。だから、正直サングラスなんかかけてスター気取りしたかった。なあなんてね（笑）。もちろん機内は疲労のため爆睡。ZZZ・・・

そもそも、最初は沖縄へ行くことを嫌がっていました。忙しいし、遊びたいし、って理由。でも、一番に挙げられるのは沖縄に対して好感を持っていなかったこと。母が沖縄出身で、私の幼い頃は沖縄の“お”の字も口に出さなかった母が、1995年の少女レイプ事件をきっかけに、人が変わったように沖縄の歴史のこと、戦争のこと、平和への願いを語り始めました。毎日のように語り、沖縄へ旅行に行けば、毎回同じコースで回り、歴史や平和ツアーだった。だからか、沖縄へ行っても観光する訳じゃなかったから、私は沖縄に対してかたいイメージを持っていたし、それと同時にそんな母の気持ちを理解しようとも出来ず、沖縄へ行く楽しさも知らなかったのだ。

そんな複雑な気持ちで沖縄行きの飛行機は沖縄へ到着した。「ジュニアスタディーツアー」ってなんだろう・・・。ツアーのこともあまり把握せず、やって来てしまった。なんだかんだで、沖縄へ到着し、第一歩を踏みしめた。「ああ、なんて天気が良いんだろう。愛知県は梅雨も明けずムシムシするのにこの晴天！！」すばらしい天気だった。メンソーレ、沖縄。ハイサイ、沖縄。

空港では、淳子と合流した。とにもかくにも緊張していたので、クールを装うつもりだったが、逆にソワソワしてしまった。がつくし。

淳子の長いまつげにビックリしつつ、皆との初対面が近づく。ドキドキ★

会館へ入り、ぞくぞくと皆様集まっている様子。誰も知らない（泣）。唯一、まつ毛の長い石垣島の淳子ちゃんだけがたよりだ。そんな初めて出会う人ばかりで名前も知らなければ、雰囲気も様々なので異国に来た感じになり、孤独感にひたっていた。さみしかった。あんど、プラス体調不良だったのでテンションも下がりっぱなしだった。早く帰ることばかり考えていた。でも、デモ、DEMO、やっぱりここは、“ジュニアスタディーツアー”ですね。一時は体調不良からリタイアを考えたが、お見事体調回復☆キラリーン☆☆☆☆イエース！！

伝統芸能の空手も体験した。紅型も自分の好みのものを作った。やんばるの森にも出かけた。マジ素晴らしい自然とふれあった。サミット会場へ行き、おぶちさんの像と記念撮影もした。イルカショーでイルカのおきちゃんたちと出演した。スゴイ！！タコライスも食べた！一人でホテルにも泊まった。国際通りの達人になった。たっくさん思い出がありすぎるう～。でも、一番の思い出ではやっぱり、友達がたっくさん、たっくさあんできたことですね。もお、友達百人出来るかなあ♪って勢いだった！！

みちよとそのかとはチャーリーズエンジェルを気取った。みゆきとは無邪気に遊んだり、国際通りの楽しみ方を伝授してもらった。ちえみ（ボス）とは、炭水化物の素晴らしさを熱く語り合った。そして“ボス”として、したった。こなみとは、名前が似てたから笑いを分かち合えた気がする。淳子は第一友人なので、初め、慣れない私を支えてくれた優しい先パイ的存在だった。まだまだ皆様とも素敵な思い出がありすぎて書ききれぬうあ～い！！サンキュー、ラブリー、みんなあ！

この夏の旅は素晴らしい体験が出来た。国際人になった。インターナショナルだああい。アメリカンジョークならぬジャパニーズジョークがアシュリーにうけたことがなによりもインターナショナルになった証拠でございます。

2003年もあとわずか。がんばれ、受験生諸君！！こんなあたかも花の女子高生。プロフィールでは103歳でしたが18歳でございます。高校生もあと少し、この夏の思い出ではデカイ！！I love 沖縄あ～★また行くねっ。また会おうねっ。また遊ぼうねっ。

2003年、夏の思い出では小さくしようとも宝箱には入りきれないだろうなあ。楽しい夏を、トロピカルな思い出をありがとう。

ラブリー、 “ジュニアスタディーツアー” みんな友達い♪素敵な仲間あ♪

みんなとの出会いに乾杯！！！！！！

上原 勝也

Uehara Katsuya

兵庫県立宝塚高校3年



『本来の自分』

私が、このジュニアスタディーツアーに参加したきっかけは、宝塚支部部長さんからの誘いでした。このようなツアーがあることを一番に教えてくださいました。小さい頃からの憧れだった綺麗な海のあ

る沖縄に行けるチャンスだったのですが、私は受験生なので初め参加することに正直迷いました。しかし、沖縄の文化や歴史が学べ、それに海外からの参加者もいるという二度とないこのチャンスを逃すわけにはいかないと、参加することを決意しました。

自分は積極性が無く内気な性格なので、初めはなかなか団体行動の中で自分から行動するということが出来なかったのですが、沖縄で出来た友達の協力やその場の雰囲気から積極的に行動できるようになり、本来の自分を出すことが出来ました。

このような素晴らしい友達を持ってすごいです。地元沖縄からの参加者たちは、兵庫の宝塚から来た私に興味を示してくれてすぐに仲良くなれました。もちろん、海外からの参加者たちとも初めは言葉の壁というものがあり、なかなかうまくコミュニケーションが取れなかったのですが、スタッフの方々の手助けやスポーツを通してお互い分かり合え、仲良くなれました。が、一番助かったことは皆さんが日本語を勉強してきてくださり、さらに話し掛けてきてくれたことでした。また、ボランティアとして参加してくださった沖縄尚学高校の皆さんには、交流会などのイベントを用意していただき、それを通して私たち参加者同士の絆を深め合うことが出来ました。さらに、沖縄尚学高校の皆さんとも親しい仲になれたことにとっても嬉しく思います。感謝しています。

沖縄では、いろいろな貴重な体験ができました。県内の観光名所だけでなく、自然や人々の出会いから今まで生きてきた中で感じる事の出来なかったものを感じることが出来ました。また、ホームステイでは、生まれて初めて出会う親戚の方々にとっても親切にしてください貴重時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

このツアーで、学んだことや出会った友達、人々のことは決して忘れられません。私は、第二の故郷の沖縄について何も知らなかったことを申し訳ないと思いました。今後、沖縄を訪れる時には今回学んだことに加えてさらに勉強して訪れることを約束します。自分に沖縄の血が流れていることを誇りに思います。このツアーには、是非一人でも多くの方たちが参加し私のような貴重な体験を通し、沖縄の素晴らしさを感じてほしいです。

このツアーに関わった皆さんに本当に感謝しています。

どうもありがとうございました。



金城 幸代

Kinjo Sachiyo

兵庫県立宝塚市立
高司中学校3年



『たくさんの思い出をありがとう』

私は、このジュニアスタディーツアーでいろいろな事を学びました。沖縄の伝統文化や歴史、平和の大切さ、沖縄の自然。

平和学習では、戦争の恐ろしさを改めて感じました。

伝統芸能体験では、初めて三線を弾きました。時間が無くてちょっとしか出来なかったけど楽しかったです。自然学習では海にも行きました。沖縄の海と空は、とてもきれいでした。この7日間とても楽しかったです。

そして私は、このジュニアスタディーツアーを通じてたくさんの思い出とたくさんの友だちができました。初めは友だちができるか不安だったけど、日を重ねていくにつれみんな親しくなっていき、最後にはたくさんの人と友だちになることができました。みんなと一緒に、いろんな体験をしたり、ごはんを食べたり、キャンプファイヤーをしたり、夜おしゃべりをしたり…。本当に楽しかったです。

私は、このジュニアスタディーツアーに参加できて本当に良かったと思います。

この7日間は長いようで、あっという間に終わってしまいました。兵庫に帰ってきた時、みんなと離れてすごく寂しくなると、もっと一緒にいたかったなあと思いました。

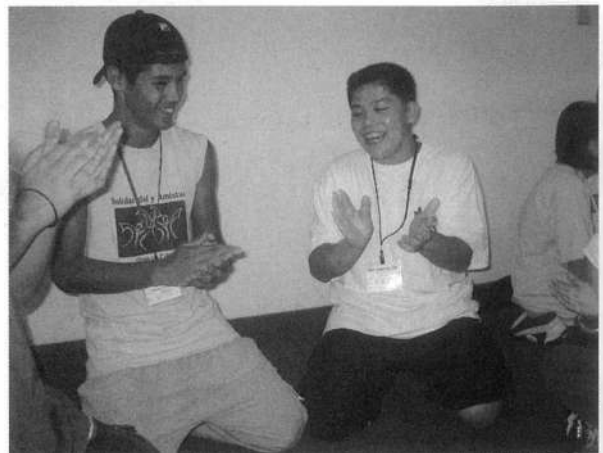
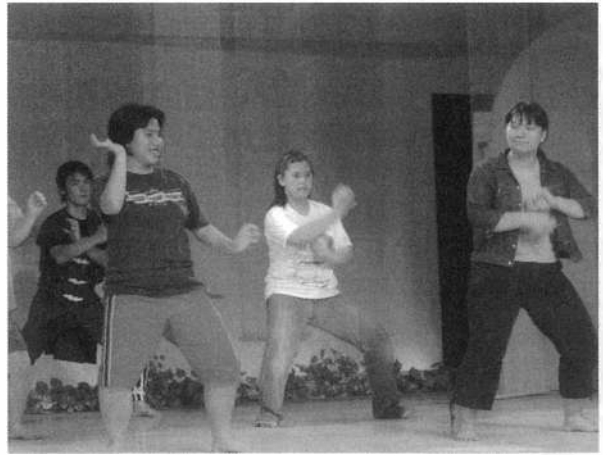
今はみんな別々の場所にいるけど、この7日間の思い出ではみんなの心の中に刻み込まれたと思います。

このツアーに参加してなかったら、こんな貴重な経験ができなかったし、みんなにも出会えなかったと思います。こんな体験ができて本当に幸運です。

このツアーの準備やツアー中お世話になったスタッフの皆さん、引率者の方々、このツアーに関わったすべての皆さん、このツアーを盛り上げてくれた沖尚の皆さん本当に心から感謝しています。

そして、ツアーに参加したみんな、たくさんの思い出をありがとう。

またいつか会おうね。





屋富祖 正一

Yafuso Masakazu

1 世

ブラジル Brazil

カンポグランデ沖縄県人会



私はまだウチナンチュなのだ！

私は日系一世で現在、ブラジル共和国、マツグロツ ド スル州、カンポグランデ沖縄県人会理事会の一員です。

今回、カンポグランデ沖縄県人会からジュニアスタディーツアーの引率者としてこのような私を推薦していただき、沖縄県へ感謝の言葉を送りたいと思います。また、計画的な観光プログラムや交流の場を用意していただき、誠にありがとうございました。

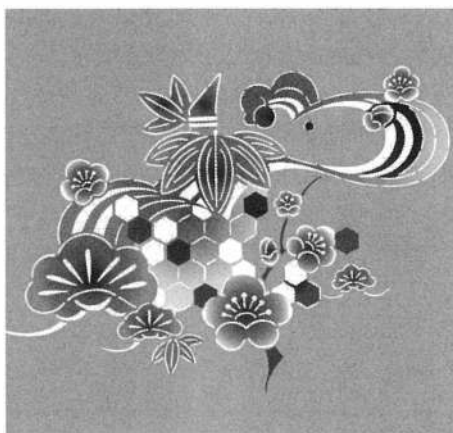
43年ぶりに、ジュニアスタディーツアーを通して、故郷である沖縄に再び訪れることができました。機内から降り、沖縄の土を踏むことによって、大きな喜びと感動が心の奥から（ああ、私はまだウチナンチュなのだ！）と誇りを持って感じることができました。

ジュニアスタディーツアーに参加し、7月21日から28日の1週間、沖縄でたくさんの市の学校に通う学生や多くの海外留学生参加者と交流することによって私も若返ったような気がしました。今回の機会を通して観光や文化について学ぶことがたくさんありました。また、引率者として、沖縄県人会理事会の皆様方や多くの留学生と交流ができたことはジュニアスタディーツアーのおかげです。

私の意見として、これからもジュニアスタディーツアーのような機会を通して、多くの参加者、引率者が両親や祖父たちの故郷である沖縄に訪れることができればとても嬉しく思います。このような交流を通して文化や新たな友情を作り上げてくれることを願っています。

沖縄県の皆様方に心から御礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。





安座間 平敷 ファン 喜勝

Azama Heshiki Juan Yoshikatsu

3世

ペルー Peru

ペルー沖縄県人会



素晴らしい JUNIOR STUDY TOUR (JST)

先ず始めに僕の人生のひとコマを語ってみたいと思います。

僕の御祖父さんは安座間樽吉(たるきち)、そして御祖母さんはマツといいます。二人とも日本は戦争に負けていないと信じていました。

そんな訳で御祖父さんと御祖母さんは36年間ペルーと言う異国での出稼ぎ生活を終え、錦を飾って母国へ引揚げると言って家族8人で(祖父母、父母、兄弟4人、僕が長男)沖縄へ渡りました。

時は1962年の7月5日でした、3日後の僕の誕生日は台風で、雷、暴風、大雨、家の揺れや軋みの音がハッピーバースデーを奏で、歓迎してくれました。その上沖縄はアメリカキューでした。

その頃は那覇に住んでいて泊小学校の五年生でした。翌年コザ市に移り、北谷小学校に転校して6年生を終えました。

沖縄滞在1年8ヶ月後、1964年2月29日ペルーに帰りました。十四才でした。

2003年7月18日午後9時30分、39年ぶりの来沖で、最初に驚いたのは那覇空港でした。ロスカマイアミの空港かと思わせる程の大変モダンな建築でしばらくはポカーンとして浦島太郎のような気持ちで何だか始めて都会に出た田舎者のようでした。気を取り戻し渡慶次マリアガブリエーラ、仲本ダニエーラと一緒に出迎えに来られた親戚の方達やJSTの代表者との初対面です。皆興奮していて旅の疲れはどこへとやらすっ飛んで行きました。

ホームステイは仲宗根喜栄おじさんの家でした。着いた翌日の朝5時30分にセミ達が「おはようございます」といっせいに鳴きだし、そして「おっす、沖縄だよ」と目覚めました。

それからは、毎朝5時に起床する癖がつかまして、そのお蔭でツアー中、部屋を御一緒にしていた他の引率者もちょっと迷惑だったと思いますのでここでお詫び申し上げます。

JSTは 予定通り21日 月曜日の 午後1時

に始まりました。

O I H Fでツアーの打ち合せが済み、宿泊先の船員会館で尚学高校のメンバーによるレクリエーションや催しがあり、国内や外国から来た参加者達がずっと前からの知り合いであるかのような雰囲気を作ってくれました。ツアー最後の金曜日の夜も、そして さよならパーティーも 全部素晴らしかったです。

尚学高校のボランティアの皆様有り難う御座いました。

県庁表敬、県庁内見学、平和祈念資料館、首里城、琉球村、比地大滝、やんばる エコツアー、海洋博記念公園、最後に海水浴に行きました。いずれにしても全部初体験で、前にも述べましたように本当に「浦島太郎」でした。

JSTは大変勉強になり、又同時に新しい友を作る機会にもなりました。

引率者の皆様本当にありがとう御座いました。

最後になりますが 僕が幼い頃 JST はもちろんありませんでした。

今この文章を御読みにになった大人の方達、もう一度子供に戻りたいと思った事はありませんか？僕はあります。だから JSTに参加した少年、少女達と過ごした一週間は子供に戻った気分で勉強したり遊んだり、大変楽しませて頂きました。もちろん気がつけばもとの引率者に早変わり七変化の繰り返しでしたけど振り返って見れば この素晴らしい JUNIOR STUDY TOUR という企画を考えられて遂行なさった方々や サポーターの皆様方に 敬意を表し感謝致します。

ホームステイで御世話になりました仲宗根喜栄おじさん、鈴子おばさん誠にありがとう御座いました。

ペルー沖縄県人会 赤嶺会長始め幹部の方々ありがとうございました。

そして、僕の親兄弟始め妻や子供たちにも本当に感謝しています。

安座間 ファン 喜勝 (よしかつ)

ペルー沖縄県人会 組織部長

ペルー北中城村人会 会長

引率者

MARAVILLOSO JUNIOR STUDY TOURS

Antes de empezar quisiera contarles en forma breve parte de mi historia.

Mis abuelos Tarukichi Azama y Matsu Azama siempre tuvieron la idea de que Japón NO PERDIO LA GUERRA. Entonces luego de permanecer como DEKASEGUI durante 36 años en Perú decidieron regresar a su TIERRA NATAL llevandolos junto a ellos a toda la familia (mis padres, a mí y a mis 3 hermanos).

El 5 de Julio de 1962 llegamos a Okinawa 3 días antes de mi cumpleaños y un TIFON me cantó el HAPPY BIRTHDAY dándonos una tremenda RECEPCION con TRUENOS, VIENTOS HURACANADOS, una LLUVIA TORRENCIAL y la CASA SE MOVÍA. Fue una experiencia totalmente nueva para mí y encima Okinawa se encontraba bajo la Administración de los EEUU.

Al comienzo vivíamos en la ciudad de NAHA e iba a la escuela TOMARI cursando el 5° de Primaria, y al año siguiente nos mudamos a KOZA y terminé el 6° en la escuela CHATAN.

Luego de permanecer 1 año y 8 meses, el 29 de Febrero de 1964 regresamos al Perú entonces tenía 14 años.

Volví a Okinawa el 18 de julio de 2003 a las 9:30pm luego de 39 años y mi primera sorpresa fue ver el aeropuerto de NAHA completamente diferente y moderno, pensé estar en el aeropuerto de LA o de MAIAMI. La verdad es que me sentí como URASHIMATARO (personaje de un cuento Japonés) o como un provinciano que por primera vez llega a la capital, estaba como atontado por un momento, reaccioné rápidamente y junto con las dos niñas María Gabriela Tokeshi y Daniela Nakamoto fuimos al encuentro con los familiares, amistades y los STAFFS del JST, estábamos tan emocionados que hasta el cansancio del viaje se había desvanecido por completo.

Me hospedé en la casa de mi tío Kiei Nakasone.

El día siguiente a las 5:30am las CIGARRAS (insecto de verano) empezaron a cantar al unísono diciéndome ¡BUENOS DIAS! lo que me despertó y entonces levantándome de la cama dije ¡hey estoy en OKINAWA!, Desde ese día y durante todo el TOUR me levantaba a las 5:30am. Por este motivo creo que he causado algunas molestias a mis compañeros de cuarto por lo que les pido las disculpas del caso.

El programa del JST se inició tal como lo previsto el día lunes 21 a la 1pm.

Luego de hacer las coordinaciones en la OIHF fuimos a nuestro lugar de hospedaje, el SEN-IN KAIKAN. Allí, los jóvenes voluntarios del SHÔGAKU KÔKÔ REALIZARON actividades recreativas (DINAMICAS) con las cuales lograron integrar a los jóvenes del JST como si se conocieran desde siempre. Esto se repitió tanto en el último día del TOUR como en el SAYONARA PARY, todos fueron magníficamente logrados.

Desde éstas líneas mi más sincero agradecimiento a estos jóvenes voluntarios.

Durante el TOUR fuimos a saludar al Prefecto de Okinawa, visitamos la Gobernación, el Castillo de Shuri, la Aldea Ryu Kyu, la Cascada de Hiji, hicimos Eco-Turismo por las montañas de Yambaru, fuimos al Acuario (Segundo mas grande del mundo), y finalmente a la Playa ¡Qué hermosa playa!

En el JST logré muchas amistades. Aprovecho para saludar a todos los Tutores del JST 2003 y agradecerles por su amistad.

Antes de terminar quisiera preguntarles a las personas mayores que está leyendo ésta composición, si es que alguna vez en su vida ¿No pensaron volver a ser ADOLECENTE?, Pues yo si, de modo que los días en que estuve junto con los jóvenes del JST me divertí tremendamente, claro está que cada vez que me daba cuenta volvía a mi situación de Tutor y así sucesivamente, con lo que les quiero decir que la pasé muy bien.

Aprovecho la oportunidad para felicitar y agradecer a la ó las personas que tuvieron la feliz idea de crear el JST, así mismo a los que apoyan y colaboran con esta magnífica organización, mi mas profundo respeto.

Un agradecimiento muy especial a mis tíos Kiei y Suzuko de Nakasone por darme hospedaje, al señor Mitsuhiro Akamine Presidente de la Asoc. Okinawense del Perú y a su Junta Directiva por haberme designado como Tutor, y por último a mis Padres, mis hermanos, a mi querida esposa y a mis hijos por todo el apoyo que me brindaron para ahora poder decir ¡MISION CUMPLIDA!

Juan Yoshikatsu Azama Heshiki

Nikkei Peruano de Tercera Generación

Secretario de Organización de la Asoc. Okinawense del Perú

Presidente de Perú Kitanakagusuku Sonnjinkai



比嘉 次雄

Higa Tsugio

1 世

ボリビア Bolivia

ボリビア沖縄県人会



ジュニアスタディーツアーの引率として

平成十五年度国際交流課主催のジュニアスタディーツアーへ参加する青少年二人を引率して沖縄県まで行く話があった時は、とまどいの心境であった。無事サンタクルスまで連れてくる責任が心配だった。

旅先で迷子になるのではないかと、考えれば不安な思いが募るばかりだった。

出発の時、参加した女の子の母親は、「私の大事な娘です。必ず無事に連れてきて」と泣いて頼まれたのが印象的だった。

サンパウロの空港でアルゼンチンのジュニア二人、ブラジルからの四人と合流、予定通りの便で東京へ出発。成田から羽田空港へリムジンバスを利用した。国際線と国内線の空港が別々なのでとても不便さを感じる。

もし迷子になるなら、ここ羽田空港の可能性が最も高いところである。待ち時間が長いばかりか、人間も多い所で気になる空港だ。沖縄行きの飛行機へ乗った時はホッとしたのもだった。

機内の沖縄民謡を聴くと、いよいよ故郷かと思えた。サンタクルス市を出て、すでに三十時間も経過していた。移住者たちは地球の反対側ボリビア、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、一世紀前からよくも行ったものだとつくづく感心した。自分の場合は七歳で気がついたらボリビアで生活していたのだ。当時の大人たちはとてつもない大きな夢をいだいていたのだらうと想像しているうち、飛行機は那覇空港へ着陸した。

夏の沖縄は初めてで、とても熱く感じた。

オリエンテーションは各国のジュニア及び引率者の自己紹介から始まった。

スペイン語、ポルトガル語、英語、日本語、ウチナーグチ、どれが母国語だろう、各国のジュニアの日本語の乏しさに淋しい思いがした。ウチナーグチを話せるジュニアは少ないようだ。日本語の大切さを感じられた。子弟にはもっと日本語の大切さを伝え、小学生からもっと学ばせる必要性を感じた。

我々大人はどうすれば、日本、沖縄の文化を後生へ引き継ぐことができるのか大きな課題、責任を感じた。

歓迎パーティーでは、雰囲気がいぶ和らいできた。これが本当の国際交流に思えた。

訪問と見学

まず沖縄県庁と知事室の表敬訪問。県庁の大きな雄々とした建造物をながめるとウチナーンチュとして心強く感じるものだ。首里城、昔からウチナーンチュは海外をめざす民族だったようだ。最近、すばらしく復元され、沖縄のシンボルのようだ。

戦跡公園、二度と戦争をしてはいけない事を訴えているようだ。

ペンションでの共同生活マナーの大事さ、山登りは最後までやりとげる達成感の大事さ、国際交流課からのメッセージのように思えた。

今回のジュニア達は、なにかを感じたはず、将来沖縄の良さを語り又、ウチナーンチュを誇りに持つことでしょう。

この制度を今後も続けて下さることを望みます。



上間 大兼久 ホルヘ

Jorge Uyema Oganeku

2世

キューバ Cuba

キューバ沖縄県人会



ジュニアスタディーツアーへの参加は、私にとって夢が現実となるものだった。初めての沖縄訪問で、忘れられない経験となりました。

沖縄に到着した日は、ツアーのスタッフの方々からの歓迎を受け、とてもうれしく思いました。そこには私の親戚もおり、知っている顔も、またずっと会ってみたいと思っていた親戚もいました。早いうちに沖縄に来ることが出来たので、親戚の家でゆっくり過ごす時間があり、彼らと一緒に5日間を過ごすことが出来ました。そのおかげで彼らの生活を知り、特に会話を通して彼らの事をもっとよく知ることが出来ました。

21日、ツアーはプログラムの説明と、各国のウチナーンチュ達の自己紹介から始まった。その後は、交流プログラムがあり、ゲームや歓迎会が行われ、お互いを知ることが出来ました。

2日目は県庁を表敬する機会に恵まれました。県知事に私達を沖縄に招待して下さいたことに感謝したいと思います。また、このツアーを実現して下さいた方々にも感謝の気持ちを送りたいと思います。

この一週間は、たくさんの興味深い場所を訪れた内容の濃い一週間でした。平和祈念公園では、ビデオを鑑賞し、実物の大砲や戦車、多くの犠牲者を見た時はまるで戦時中にいるように感じました。本当にとっても悲しい出来事です。平和の灯や、23万人もの犠牲者の名が彫られた平和の礎はとても興味深く、また祈念堂の12メートルもの仏像はとても印象に残っています。この像は、平和のシンボルとして作られ、世界中からの訪問者が平和を祈願して折った千羽鶴が周りを埋め尽くしています。私もそこに折り鶴を一つ折り、飾ってきました。

首里城では沖縄の歴史を学びました。琉球村では、工芸品作りや空手や舞踊の体験を通して、沖縄の文化や伝統芸能に少しだけ触れることが出来ました。

やんばるでのエコツアーは、専門ガイドの方の案内で、比地大滝までの道のり、植物や動物の観察もできました。森や、青く、透明な海、白い砂浜

など自然の豊かさを目の当たりにしました。

海洋博記念公園ではとても楽しむことが出来ました。巨大な水槽に様々な海洋生物を見ました。その夜、キャンプファイヤーと最後の夕食がありました。沖縄の若者と各国のウチナーンチュが共に体験し、交流を深め互いに分かち合った一週間との悲しいお別れでした。

ずっと昔からの夢でもあった両親の故郷、沖縄を訪れる機会をあたえて頂き、本当に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

La Gira Juvenil de Estudios ha sido para mí como convertir un sueño en realidad. Es la primera vez que visito Okinawa y ya es una experiencia inolvidable.

Fuimos los primeros participantes en llegar a Okinawa. Desde nuestra llegada el día 16 de julio nos sentimos muy contentos por el recibimiento por parte de los organizadores del evento, también estaban presentes nuestros familiares de los cuales conocíamos algunos y a los otros estábamos deseosos de conocer desde hacia mucho tiempo. Como fuimos los primeros uchinanchus participantes en llegar a Okinawa tuvimos la suerte de hacer un homestay más largo, así pasamos los primeros cinco días junto a la familia, pudimos saber como viven, que hacen y sobre todo conversar mucho y conocerlos mejor.

El lunes 21 comenzaron las actividades de la Gira Juvenil de Estudios del año 2003 con la explicación del programa y la presentación de los uchinanchus de distintos países. El primer encuentro fue a través de un programa de intercambio, juegos en equipos y una fiesta de bienvenida.

El segundo día tuvimos la oportunidad de conocer al Sr. Keiichi Inamine gobernador de la Prefectura de Okinawa, a quien quisiera expresar mi más profundo agradecimiento por esta invitación, también quiero dar las gracias a los coordinadores de este evento que hicieron posible el éxito de este encuentro.

Durante esta semana muy bien programada fuimos a muchos lugares de interés histórico, cultural y recreativo. Visitamos el Parque Conmemorativo de la Paz, donde participamos de la proyección de un video, tuve la sensación de estar en la guerra cuando veíamos aquellos cañones, tanques de guerra y tantos fallecidos, todo era muy triste. Fue muy interesante ver la Flama de la Paz y la Lápida de la Paz (Heiwa no Ishiji) en cuyos bloques están esculpidos los nombres de más de 230,000 personas víctimas de la Guerra. Me causó una gran impresión la estatua del Buda de 12 metros que se encuentra en el Templo Conmemorativo de la Paz. Este buda simboliza la Paz y a su alrededor visitantes de todo el mundo colocan grullas hechas con el tradicional origami en apoyo a la paz mundial, me siento muy orgulloso de haber hecho y colocado una grulla junto a esa estatua.

La visita al Castillo de Shuri nos permitió conocer sobre la historia de Okinawa y el paseo por Ryukyu Mura, su taller de artesanía y la práctica de baile Eisa, Karate y Buyo nos acercaron a la cultura y artes tradicionales okinawenses.

El ecoturismo por Yanbaru, (norte de Okinawa), con ayuda de guías especializados hizo posible que apreciáramos la flora y fauna hasta llegar a la cascada de Hijiotaki de 25,7 metros de largo, que enriquece la naturaleza tanto como los bosques, selvas y playas con sus aguas cristalinas y azules y sus arenas blancas. Fue muy fácil tomar fotos en estos lugares para recordarlos siempre.

Fue maravilloso disfrutar del Ocean Expo Park y observar en sus gigantescas peceras la gran variedad de especies marinas que se exponen, así como el espectáculo como sus vinos.

Por último tuvimos una fogata y cena para la triste despedida después de haber pasado una semana llena de actividades que nos permitió compartir e intercambiar ideas con uchinanchus de diferentes lugares y con okinawenses. Conocer Okinawa, la tierra de mis padres era algo que había deseado desde hace mucho tiempo y estaré eternamente agradecido por esta posibilidad que me han dado.

Muchas gracias a todos.





タランティニ 裕子 伊波

Tarantini Hiroko Jean Iha

1 世

アメリカ U.S.A.

北米沖縄県人会



ロサンゼルス

Hawaii

私は7月21日から27日までツアー参加の玉城由美さん（北米沖縄県人会）と柳田コリンさん（ワシントン州沖縄県人会）の北米沖縄県人会代表の引率者として参加してきました。

十八日午後十時（財）沖縄県国際交流財団の銘苅奈真、新屋美智代、御両氏をはじめ五～六人のスタッフの出迎えで無事那覇空港到着。

初日はウェルカムパーティーから始まり、県庁内見学、国際通り散策、平和学習（平和祈念公園、平和の礎、平和祈念堂）、歴史学習（首里城）、嘉手納基地通過、伝統工芸、芸能体験、自然学習（山やんばる、野生生物保護センター）、社会学習（海一海洋博記念公園、ビーチレクリエーション）、BBQ、キャンプファイヤー。最後の夜は沖縄都ホテルにて「サヨナラパーティー」で幕がしまりました。

今回のツアーで感動したことは平和国家で武器よりも歌サンシンこそ君子のたしなみで知られた琉球独立国家が（慶長14年ー1609年）、薩摩藩に侵攻され（現、鹿児島）植民地になり、日本鎖国時代の物語で1841年土佐のウミンチュ（漁師）万次郎14歳が嵐にあつて遭難しアメリカの捕鯨船に助けられ10年後の1851年に琉球に上陸し、すぐ薩摩の役人の毎日毎夜の取り調べの中、切支丹（キリスト教）ご法度の厳しい監視のもと8年間滞在し、前十年間は米国で英語で学んだ「市民平等」民主主義と後八年間はウチナーグチで身につけた「イチャリバ チョーデー」友愛主義を学び薩摩へ護送され、のちに米国と日本の架け橋役の国際人「ジョン万次郎」は米国と琉球で学んだ事を人材の育成に貢献しながら国造りの陰の力となり、波乱に満ちた生涯を終え、また第二次世界大戦で激戦地となった沖縄の歴史があつたにもかかわらず苦しみ、悲しみ、楽しみを沈黙し清らかな七色の輝きの琉球の「黄金の海」を何千年、何万年も変わりなく保ち続ける「黄金の海」の神秘的な底力に熱くなった胸の中で真実の人間の心の姿が見えるようでした。私も米国に来てさらに「ウチナーンチュ」として生まれた事を最高の名誉だと思つづく思いました。



引率者



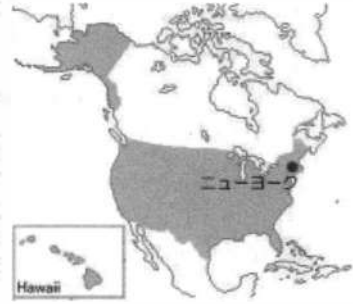
曾野 知雄

Sono Tomoo

2世

アメリカ U.S.A.

ニューヨーク沖縄県人会



みんなで写した1枚の写真。お揃いの純白のTシャツを着て、カメラに向かうみんなの顔。からだ全部から、心の芯から、微笑みが込み上げてきます。この時、みんなはまだ出会ったばかり。それが1週間後には、昔からの仲間のように涙していた。沖縄のまばゆい真夏の太陽のもと、そよ風に吹かれ、2003年ジュニア・スタディ・ツアーは県庁訪問から始まりました。

はじめての母国、はじめての合宿、はじめての飛行機…。言葉の壁、習慣の違いから県内外のジュニア達を見事ほぐしてくれたのは、ツアー前夜に沖縄尚学高校が用意してくれたオリエンテーション。同校そして地元ボランティアの方々、小グループに別れての那覇市内観光、最後の夜のキャンプファイヤーでもパワフルにツアーを盛り上げてくれました。参加者からは、もっと一緒に時間を過ごしたかったという声も。ありがとう。

平和祈念公園、首里城、琉球村での文化体験…。と進むツアーを先導してくれたスタッフの方々。そのあまりの数の少なさには驚かされました。いち引率者としても準備には四苦八苦していただけに、その努力は並大抵のものではなかったはず。後半では、足をひきずり、遠くを見るような目になっている場面も。それでも、エコツアーやビーチまで、最後までひたむきに皆のよりよい充実を目指し、文字どおり身を粉にして誠心誠意、とにかく一生懸命に奔走してくれました。準備段階からの親身の配慮、夜遅くの到着にも関わらず、空港で歓迎くださった心遣いも忘れません。

見廻りや通訳を分担した引率者の中には、40年ぶり、もしくはそれ以上の歳月を経てはじめて沖縄の地を訪ねた“うんじゅ”達もいました。ツアーを支えながら写真を撮り、各所をまわりながら見せる表情、海ではしゃぐ様子…。

ツアーそして沖縄に寄せるスタッフと引率者の想い。部屋を共有し、ツアー中に話げできたわずかな時間。自分にとって一番心に残り、響いてくる時間かもしれません。ありがとう。

限られた時間の中で、許される行動範囲の中で、ジュニア達は精一杯この夏を吸収しようとしていました。本当に良かったなあ、と心温もる場面がたくさんありました。ハイキング途中で倒れた子の傍に、自分の飲み水を置いてゆく子供達。見廻りに行くと、互いの連絡先やメッセージを黙々とノートに書き込み合っている子供達。控えめな子を遊びに誘っている光景。共同部屋でシャワーを浴びる時間がないと言っていた子供達が、一つしかない洗濯機を一緒に使うことを学び、宿舎の前にずらりと並んだ洗濯もの。朝早くから、一人また一人と、空港に友達の出発を見送りに現われた子供達。それぞれの報告文を楽しみにしましょう。

このツアーは、この夏一度きりのただ楽しいツアーではありません。NYから参加したアシュリーはこの夏の経験を、切り抜きや言葉を添えた可愛いアルバムに収め、友達から、もう100回も見せられた、と言われるくらいその素晴らしさを分かち合っています。友達と連絡をとりながら、5年後に皆と沖縄で再会するんだ、とはしゃいでいます。2年前にNY沖縄県人会からツアー参加したホクトとご家族も、アシュリーのツアー参加を応援してくださり、アドバイスなど力になってくれました。ホクトは既に立派なリーダーに育っています。

自分までツアー終了後、今でもジュニア達から連絡をもらえるのは有難いことです。友達と連絡を取り合っている様子、まわりの人にツアーの話をした様子、自分のしたいことや近況などを知らせてくれます。一人一人の感動が、ツアーの成果が、県内外そして世界各地から、まわりの人達へと広まり続けています。

これほどまでに、多角的に意義深いツアーはそうないでしょう。それは、地域、世代、時間を超えて織りなし、広がる波。県内外から集まったジュニア達は同世代との異文化共同生活を体験しながら、ともに過去から今に至る自分自身のウチナー・ルーツの歴史・文化・風土を学び、感じた。新たな自分を発見し、海外からの参加者は、ツアー前とツアー後半の親族とのホームステイで、世代を超えた出会いもしました。参加者に留まることなく、このツアーは周囲の者達にも幸せを与え、鼓舞してくれる。ツアーで生まれた平和の波は、“かな”の心とともに大きく成長した県内外のジュニア達、そしてツアーに携わった者全員の心から、未来へと語り継がれてゆくことでしょう。

これほど素敵な企画を実現させてくださった沖縄県、県外出身にも関わらず引率者に推薦して下さったNY沖縄県人会一同はじめ与那覇トゥーシー定子会長、ツアーの意義を尊重し重要な大会欠席を許してくれたサンダーバードの仲間達、現地受入人となってくれた石原智子さんほか、多くの方々に感謝が尽きません。

豊かに流れた2003年夏の1週間。2003年ジュニア・スタディ・ツアーに感謝するとともに、その永続とより一層の充実を心から願います。

ウチナー・ジュニア、チバリヨー！！
心からイッペー ニフェーデービタン





島袋 カオル ネーディー

Shimabukuro Kaoru Nadine

2世

ハワイ Hawaii, U.S.A.

ハワイ沖繩連合会



7月17日(木)、私はホノルル空港でハワイ沖繩連合会から参加者であるキャサリン・城間とタイ・コバシガワと会い、大阪の関西空港経由で沖繩へと向かいました。

ホノルルから大阪までの飛行時間は8時間以上かかりました。関西空港では、入国手続きを済ませロビーに出ると、沖繩県庁が手配してくれた空港職員が私達を待っていて、ガイドしてくれました。その後、沖繩行きの搭乗手続きを済ませ、空港内を散策するとともに、レストランで軽い食事を取りました。タイは明太子スパゲッティをキャサリンはミートソーススパゲッティを注文し、今まで飲んだことのないメロンソーダも注文していました。

大阪から沖繩までの飛行時間は2時間と、ハワイから大阪までの航路と比べてとても短くちょうど良いくらいでした。午後4時に那覇空港に到着した後、ロビーに出ると私達の親戚や、沖繩国際交流・人材育成財団の新屋さん、津覇さんが私達を待っていました。新屋さんは沖繩に到着した私達に、オリエンテーションについて等、大まかな説明をしてくれました。その日の夜、私達はそれぞれ親戚宅にて宿泊しました。

7月21日(月)、オリエンテーションが開催されました。その中で、私達は自己紹介やツアー内容の確認をしました。その後、私達はバスでツアー前半の拠点となる沖繩船員会館に向かいました。船員会館に着き、少しの休憩後、2階のホールで全員の緊張を解くためのダンスやゲーム等を織り交ぜた交流会が実施され、その後、正式なウェルカムパーティーがありました。この日はとても長い一日で、最終的には10時頃に就寝しました。

7月22日(火)、私達は沖繩県庁を訪問した後、国際通りと壺屋を散策しました。残念ながら、土産物店で買い物をすることはできなかったのですが、アイスクリームパラーの前で休息することができました。そのアイスクリームの味といたら・・・最高でした。国際通り散策を終えて、県庁に戻る前に、“四つ竹”というレストランで、沖繩ソバとジュシーの昼

食をとりました。その後、私達は南部の平和祈念公園へ向かいそこで、資料館でのビデオ鑑賞、平和の礎、平和祈念像をとおして1945年に起こった沖繩戦について学習しました。その日はとても暑く、とても疲れしました。夕食を食べた後、翌日のチェックアウトのための準備をしなければなりませんでした。その日の就寝時間は10時でしたが、参加者達は11時から11時半までは起きていたと思います。

7月23日(水)朝食を済ませ、船員会館をチェックアウトし、その後、私達は首里城の見学をしました。そして、恩納村にある琉球村へと移動しました。琉球村で沖繩ソバの昼食を取った後、琉球村内を散策、また参加者全員、紅型と空手、三線、舞踊等の沖繩伝統文化の体験学習を行いました。皆、それぞれの体験学習を楽しそうに行っていました。

その後、恩納村のペンションキャロライナで3泊しました。そこでの部屋は4名から8名を収容できる部屋で、ベッドがない畳だけの日本式の部屋でした。ハワイからの参加者であるタイの部屋には8名が、キャサリンの部屋には5名が宿泊していました。当初、私の部屋には4名の引率者が宿泊する予定でしたが、エアコンが故障していたため、フィリピンからの引率者のコーラさんと私は別の素晴らしい部屋が割り当てられました。その部屋には、ベッドが備え付けられてあり、台所や大きめのバスタブが設置されているなどとても快適な部屋でした。その日の夕食は、ゴーヤーチャンプルーと魚のトマトソース和えとご飯、スイカがデザートとしてありました。

7月24日(木)は山原の自然の中でエコツアーと比地大滝の沢登りを行いました。比地大滝の沢登りはとてもハードなので、私は残念ながら登ることを断念しました。また、私は虫が特に毛虫が大嫌いなので良かったと思います。皆が沢登りをしている間、私とフィリピンの引率者コーラさんはバスの中で昼寝をしたりしていました。2時45分頃、参加者達は戻ってきましたが、バスの中では、皆クスクスと笑っていたので、滝で何があったのだろうか?と疑

引率者

間に思っていました。ペンションへ戻る前に、私達は名護市の万国津梁館を訪問しました。本来なら、その日には名護パイン園に行く予定でしたが、スケジュールの変更で行かないことになっていたので疑問に思っていました。夕食後、みんな疲れていると思っていましたが、私の隣の部屋の男の子達は、元気に走り回っていました。また、上の階の女の子達もおしゃべりをしているのが聞こえました。

7月25日(金)朝食後、私達は沖縄海洋博記念公園へと行きました。そこに行く途中、バスの中で職員の銘莉さんから、ビーチを早く切り上げて、名護パイン園に行くという連絡がありました。その瞬間なぜか沖縄県内からの参加者からも大きな歓声が上がりました。その様子を銘莉さんはびっくりした様子で見っていました。

2002年の11月に開館した美ら海水族館を見学した後、私達はエメラルドビーチへと移動しました。その日はとても日差しが強く暑い日であったため、私と他の女性引率者達は生徒達とともに海に入りたい気分でしたが、海辺の日陰で心地よい海風に当たりながら座ることで落ち着きました。

海洋博記念公園を出た後、私達は名護パイン園へと行きました。生徒達は色々な種類のパインや商品を味見していました。そこで、海外から参加した多くの生徒達はお土産やハローキティーの沖縄版を買っていました。話によると、彼らが親戚宅にいるときには遠慮して、お土産を買いに行くことができなかつたらしいです。

ペンションでの最後の夜はBBQ、ソバとおにぎりでした。皆がこの料理を美味しくいただいたのですが、特に男の子達は、牛肉の味付けを気に入っていました。その後、近くの駐車場でキャンプファイヤーを行いました。その時に、フィリピンからの参加者2名が私に近寄ってきて、キーホルダーとハンドメイドのブレスレットをプレゼントしてくれました。また、キューバから参加しているアレマン君はキューバのキーホルダーをプレゼントしてくれました。お返しとなるお土産を準備していなかったので、恥ずかしく思いました。キャンプファイヤーの場所にしばらくいたのですが、部屋に戻り過ぎ去った5日間のことを考えながら、明日のチェックアウトの準備をしました。

7月26日(土)朝食後、数名のホストファミリーがペンションに来ていました。そこで、何人かの参加者はホストファミリー宅へと向

かい、残りは北谷や東町会館でそれぞれのホストファミリーと合流しました。私は那覇市の那覇セントラルホテルで宿泊しました。

7月27日(日)沖縄での最後の夜は、首里の那覇都ホテルで修了式とさよならパーティーが行われました。そこには、ツアー参加者全員と、そのホストファミリーが招待され、参加者達は修了証書を受け取りました。パーティーが終わる前に、私達はお互いにお土産の交換をしたり、写真を取り合いました。

7月28日(月)沖縄を去る日でした。県内から参加した比屋根安尚君と長嶺一司君がタイや他の海外参加者達へお土産を渡すために来ていました。彼らが来てくれたことはとても素晴らしく感動的だと思いました。

On Thursday, July 18th, I met Katharine Shiroma and Ty Kobashigawa, our two representatives from Hawaii for the very first time at the Honolulu Airport for our flight bound for Okinawa, Japan via Osaka on United Airlines.

It took a little over eight hours to get to Osaka Airport. Upon arrival at Osaka Kansai International Airport, we went through immigrations and customs. As we exited customs, we were met by the airport personnel who was carrying a sign with our names on it. He was asked by the Okinawa Prefectural Government (OPG) to make sure that we did not miss our connecting flight to Okinawa. After checking in our baggage at All Nippon Airways, we had some time to browse around the Osaka Airport and to grab a snack to eat prior to boarding our flight. Katie had spaghetti with meat sauce, Ty had mentaiko spaghetti, and they each had a melon soda which was something new.

Our flight from Osaka to Okinawa took little over two hours which was a nice and short flight in comparison to the flight from Honolulu to Osaka. We landed in Naha Airport on Friday, July 19th around 4:00pm. After getting our baggage, we were greeted by Ms.Shinya and Ms.Tsuha of the OPG and our relatives. Ms.Shinya gave us instructions and reminded us to meet on Monday, July 21st at

Higashi-Machi Kaikan, ninth floor between 12:30pm- 1:00pm. Until Monday, we were on our own and stayed with relatives.

On Monday, July 21st, orientation took approximately two hours introducing each other and reviewing changes to our itinerary. After introducing orientation, we boarded the motor coach for a short ride to Senin Kaikan, our sleeping headquarters for two nights located in Tomari, Naha City. After a short rest, we went to the second floor to participate in special program to get to know each other with games and mixed dances. After the program, we attended a welcome party at the hotel. It was a very long day for everyone so bedtime was at 10:00pm.

Tuesday, July 22nd, we visited the Okinawa Prefectural Government(Kencho) and took a walking tour of Kokusai Doori until the Tsuboya area.

During the walking tour, we could not make any stops or go into any shops along the way however, we were allowed to take a break at the Foremost Ice Cream Parlor for delicious ice cream. That sure tasted so good.....umm.

Before going back to Kencho, the group had an Okinawa soba teishoku(Okinawa soba with juushi) lunch at “Yotsudake” on Kokusai Doori. After lunch, we left Kencho around 2:00pm and headed to Itoman City, to learn about the Battle of Okinawa, that took place in 1945. At the Peace Memorial Museum, we saw the video of the war that was taken by the U.S. Army. We also went to the Heiwa no Ishiji (Cornerstone of Peace) and the Peace Prayer and Memorial Hall. We arrived back at the hotel around 6:00pm. Everyone was exhausted especially with the muggy weather.

Dinner was Katsu-Curry and it was not bad at all. After dinner, we all had to get our baggage ready for tomorrow’s checkout. Although everyone was to go to bed by 10:00pm, I don’t think anyone slept until 11:00pm- 11:30pm.

Wednesday, July 23rd, breakfast was served from 7:00am- 8:00am, then we had to checkout

from the Senin Kaikan by 8:20am. Our tour started with Shurei no Mon and Shuri Castle, then we headed north to Ryukyu Village located in Onna-son. In Ryukyu Village, we had Okinawa soba for lunch and toured the village. Everyone had a chance to paint Bingata and learned culture and performing arts like Sanshin, Buyo(Okinawa dance) and Karate. All the students enjoyed the lessons and had fun doing it too.

We left Ryukyu Village to check in to Pension Carolina for three nights. Pension Carolina is located in Onna-son and is similar to a dormitory (Bed and Breakfast). Most of the rooms can occupy four- eight people to a room and most are all Japanese atyle tatami rooms with no beds. Ty’s room had eight people and Katharine’s room had five people. My room was suppose to have four people but because our air conditioners wasn’t working, Cora(a chaperone) from the Philippines and I were given a room with a loft, two twin beds and with two separate air conditioners. I felt very lucky that I was given a condo style room with our own kitchen and a western style bathroom that had a nice size bathtub and shower area. Dinner was at 7:00pm. On the menu for dinner was Goya champuru, calamari sautéed in tomato sauce, fried chicken, rice and watermelon for dessert.

Thursday, July 24th, was day to Yanbaru where we went on a Ecology tour and to Hiji waterfall. I was told that walking through the forest is hard and long so I declined to go. I also do not like insects, especially caterpillars and also the weather was very hot. While the rest went on the Ecology tour, Cora, the bus driver, the bus guide and I stayed in the air conditioned bus and took a nice cool nap. By 2:45pm, everybody got back safely telling us that I was really hot and the walk was very steep but they all made it. Once the students were in the bus, they were giggling and laughing and I was thinking what a day that they had! Before getting back to the lodge, we made one more stop at Bankoku Shinryokan in Nago City where the G8 Kyusyu Summit took place back on July 21-23, 2000. We boarded the bus to go back to the lodge. Everyone in the bus was wondering why we did not go to Nago

key holder of his country. They made me so happy but I was very surprised and ashamed because I did not have anything to give them in return. I went to the bonfire for a while then decided to go back to my room to start packing for our departure. How fast five days have passed.

Saturday, July 26th, after breakfast, host families came to the lodge to pickup the students. The rest of the group got on the bus to drop off the second group of students in Chatan and the third group of students in Naha at the Higashi Machi Kaikan. There were two more days left in Okinawa with the host families. I went back to Naha and stayed at the Naha Central hotel for the two nights.

Our last night in Okinawa was spent at the Miyako Hotel in Shuri. We had an award ceremony and a farewell party with the participants of the Junior Study Tour, the chaperones, host families and with everyone who put the Junior Study Tour together. Before the party was over, we exchanged pictures and gifts.

The first stop was the Churammi(Aquarium) that opened last year in November. Then we all went to Emerald Beach for a swim. Since it was a very hot and humid day, all four female chaperones(including myself) was very tempted to go into the water with the students buy we ended up sitting in the shade with hardly any breeze. I had cold zensai with shaved ice...perfect for a hot and humid day.

Finally the last stop was the Nago Pineapple Factory! Everyone had an opportunity to munch on fresh pineapples and sample all different kinds of pineapple baked goods such as pie, castella, pound cake, wine cake, manju, cookies and etc. Many foreign students bought a lot of omiyage and Hello Kitty items(Okinawa version). The students told me that while they were home staying they could not ask the host family to take them shopping to buy omiyage for their friends and families.

Pineapple Factory as originally scheduled on the itinerary. My thought was that the students and the other chaperones thought that the Pineapple Factory would have been a great place to visit and nice change of pace. After dinner, I thought everyone was tired but the boys next door were running around and washing their clothes until late at night. I am sure the girls staying upstairs were also up but I could not hear them.

Friday, July 25th, was a day of sunshine and fun. After breakfast, we were on our way to the Ocean Expo Park in Motobu Town. We were told of a slight change of plans in our itinerary today. We had to cut back on time at the beach to less than one hour to make a stop at the Nago Pineapple Factory before heading back to the lodge. When Mekaru-san of International Exchange mentioned the change while we were on the bus, surprisingly the local Okinawa students were so happy that they were jumping in the bus with joy. Boy was Mekaru-san surprised to see those overjoyed faces!

The first stop was the Nago Pineapple Factory! Everyone had an opportunity to munch on fresh pineapples and sample all different kinds of pineapple baked goods such as pie, castella, pound cake, wine cake, manju, cookies and etc. Many foreign students bought a lot of omiyage and Hello Kitty items(Okinawa version). The students told me that while they were home staying they could not ask the host family to take them shopping to buy omiyage for their friends and families.

Our last dinner at the lodge was barbecue style with noodles and omusubi. Everyone enjoyed the food, especially the bots. They liked the barbecue beef. The finale was a bonfire in the parking lot near the lodge. Two students(Dina and Patricia) from the Philippines came over and gave me a souvenir





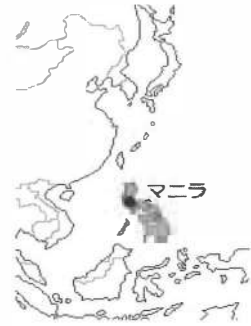
アセルデン マリア コラソン エバンヘリオ

Maria Corazon Evangelio Acerden

2世

フィリピン Philippines

フィリピン沖縄県人会



私はフィリピンから引率者としてジュニアスタディーツアーに同行したコーラ・アセルデンです。

このツアーに招待していただいた沖縄県には心より感謝しています。ツアーを通して沖縄の歴史や文化等多くのことを学ぶことができました。

ジュニアスタディーツアーに参加する前は、沖縄県は日本の他県と大きな違いはないと思っていました。しかし、ツアーに参加して首里城や琉球村、山原のエコツアー等のプログラムをとおして県内を巡ることにより、沖縄の歴史や文化、言葉、踊り、音楽や食べ物について知ることができ、そして日本本土とは違うことにとても驚きました。また、他の国々からの参加者や引率者達と友達になることができました。

皆様にはツアーの手配から期間中までお世話になったことに対して大変感謝しております。

I'm Cora from Manila.

I joined the Junior Study Tour 2003 last summer, and I want to thank the Government of Okinawa for giving me this opportunity to join this project of yours.

I learned a lot. I did not know that Okinawa has its own history, culture, language, dance, music and foods. All I knew is that Okinawa is Japan, and that's it. But I was so surprise to know that it was so different.

I visited the beautiful places like Shurijo, Ryukumura, the Yambaru eco-tour, the big aquarium and the beautiful beaches. I also made so many friends from other countries. It was so nice and exciting study tour.

A million thanks to you all and I really appreciated what you have shown us. More power to you!

引率者





奥濱 レドナ 悦子

Okuhama Redona Etsuko

1世

グアム Guam, U.S.A.

グアム沖縄県人会

7/21～7/26の間、ジュニアスタディーツアーの引率者としてグアムから参加させて頂きました。沖縄生まれ、沖縄育ちの私自身も行ったことがないような、体験した事がないようなことをさせてもらって本当に感謝しています。ありがとうございました。

日程表をもらった時は娘のジェニファーよりも私の方がワクワクして、彼女はいたってクールだったのでは？あまりの無反応さに「ツアーのメインはあなたなのよ、みんなとうまくやっっていけるの？」と心配したほどです。が、内心ジェニファーも楽しみにしていたようで、参加中友達も出来、仲良くおしゃべりもしていたので“ホッ”としていたところです。

今まで子供たちを連れて何回か沖縄へ帰省しましたが、私の沖縄に対する思いと子供たちが感じることは全く違うと思うので、今回ジェニファーがツアーを通してどう沖縄を感じてもらったか、とても興味があります。

友達も数多くつくれたようだし、手紙かEメールのやりとりで交流を深くし、そこからもっともっと沖縄に対して思いを強くしていってくれたらと思います。

ホームページを検索したりメールで情報を入手したりして、これからどんどん沖縄について関心を深めていってほしいものです。

せっかくバイリンガルとして育ってきたのですから、将来その力を生かした職につくなり、又はそれが沖縄県のために何かお手伝いができるようになればいいですね。

グアムでは県人会の歴史も浅く、メンバーの方たちが「移民」というよりは、結婚を機に沖縄を離れたという方たちが多いせいでしょうか、あまり活動も活発ではありません。

2世、3世の時代ともなるとますます沖縄との関係も薄れてくることでしょう。ジュニアスタディーツアーのような活動を通して、たくさんの子供たちが少しでも沖縄に関心を持ってくれれば、そしてネットワークが広がって親世代ではなく、子供世代で交流がはずめば県人会も続けていけるのでは、と思います。

そのためにも、ぜひツアーを続けて下さい。

前回のツアー日程が分からないので比べられないけど、かなりハードスケジュールでした。特に前半、炎天下の中を歩き回るといのはどうかな、と思いました。運動不足の私にしてみればかなりキツかったです。10代の娘でさえバテ気味でした。ツアーの参加者は体力が第一条件だと知りました。

ツアーの感想？「沖縄は暑かった」の一言です。見学コースが多かったようですが、もう少し地元の方たちのお話を聞くとか、あるいは子供たち同士の意見交換みたいな場があったり、一緒にセミナーを受けるような事をしたり、もっと体験的なことがおもしろいなと思いました。

なんだかんだ言っても、とても楽しく参加させてもらいました。ジェニファーに沖縄の子供たちの友人ができたことが一番の成果です。グアムに帰ってさっそく手紙を書いているのを見ると、うれしいものです。

先にも書きましたが、このツアーがずっと続くことを願います。

スタッフのみなさん、ごくろう様でした。

ありがとうございました。

資料編

◇受入実績

◇平成15年度参加者名簿

◇平成13年度・平成14年度参加者名簿

◇協力団体

◇制作物

◇参加申込書

◇パーティー式次第

◇評価と反省・要望点

◇新聞記事

◇世界で活躍するウチナンチュ

受 入 実 績

(1) 海外参加者・引率者の国別内訳 【()はそのうち引率者の人数】

年度 国名	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	計
ボリビア	5(1)	2	3(1)	10(2)
ブラジル	7(1)	3(1)	2	12(2)
〃 (カンボグランデ)	3(1)	1	2(1)	6(2)
アルゼンチン	5(1)	3(1)	2	10(2)
ペルー	5(1)	3(1)	3(1)	11(3)
ベネズエラ	2(1)	0	0	2(1)
メキシコ	3(1)	0	0	3(1)
キューバ	0	2(1)	2(1)	4(2)
フランス	2(1)	0	0	2(1)
イギリス	2(1)	0	0	2(1)
ドイツ	2(1)	0	0	2(1)
米国(ハワイ)	0	2	3(1)	5(1)
〃 (グアム)	1	0	2(1)	3(1)
〃 (本土)	20(4)	6(2)	5(2)	31(8)
カナダ	6(2)	2(1)	1	9(3)
フィリピン	4(1)	3(1)	3(1)	10(3)
シンガポール	0	2(1)	0	2(1)
計	67(17)	29(9)	28(9)	124(35)

(2) 海外参加者の世代別内訳

年度 国名	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	計
2世	26	5	6	37
3世	21	8	10	39
4世	3	7	3	13
計	50	20	19	89

(3) 県内・国内参加者内訳

年度 国名	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	計
小学生	9	0	0	9
中学生	24	13	7	44
高校生	17	11	18	46
計	50	24	25	99

平成15年度 参加者名簿

県内

	氏名	年齢	性別	学校名
1	比嘉 淳子 Higa Junko	18	女	八重山農林高校
2	吉村 苑華 Yoshimura Sonoka	17	女	読谷高校
3	高良 南 Takara Minami	18	女	球陽高校
4	玉城 幸 Tamaki Miyuki	17	女	浦添高校
5	安次富 紗綾香 Ashitomi Sayaka	16	女	浦添商業高校
6	比嘉 こなみ Higa Konami	17	女	首里高校
7	安里 みちよ Asato Michiyo	17	女	首里東高校
8	新垣 怜子 Arakaki Reiko	17	女	那覇高校
9	新崎 奈央 Arasaki Nao	17	女	那覇高校
10	前田 那美子 Maeda Namiko	18	女	那覇国際高校
11	大本 紗哉 Ohmoto Saya	16	女	那覇国際高校
12	金城 美菜 Kinjo Mina	17	女	那覇商業高校
13	大城 桃香 Oshiro Momoka	16	女	沖縄尚学高校
14	真栄城 智恵美 Maesiro Chiemi	16	女	沖縄尚学高校
15	稲福 陽香 Inafuku Haruka	15	女	興南高校
16	村吉 梨華子 Murayoshi Rikako	15	女	興南高校
17	宮本 詩織 Miyamoto Shiori	12	女	港川中学校
18	島袋 希 Shimabukuro Nozomi	15	女	首里中学校
19	山城 貴徳 Yamashiro Takanori	14	男	糸満中学校
20	比屋根 安尚 Hiyane Yasunao	13	男	南星中学校
21	長嶺 一司 Nagamine Kazushi	13	男	南星中学校
22	古波蔵 直子 Kohagura Naoko	14	女	南星中学校

県外

	氏名	年齢	性別	学校名
1	小山 奈未 Koyama Nami	18	女	愛知県
2	上原 勝也 Uehara Katsuya	17	男	兵庫県立宝塚高校
3	金城 幸代 Kinjo Sachiyo	15	女	兵庫県立宝塚私立高司中学校

平成15年度 参加者名簿

海外		氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	新城 真由美 Monica Mayumi Arashiro	17	女	3世		ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	仲村 カロリーナ みどり Carolina Midori Nakamura	18	女	2世		ブラジル	カンボگرانチ沖縄県人会
3	新里 チエミ アンネ Anne Thiemy Suzuki Shinzato	17	女	3世			
4	井口 セシリア ミドリ Iguchi Cecilia Midori	17	女	3世		アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	諸喜田 マリネ Shokida Marine	16	女	3世			
6	仲本 山城 ダニエラ Nakamoto Yamagusuku Daniela	15	女	3世		ペルー	ペルー沖縄県人会
7	渡慶次 山城 マリア ガブリエラ Tokeshi Yamagusuku Maria Gabriela	14	女	3世			
8	神谷 ナオミ Kaniya Pedraza Naomi	14	女	2世		ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	比嘉 浩二 Higa Koji	17	男	2世			
10	アレマン レオナルド ホルヘ エルネスト Aleman Leonard Jorge Ernesto	14	男	4世		キューバ	キューバ沖縄県人会
11	キヤサレン アーヌ シロマ Katharine Anne Shiroma	15	女	4世			ハワイ沖縄県人会
12	タイ ジン コバシガワ Ty Jin Kobashigawa	15	男	4世			
13	玉城 由美 Tamashiro Yumi	16	女	2世		アメリカ	北米沖縄県人会
14	柳田 コリン タケシ Yanagida Colin Takeshi	14	男	2世			フシントン州沖縄県人会
15	アシュリー フリック Ashley Frick	14	女	3世			ニューヨーク沖縄県人会
16	仲原 オリバー 竜司 Nakahara Oliver Ryoji	16	男	2世		カナダ	カルガリー沖縄県人会
17	デイクスエ エロイ リエゴ Llego Dinahmae Eroy	17	女	3世		コロンビア	コロンビア沖縄県人会
18	ロペス パトリシア レジーナ ノセダ ロペス Lopez Patricia Resyna Noceda	17	女	3世			
19	レドナ ジェニファー 祐紀 Redona Jennifer Yuki	15	女	3世		アメリカ	グアム沖縄県人会
引 率 者							
	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名	
1	屋富祖 正一	52	男	1世	ブラジル	カンボگرانチ沖縄県人会	
2	安座間 平敷 フサシ 喜勝	53	男	3世	ペルー	ペルー沖縄県人会	
3	比嘉 次雄	50	男	1世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	
4	上間 大兼久 ホルヘ	62	男	2世	キューバ	キューバ沖縄県人会	
5	タラントニ 裕子 伊波	53	女	1世		北米沖縄県人会	
6	曾野 知雄	35	男	2世	アメリカ	ニューヨーク沖縄県人会	
7	島袋 カオル ネーデー	46	女	2世		ハワイ沖縄連合会	
8	フェルテン リア コラツ エバンジェ Felten Ria Koratsu Ebanje	49	女	2世	コロンビア	コロンビア沖縄県人会	
9	奥濱 レドナ 悦子 Okubina Redona Etsuko	42	女		アメリカ	グアム沖縄県人会	

平成13年度 参加者名簿

第3回世界のウチナーンチュ大会 県内

	氏名	学年	性別	学校名	
1	知名倫子	Rinko China	小学4年	女	宜野座小学校
2	仲田尚仁	Naohito Nakada	小学4年	男	南風原小学校
3	又吉椎菜	Shiina Matayoshi	小学5年	女	漢那小学校
4	平良久美子	Kulniko Taira	小学5年	女	志真志小学校
5	仲本達郎	Tatsuro Nakamoto	小学5年	男	城西小学校
6	新垣史織	Shiori Arakaki	小学5年	女	知念小学校
7	目取真輔	Tasuku Medoruma	小学5年	男	北玉小学校
8	城間祥大	Shoudai Shiroma	小学6年	男	若狭小学校
9	照屋寛佳	Hiroyoshi Teruya	小学6年	男	城南小学校
10	玉城匠	Takumi Tanaki	中学1年	男	コザ中学校
11	知念鈴奈	Suzuna Chinen	中学1年	女	伊江中学校
12	仲間良成	Yoshinari Nakama	中学1年	男	越来中学校
13	牧山梨紗	Risa Makiyama	中学1年	女	沖縄尚学中学校
14	仲程祐介	Yusuke Nakahodo	中学1年	男	古蔵中学校
15	成底徹	Toru Narisoko	中学1年	男	港川中学校
16	仲里彩夏	Ayaka Nakazato	中学1年	女	知念中学校
17	屋嘉比梢	Kozue Yakabi	中学1年	女	東風平中学校
18	玉城彩衣	Ai Tamaki	中学1年	女	那覇中学校
19	松本佳子	Yoshiko Matsuimoto	中学1年	女	那覇中学校
20	東江真理子	Mariko Agarie	中学2年	女	伊江中学校
21	与那嶺悠	Haruka Yonamine	中学2年	男	伊良波中学校
22	古謝ちひろ	Chihiro Koja	中学2年	女	嘉手納中学校
23	比嘉紗苗	Sanae Higa	中学2年	女	鏡が丘養護学校
24	仲程若菜	Wakana Nakahodo	中学2年	女	古蔵中学校
25	平田吉郎	Yoshiro Hirata	中学2年	男	佐敷中学校
26	比嘉彩賀	Ayaka Higa	中学2年	女	松城中学校
27	比嘉亜樹	Aki Higa	中学2年	女	興南中学校
28	古堅葵	Aoi Furugen	中学3年	女	安田中学校
29	佐久川俊介	Shunsuke Sakugawa	中学3年	男	沖縄尚学中学校
30	謝花千夏	Chinatsu Jahana	中学3年	女	宮里中学校
31	普天間一樹	Kazuki Futenma	中学3年	男	小禄中学校
32	玉那覇優香	Yuka Tamanaha	中学3年	女	西原東中学校
33	宮城鮎子	Ayuko Mayagi	中学3年	女	西原東中学校
34	高田真奈美	Manami Takada	高校1年	女	小禄高等学校
35	翁長里美	Satomi Onaga	高校1年	女	小禄高等学校
36	上原恵理佳	Erika Uehara	高校1年	女	昭和薬科付属高校
37	与那覇恵梨	Eri Yonaha	高校1年	女	石川高等学校
38	德里麗華	Reika Tokuzato	高校1年	女	石川高等学校
39	中村晴枝	Harue Nakamura	高校1年	女	那覇国際高校
40	伊計美希	Miki Ikei	高校2年	女	宮古高校
41	仲宗根智世	Tomoyo Nakasone	高校2年	女	宮古農林高校
42	佐久田智世	Tomoyo Sakuda	高校2年	女	宮古農林高校
43	川口真未	Mami Kawaguchi	高校2年	女	首里東高等学校
44	池原理一	Riichi Ikehara	高校2年	男	普天間高校
45	宝蔵寺祐司	Yuji Hozoji	高校2年	男	普天間高校
46	仲間明奈	Akina Nakama	高校3年	女	宮古高校
47	茶畑美加	Mika Chabata	高校3年	女	小禄高校
48	新崎舞	Mai Arasaki	高校3年	女	小禄高校
49	比屋根恵美	Megumi Hiyane	高校3年	女	南風原高校
50	真謝絵美	Emi Maja	高校3年	女	名護高校

平成13年度 参加者名簿

第3回世界のウチナーンチュ大会 海外

	氏 名	年 令	性 別	国 名	県 人 会 名	引 率 者
1	与儀 エリカ ERIKA YOGI	13	女	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	松堂 ひろみ
2	太田 チオゴ DIOGO TAKAKE OTA	15	男			
3	知花 ムリロ MURILLO CHIBANA	13	男			
4	諸見里 春美 KARINEHARUMI MOROMIZATO	14	女			
5	崎間 ビクトル 達由鯉 VICTORTA TSUYURI SAKIMA	14	男			
6	宮里 昌宏 MARCELO MASAHIRO MIYAZATO UETA	16	男			
7	宮城 ガストン GASTON MIYASHIRO	16	男	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	安里エステラ アレハンドラ
8	比嘉 フェルナルド FERNANDO EZEQUIEL HIGA	14	男			
9	玉那覇 ノルベルト NORBERTO TAMANAHA	14	男			
10	大城 ノエリア NOELIA OSHIRO	11	女			
11	伊芸 ヘラルド GERALDO IGEI KOHATSU	14	男	ペルー	ペルー沖縄県人会	仲宗根 吉修
12	亀甲 マサル MASARU ARTURO KAMEGO	17	男			
13	山城 イサベル ISABEL YAMASHIRO NAKACHI	10	女			
14	比嘉 盛繁 HECIOR ALEXANDER HIGA SHIROMA	17	男			
15	比嘉 恵理子 ERIKO CAROLINA HIGA YAMASHIRO	14	女	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	安谷屋 敬
16	大城 ニカリ NIKARI OSHIRO MURARA	10	女			
17	中田 弘喜 FERNANDO HIROKI NAKATA	12	男			
18	仲村 美恵子 MIEKO NAKAMURA SOKEI	14	女			
19	仲村 ミツオ JOSE MITSUO NAKAMURA OROZCO	14	男	メキシコ	メキシコ沖縄県人会	中村 イルマ ヌネス
20	仲村 ヤスヒロ YASUHIRO NAKAMURA OROZCO	13	男			
21	島田 バグネル 和良 WAGNER KAZUYOSHI SHIMADA	17	男	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会	具志堅 弘
22	具志堅 ノブユキ ANDERSON NOBUYUKI GUSHIKEN	16	男			
23	古謝 景士 RAUL KEISHI KOJA	15	男	ベネズエラ	ベネズエラ沖縄県人会	古謝 いそえ
24	宜保 亜由美 カレン AYUMI KAREN GIBO	14	女	カナダ	バンクーバー沖縄友愛会	仲宗根 功
25	嶺井 真実 MELISSA MAMI MINEI	17	女			
26	金城 茜 MARGARET AKANE KINJO	14	女		レスブリッジ沖縄県人会	浦崎 ジョージ
27	目取真 ジャネル ミホコ JANELLE MIHOKO MEDORUMA	14	女			

平成13年度 参加者名簿

第3回世界のウチナーンチュ大会 海外

	氏名	年齢	性別	国名	県人会名	引率者
28	玉栄 チャールズ CHARLES MASATOMO TAMAE	11	男		北米沖縄県人会	
29	ジョセフ ジョーンズ JOSEPH FREDRIC JONES	15	男		サンディエゴ 沖縄県人会	前田 洋子 (北米沖縄県人会)
30	ブライアン デイビス BRYAN KIYOSHI DAVIS	16	男		ユタ州沖縄県人会	
31	デイビット レイモンド DAVID RICHARD RAYMOND	10	男		ワシントン沖縄県人会クラブ	トシコ パートリー
32	アリシア 恵子 ブレンズ ALICIA KEIKO BERENZ	16	女		シカゴ沖縄県人会	
33	テイル リチャーズ DALE KAORU RICHARDS	16	男		遊友会	
34	ティファニー ファイドラー TIFFANY FIEDLER	14	女		オハイオ 沖縄友の会	洋子 サンダリン (シカゴ沖縄県人会)
35	比嘉 龍児 RYUJI HIGA	16	男		米国東海岸沖縄県人会	
36	落合 北斗 HOKUTO CREIG OCHIAI	17	男	アメリカ	ニューヨーク沖縄県人会	
37	ロバート ファンチェス ROBERT JAMES FUNCHES	15	男		ワシントン D C 沖縄県人会	
38	ケイラ ケンプ KAYLA RENEE CAMP	14	女		アトランタ沖縄県人会	
39	アンディー ライダー ANDY KIYOSHI RIDER	12	男		D FW 沖縄県人会	
40	キム ビセット KIM BISSETTE	15	女		ジャクソンビル沖縄県人会	ルイス 高江洲 佳代子 (アトランタ沖縄県人会)
41	マイケル ハーカー MICHAEL ALAN HARKA	17	男		フェイエットビル沖縄県人会	
42	クリスタル スワンソン CRYSTAL LYNN SWANSON	11	女		ペンサコーラ沖縄県人会	
43	テレサ マリコ モートン TERESA MARIKO MORTON	18	女		フロリダ 沖縄郷友会(がじまる会)	
44	クリストファー ポーティン CRISTOPHER PORTIN	18	男		グアム沖縄県人会	引率者無し
45	マリア ジェイリン ディキアツコ MA. JAYLYNC. DIQUIATCO	15	女			
46	チヨミ サンタローサ ランセス CHIYOMI S.TA. ROSA RANCES	14	女	フィリピン	フィリピン沖縄県人会	トヨコ照屋エリセオ
47	嶋崎 妙恵美 TAEMI SHIMAZAKI	12	女			
48	知念 賢吾 KENGO CHINEN	16	男	フランス	フランス沖縄県人会	知念 睦子
49	石垣 優児 YUJI JOE ISHIGAKI	13	男	イギリス	イギリス沖縄県人会	石垣 栄康
50	松川 ルカ LUCA TOM MUSASHI MATSUKAWA	10	男	ドイツ	ドイツ沖縄県人会	松川 カ

平成14年度 参加者名簿

県内

	氏名	年齢	性別	学校名
1	宮城 聖里香 Serika Miyagi	17	女	辺土名高校
2	大城 奈津紀 Natsuki Ohshiro	16	女	石川高校
3	山城 夢乃 Yumeno Yamashiro	15	女	美里高校
4	宮里 あすか Asuka Miyazato	17	女	宜野湾高校
5	嵩本 哲也 Tetsuya Takemoto	16	男	西原高校
6	西筋 理奈 Rina Irisuji	15	女	那覇高校
7	玉城 智佳 Chika Tamaki	18	女	沖縄女子短大附属高校
8	國場 雄作 Yusaku Kokuba	16	男	豊見城高校
9	又吉 香穂利 Kahori Matayoshi	15	女	糸満高校
10	石井 雄大 Takehiro Ishii	17	男	八重山高校
11	宮里 諒哉 Ryoya Miyazato	15	男	名護市立大宮中学校
12	奥間 友里恵 Yurie Okuma	14	女	金武町立金武中学校
13	與那城 美姫乃 Mikino Yonashiro	12	女	沖縄市立安慶田中学校
14	伊良波 一美 Kazumi Iraha	14	女	沖縄市立山内中学校
15	嘉数 真菜 Mana Kakazu	13	女	浦添市立浦西中学校
16	比嘉 麻臣 Asami Higa	13	女	那覇市立松城中学校
17	平敷 綾 Aya Heshiki	15	女	那覇市立小禄中学校
18	山城 信裕 Nobuhiro Yamashiro	14	男	与那原町立与那原中学校
19	杉山 星河 Seika Sugiyama	12	女	豊見城市立伊良波中学校
20	川平 一之 Kazuyuki Kawahira	14	男	城辺町立福嶺中学校

県外

	氏名	年齢	性別	学校名
1	川崎 麻奈美 Manami Kawasaki	13	女	鶴見中学校
2	金城 香奈 Kana Kinjo	13	女	鶴見中学校
3	糸洲 久美子 Kumiko Itosu	17	女	明浄学院高校
4	與那嶺 美香 Mika Yonamine	12	女	大阪市立天下茶屋中学校

平成14年度 参加者名簿

海外

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	当間 嗣栄 マウリシオ Mauricio Shiei Touma	14	男	4世	ブラジル	ブラジル 沖縄県人会
2	高良 グラウシヤ ネンシー Glauca Nancy Takara	16	女	3世		
3	志良堂 ジャケリネ Jacqueline Shirado	16	女	4世		
4	米須 トマス Tomas Komesu	17	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人 連合会
5	島袋 エリアーナ ビルヒーニア Eliana Virginia Shimabukuro	17	女	3世		
6	広中 山城 ルイス フェルナンド Luis Fernando Hironaka Yamagusuku	14	男	4世	ペルー	ペルー 沖縄県人会
7	ゴンザレス 平良 ハイメ Jaime Gonzales Taira	18	男	3世		
8	仲里 秋奈 Akina Nakazato	17	女	2世	ボリビア	ボリビア 沖縄県人会
9	ロニー ヴェレス 真栄城 Rony Velez Maeshiro	16	男	3世		
10	ナリマン ピーニャフォンテ Narryman Piña Fonte	17	女	4世	キューバ	キューバ 沖縄県人会
11	清本・伊舎良 マツシュー 誠 Matthew Makoto Kiyomoto-Isara	15	男	4世	アメリカ	ハワイ 沖縄連合会
12	伊良波 クリストファー マイケル Christopher Michael Iraha	16	男	4世		
13	比嘉 クリステイン ミヨシ Cristan Miyoshi Higa	17	女	4世		
14	ハウチャー 飛鳥 Asuka Christine Boutcher	17	女	2世		
15	ジョンサン サンダース Johnathan David Saunders	15	男	3世		
16	ジョセフ リー バザード Joseph Lee Buzzard	15	男	3世		
17	藤田 エリザベス 由利子 Elizabeth Yuriko Fujita	17	女	2世	カナダ	トロント 球陽会
18	ミシェル アベダニア ペベニト Michelle Abedania Pebenito	18	女	3世	フィリピン	フィリピン 沖縄県人会
19	ジョネロベス コメロス イグナシオ Jonerobeth Comeros Ignacio	17	女	3世		
20	照屋 なつ子 Natsuko Teruya	15	女	2世	シンガポール	星琉会

引率者

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	具志堅 ジーナ 美千代	32	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新里 ダニエル エステバン	32	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	赤嶺 光弘	56	男	1世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	エステル タマキ トーレス	35	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	呉屋 君子	60	女	1世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	大城 順市	37	男	1世		北加沖縄県人会
7	藤田 みどり	53	女	1世	カナダ	トロント球陽会
8	エステーラ アレホ アドルフォ	48	女	2世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
9	橋本 真理	37	女	1世	シンガポール	星琉会

協 力 団 体

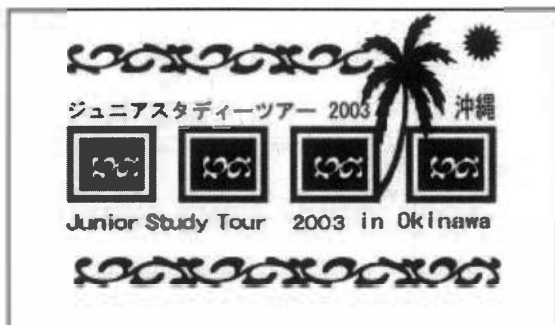
ご協力ありがとうございました。

	名 称
体験学習	琉球村
歴史学習	沖縄県観光ボランティアガイド友の会
平和学習	県立平和祈念資料館
〃	平和祈念堂
自然学習	国頭村エコツーリズム協会
ボランティア	沖縄尚学高校地域国際交流クラブ

制 作 物

- 募集要項
- 各国ガイドブック
- ウェルカムボード
- 記念アルバムビデオ
- 横断幕
- 修了証
- ネームプレート
- Tシャツ
- 学習ツール

ジュニアスタディーツアーTシャツのプリント
 平成14年度県費留学生
 ヘルナンデス エミ子 マリアさん(北米)がデザイン



フロント



バック

参加申込書・調査票

第2号様式

2003年度ジュニアスタディーツアー

2003年 月 日

海外参加者申込書

県人会名			
ふりがな		写 真 (縦4cm×横3cm) カラー・白黒どちらでも可	
パスポート氏名 (漢字・カタカナで正確に)			
FAMILY NAMES (7alf7aへハ大文字で)			
GIVEN NAMES (7alf7aへハ大文字で)		カラー・白黒どちらでも可	
生年月日	年 月 日	年 齢 (2002.4.1時点)	才
学 年		性 別	M ・ F
血液型		国 籍	
世 代	日系 世	沖縄に来るのは (今回で)	回目
日本語・聞く力 (番号に○をつける)	0・1・2・3・4 できない 中級 よくできる	パスポート有無	有 ・ 無
日本語・話す力 (番号に○をつける)	0・1・2・3・4 できない 中級 よくできる	パスポート期限	年 月まで有効
現 住 所 (現地の言語・活字体で丁寧に記入)			
E-mail			
得意な事・趣味・ 人前で披露できる事			
沖縄県内連絡先 (親戚・知人)		住 所	
		氏 名	電 話
保 護 者	氏 名		
	本人との続柄	出身市町村	
	連絡先 (電話番号)	(国番号から記入)	
私は、上記の者(被保護者)が「2003年度ジュニアスタディーツアー」に参加する事に同意いたします。 署名			
備 考 (病気・薬・食事・その他)			

様式2号

平成15年度ジュニアスタディーツアー

平成15年 月 日

県内参加者申込書

県人会名			
ふりがな		写 真 (縦4cm×横3cm) カラー・白黒どちらでも可	
氏 名			
(7alf7aへハ大文字で)			
学 校		学 年	
生年月日(西暦で記入)	年 月 日	年 令	
性 別	男 ・ 女	血液型	
住 所			
電 話		F A X	
E-mail(携帯メール可)			
特技・資格			
趣味・ 人前で披露できる事			
外国語が話せる 英語・スペイン語・ポルトガル語・()			
保 護 者	氏 名	本人との続柄	
	電 話	携帯電話	
	私は、上記の者(被保護者)が「平成15年度ジュニアスタディーツアー」に参加する事に同意いたします。 署名		
備 考 (健康上について・薬・食事等)			

第3号様式

2003年度ジュニアスタディーツアー

2003年 月 日

海外引率者調査表

県人会名			
ふりがな		写 真 (縦4cm×横3cm) カラー・白黒どちらでも可	
パスポート氏名 (漢字・カタカナで正確に)			
FAMILY NAMES (7alf7aへハ大文字で)			
GIVEN NAMES (7alf7aへハ大文字で)		カラー・白黒どちらでも可	
生年月日	年 月 日	年 齢	才
性 別	M ・ F	国 籍	
世 代	日系 世	沖縄に来るのは (今回で)	回目
日本語・聞く力 (番号に○をつける)	0・1・2・3・4 できない 中級 よくできる	パスポート有無	有 ・ 無
日本語・話す力 (番号に○をつける)	0・1・2・3・4 できない 中級 よくできる	パスポート期限	年 月まで有効
使用言語 (○をつける) 英語 ・ スペイン語 ・ ポルトガル語 ()			
現 住 所 (現地の言語・活字体で丁寧に記入)			
連絡先 (電話番号)			
FAX番号 (国番号から記入)			
E-mail			
沖縄県内連絡先 (親戚・知人)		住 所	
		氏 名	電 話
履歴事項 (簡潔に)			
引率者の同意 私は、「2003年度ジュニアスタディーツアー」に引率者として参加し、ツアー期間中、引率者としての業務に積極的に貢献することに同意します。 署名			
備 考 (病気・薬・食事・その他)			

様式2号

2003年度ジュニアスタディーツアー

2003年 月 日

県外参加者申込書

県人会名			
ふりがな		写 真 (縦4cm×横3cm) カラー・白黒どちらでも可	
氏 名			
(7alf7aへハ大文字で)			
学 校		学 年	
生年月日	年 月 日	年 令 (2003.4.1時点)	才
性 別	男 ・ 女	血液型	
住 所			
電 話		F A X	
E-mail(携帯メール可)			
特技・資格			
趣味・ 人前で披露できる事			
外国語が話せる 英語・スペイン語・ポルトガル語・ドイツ語・フランス語・()			
保 護 者	氏 名	本人との続柄	
	電 話	携帯電話	
	私は、上記の者(被保護者)が「2003年度ジュニアスタディーツアー」に参加する事に同意いたします。 署名		
備 考 (既往症・薬・食事・他)			

平成15年度ジュニアスタディーツアー ウェルカムパーティー式次第

日時:平成15年7月21日(月)19:00～20:30

場所:船員会館 2階会議室

司会:(財)国際交流・人材育成財団
国際交流課長 西原 健

- 1 開 会
- 2 歓迎のあいさつ 沖縄県文化環境部長 屋嘉部 長市
- 3 乾 杯 (財)国際交流・人材育成財団理事長 津嘉山 朝祥

～ 食事・懇談 ～

- 4 余 興 (司会:沖縄尚学院高等学校)
 - (1) ピアノ演奏 渡慶次山城マリアガブリエラ(ペルー)
 - (2) ピアノ演奏 仲本山城ダニエラ(ペルー)
 - (3) 三味線演奏 新城真由美(ブラジル)
 - (4) ダンス ディナマエ エロイ リエゴ(フィリピン)
パトリシア レジーナ ノセダ ロペス(フィリピン)
 - (5) ウズンビーラ(沖縄伝統芸能) 沖縄尚学院高等学校
- 5 閉 会

平成15年度ジュニアスタディーツアー サヨナラパーティー

平成15年7月27日(日)

沖縄・都ホテル 綾羽の間

修了式(18:30～19:00)

司会:沖縄県国際交流課長 知念 英信

- 1 開式
- 2 主催者あいさつ……知事(代読:沖縄県文化環境部部長)
- 3 修了証授与
- 4 感謝状贈呈
- 5 閉式

サヨナラパーティー(19:05～20:30)

司会:(財)沖縄県国際交流・人材育成財団国際交流課長

- 1 開会
- 2 乾杯の音頭……(財)沖縄県国際交流・人材育成財団理事長 津嘉山 朝祥
- 3 懇談
- 4 ジュニアスタディーツアー「思い出のアルバム」
- 5 余興 (司会:沖縄尚学高等学校)
 - (1) 台湾の踊り: 地域国際交流クラブ
 - (2) 「エル ディア ケ メ キエラス」 諸喜田マリネ 井口セシリアみどり(アルゼンチン)
安座間平敷ファン喜勝(ペルー)
 - (3) 「安里屋ユンタ」 新城真由美(ブラジル) 安里みちよ 稲福陽香 村吉梨華子
 - (4) 「コンドルは飛んでいく」 仲本山城ダニエラ(ペルー)
 - (5) 「ビルヘネス デル ソル」 渡慶次山城マリアガブリエラ(ペルー)
 - (6) 「レロン レロン シンタ」 ディナマエ エロイ リエゴ、
パトリシア レジーナ ノセダ ロペス(フィリピン)
 - (7) 「花」「ハイサイおじさん」 安座間平敷ファン喜勝(ペルー)
- 6 閉会

○評価点

- (1) 様々なプログラムを通して沖縄の歴史・文化・自然等を学んでいくことにより、海外参加者・国内参加者間で言葉を越えたコミュニケーションができ、大変意義深いツアーとなった。
- (2) 昨年、一昨年に引き続き沖縄尚学高等学校地域国際交流クラブの方々には大変お世話になった。彼らのレクリエーションのお陰で参加者間の緊張も溶け、大変盛り上がる事ができた。
- (3) 今年度から比地大滝、海洋博でのビーチレクリエーションでは、養護教員派遣を教育庁にお願いした。安全面等において大変心強かったので今後も続けたい。

○反省・要望点

- (1) 来沖前に、各県人会においてホームステイ先の親戚との調整を行ってほしい。
また、ホームステイ先ではおみやげ購入などを一緒に行ってもらうようお願いする。(ツアー期間中はお土産を購入する時間があまりないので。)
- (2) 海外県人会推薦の参加者についてはできる限り、男女のバランスを考慮してもらう。
- (3) 海外参加者はせめて日本語能力3級レベルがほしい。県内参加者等とのコミュニケーションがむつかしい。とれず、母国語が日本語組、スペイン語組、英語組と別れてしまうので。
- (4) 那覇空港では現地通貨から日本円への両替ができないので、国内の空港等に到着次第、各自で両替を行ってもらよう事前に参加者に伝えておく必要がある。
- (5) 日中大変暑くなるので学習ツールにうちわを入れるとよい。
- (6) 海外参加者の出身地・国の紹介をしてもらうプログラムを日程に組み込むとお互いの理解がより深まると思われる。



の工夫や、入試で読書体験を評価することなどを提言。「図書館に行く時間が確保できない」と指摘し、教育活動に「読書の時間」を設けることも検討するよう求めた。

8カ国から19人 県系子弟が来沖

28日まで交流体験
海外県系子弟を招待

し、体験学習を通して沖縄とのきずなを深める。二〇〇三年度のジュニアスタディーツアーの歓迎セレモニーが二十二日午前、県庁一階県民ホールで開かれた。写真は、今年度はブラジルやアルゼンチン、ペルー、ボリビアなど八カ国から十九人の子弟が来沖。国内、県内の中高生二十四人とともに、沖縄の自然や歴史、文化などに触れながら交流を深める。

同事業は、二〇〇二年の第三回世界のウチナーンチュ大会のプレイベントとして実施され、海外沖縄県人会の要望に応えて毎年継続している。ペルーから参加した渡慶次・山城・マリア・ガ

ブリエラさんと仲本・山城・ダニエラさんが「沖縄についていろいろ勉強しながら多くの人と友達になりたい」と抱負を語った。

琉球新報 7月23日

ボリビア

県の招待で 2人が訪沖

ジュニアスタディーツアー

年生と、神谷ナオミさん（巴）サンタクルス市在住、アメリカン・スクーール八年生。写真の二人が参加する。

同ツアーは七月二十一日から二十七日までの日程で実施される。ボリビアからは毎回参加しており、参加した子どもたちはいろいろなことが体験できて、人とのふれあい、考え方を学ぶことができた」と好評を博している。

【山城淳通信員】沖縄県が海外の県系子弟を招待し、県内の中学生と



神谷ナオミさん

比嘉さんは「すべてのことを体験し、新しい人たちと出会い、交流が深まればと思う。また、日本の長所をボリビアで紹介、いろいろな面で活用したい」と話した。

さまざまな体験学習プログラムを行うジュニアスタディーツアーに、今年もボリビアから、比嘉浩二さん（モ）オキナワ第一移住地在住、サンフランシスコ・ハビエル高校四年生と、神谷ナオミさん（巴）サンタクルス市在住、アメリカン・スクーール八年生。写真の二人が参加する。

沖縄タイムス 7月19日

年重ね、募る思い胸に

亡き母の親類捜す



米軍属のエンジニアだったコーラさんの父親が、在沖米軍基地に勤務していたトシコさんと出会った。一九五三年に



フィリピンのコーラさん

45年ぶり沖繩の地に

米軍属だったフィリピン人の父と、沖縄出身の母の間に生まれたマリア在住の女性がこのほど来沖、亡くなった母親の親類を捜している。コーラ・アセルデンさんだ。母親の名前は「ブルゲントシコ」。四十五年ぶりに沖縄の地を踏んだコーラさんは「祖父母、母のきょうだいがいればぜひ会いたい。母がどんな人だったのかを聞いてみたい」と、思いを募らせる。

年齢は四十歳ぐらいたったという。マリアで、トシコさんは日本人であることを隠し、中国人と説明していた。当時、フィリピンでは太平洋戦争の旧日本軍の加害行為を批判する映画が多く、日本人は差別や憎しみを込めて「ハボ

左の女性が母親の「ブルゲントシコ」さん。中央の少女がコーラさん(1957年ごろ、沖縄で撮影)

ンと呼ばれていたためだ。

母が日本人と知ったのは大学生のころ。日本語を学んでいたコーラさんに、父のエキスゲルさんが「あなたのお母さんも日本人なんだよ」と明かした。

九九年に父も死去。年を重ねるにつれ、母と沖縄への思いが強くなっ

た。沖繩で一家は那覇市と古波蔵か楚辺に住んでいた。父親は一家の前の坂の途中には風呂屋があった。裏は山だった」と話していたという。

コーラさんは、本年度の県国際交流課のジュニアスタディーツアーの引率で二十八日朝まで滞在。「母が沖縄の家族と連絡を取っていたかもわ

沖繩タイムス7月20日

コーラさん親類と対面

いとこ連絡「言葉にできない」

母親が沖縄出身で、フィリピン・マニラ在住のコーラ・アセルデンさん(46)の親類が見つかった。那覇市内の滞在先に二十日夜、コーラさんの募る思いを報じた本紙を読んだ同市在住のいとこから電話が入り、古堅裕巳さん(50)＝那覇市西＝らと会った。四十五年ぶ

りの沖縄訪問で、初めて「たコーラさん。」「こんな母親の足跡にたどり着い」に早く会えるとは…。言



葉にできない」。親類との「再会」にコーラさんは感極まった。

一九五三年、コーラさんは米軍属だったフィリピン人の父親と、在沖米軍基地に勤務していた「フルゲントシコ」さんとの長女として生まれた。家で五七、八年ごろに渡比し、トシコさんは六六年に亡くなった。

古報は午後五時五十分ごろ、滞在先の県職員平川理恵子さん方に入った。外出先から呼び戻された親類宅に駆けつけ、

手を握り合い対面を喜ぶコーラさん(右)と古堅裕巳さん(右から)と親類ら＝那覇市西＝。古堅裕巳さんの自宅。

いとこらと「再会」したコーラさん。カダカナでしか知らなかった母の名は「古堅下シ子」で、叔父叔母も五人いたことが分かった。

一家がフィリピンへ渡ってからも兄弟姉妹で手紙のやりとりをしていたが、トシコさんが亡くなり、その後は音信が途絶えていた。六月下旬には長男の宗盛さんも亡くなっていた。宗盛さんは息子の裕巳さんに「渡比したトシ子の家族はどうなっているだろう」と気にかけていたという。

「小さいころのコーラさんを覚えている。再会できてうれしい」と裕巳さん。四十年以上前の記憶が鮮やかによみがえった様子で、昔話に花を咲かせた。

コーラさんは「今度は子どもたちを沖縄に連れてきたい」。晴れ晴れとした表情を見せた。

沖縄タイムス平成7月21日

【アリカ】
玉城由美さん沖縄へ／スタテイツアーツ／父の郷土で体験学習

沖縄県主催の今年のジュニア・スタテイツアーツに北米沖縄県人会から玉城由美さん(16)が参加する。海外移住者の子孫たちに母県沖縄についての知識を得てもらふことと、海外の県系人社会の次世代の人材育成を後押しすることが目的。



玉城由美さん

引率者の伊波祐子・タラテイツアーツニさんと一緒に7月中旬に沖縄入りし、他の参加者18人と合流、1週間行動を共にする。21日から28日までの1週間、世界有数の海を誇る自然学習、首里城などの歴史学習、伝統芸能などの文化学習、平和資料館などの平和学習、県庁や米軍基地などの沖縄の社会学習と、びっりの日程だ。

玉城さんはオレゴン州ワシントン・バーリー高校3年生で、将来は料理士を夢見ている。浦添市牧港出身の父親・正行さんと東京出身の母親・あやかさんとの間に生まれた二世。UCCLAに通学する大学生の姉と4人家族。

「1歳の時に両親に連れられて沖縄を初めて訪れた。今回、沖縄ではできるだけ多くの人々に接し、その生活状況、沖縄の文化、自然などを観察していきたい」と抱負を語る。「10歳ぐらいの時、琉球国際リトブルグラーフの一員として、二世ウエイブで沖縄県人会・芸能部の琉球舞踊に交じってリトル東京をパレードした思い出がある。自分を選んでくれた沖縄県庁の方々、ツアーツメンバーを受け入れた沖縄県庁の皆さんに感謝の念で胸がいっぱい、その日が待ち遠しい」と語った。(当銘貞夫・北米通信員)

【ベルー】
ジュニア研修終了し帰国／渡慶次さんら2人



第3回ジュニア・スタテイツアーツに参加した渡慶次ワリアツアーツさん(左)と仲本ダニエラさん

沖縄県の第3回ジュニア・スタテイツアーツにベルーから参加した渡慶次ワリアツアーツさん(14)と仲本ダニエラさん(15)が、研修を終えこのほどベルーに戻った。渡慶次さんら2人は沖縄をはじめカナダ、米国、フアリッドフ、アルゼンチン、ボリビアなど各国からの参加者と交流し友好を築めた。

2人は「沖縄ではとてもお世話になった。各国からの参加者は、以前からの友達のように、イチヤリハ兄弟のことわざを肌で感じた」と話した。(松田マヌエル・ベルー通信員)

琉球新報・世界のウチナーンチュ・ネット

2003/7/14

【ベルー】
県スタテイツアーツに参加／渡慶次さん、仲本さん

ベルー沖縄県人会(赤嶺光弘会長)は沖縄県の第3回ジュニアスタテイツアーツ参加者に渡慶次ワリアツアーツさん(14)と仲本ダニエラさん(15)を選出したと発表しました。

このほど開かれた同県人会主催の宴会の席上、山城晃文化・演芸部長が2人を紹介した。2人は「沖縄の歴史、文化、自然などの体験学習を通して母県沖縄とのきずなを強くしたい」と胸を躍らせている。(松田マヌエル・ベルー通信員)



ジュニアスタテイツアーツに参加する渡慶次ワリアツアーツさん(左)と仲本ダニエラさん(中央)

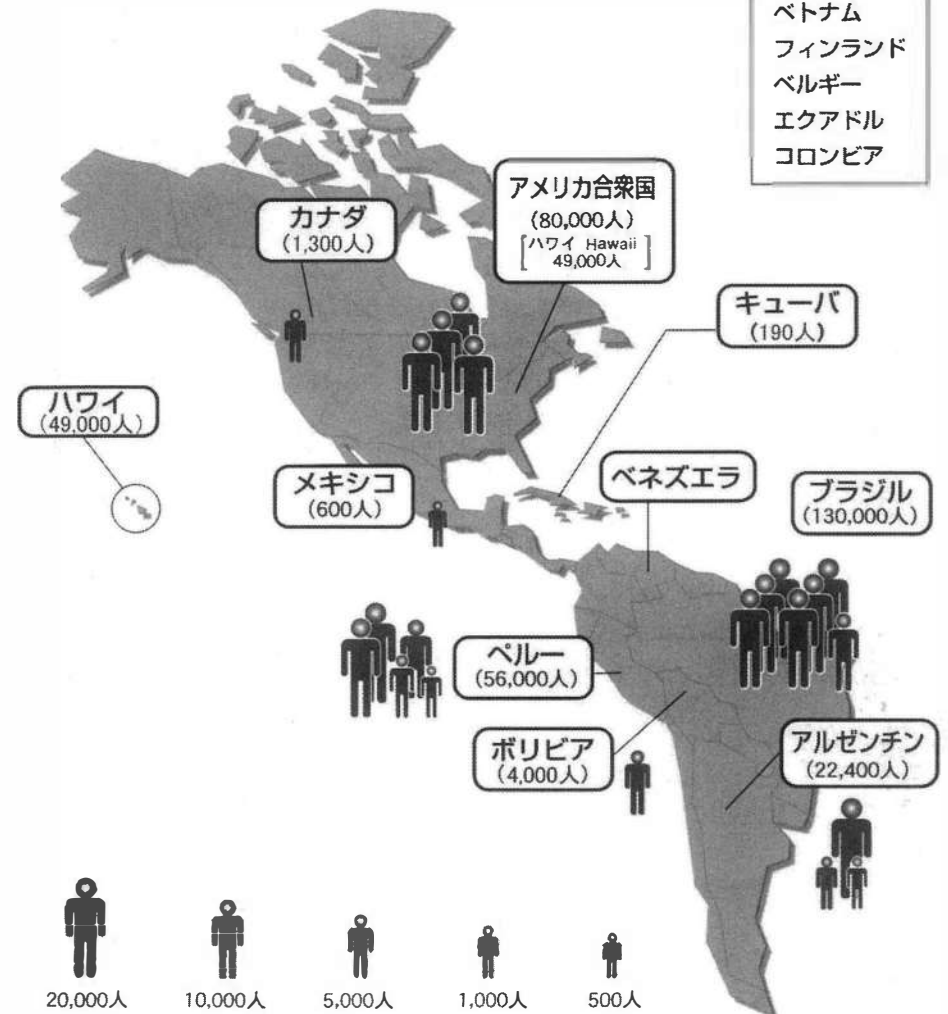
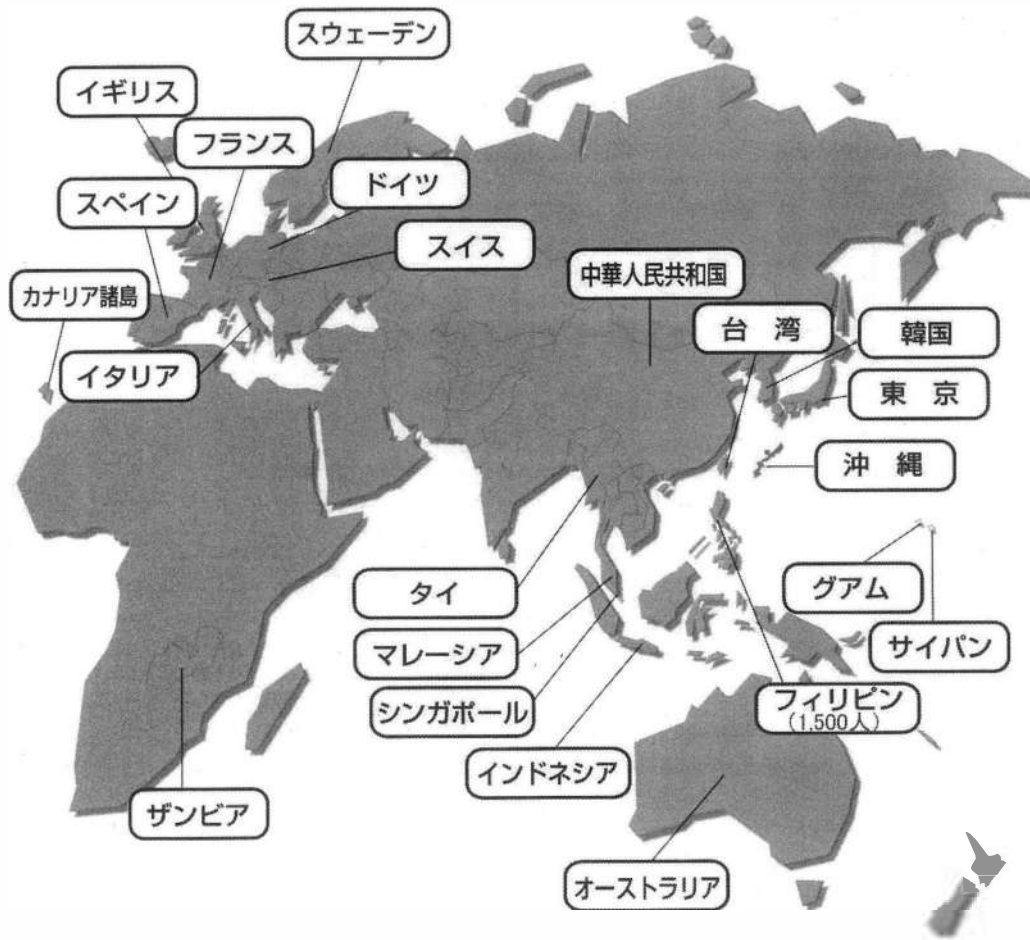
琉球新報・世界のウチナーンチュ・ネット

2003/9/16

琉球新報・世界のウチナーンチュ・ネット

2003/7/22

世界で活躍するウチナーンチュ



- その他の国
- カンボジア
 - ベトナム
 - フィンランド
 - ベルギー
 - エクアドル
 - コロンビア

国際交流関連業務概要より

平成12年10月現在 外務省領事移住部発行の「海外在留邦人数調査統計」に基づく県人数の推計。

平成15年度ジュニアスタディーツアー報告書

(平成16年2月発行)

発行／沖縄県文化環境部国際交流課
〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2
TEL 098-866-2479 FAX 098-869-9073

財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団
〒900-0085 那覇市東町1-1 那覇市東町開館7階
TEL 098-941-6755 FAX 098-941-6812

編集／財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

印刷／有限会社 金城印刷
〒901-0305 沖縄県糸満市西崎町5-9-16
TEL 098-995-0001 FAX 098-994-9886